2013年3月

「2012年　高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」報告書

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都千代田区　代表取締役社長：鬼頭 秀彰）が運営する、リクルート進学総研では、全国の国・公・私立高校の進路指導主事を対象に、進路指導・キャリア教育の実態についてのアンケート調査を隔年で実施しています。2012年調査では、進路指導の困難度合いや取り組み、キャリア教育の進捗状況、大学の秋入学に対する考えなどについて調査しました。その分析結果をまとめましたので、ご報告申し上げます。

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ　リクルート進学総研

TOPICS

Ⅰ－1．進路指導の困難

■「非常に難しい」と感じている割合は35％
全体の9割以上が難しさを感じている点は08年以降変わらず

・過去調査と比べると、「非常に難しい」は前回よりも3ポイント減少したが、難しい・計の割合は依然9割以上と高どまりの傾向。

■難しさを感じる最大要因のトップは、前回に引き続き「家庭・家族環境の悪化（家計面）」。
「進路選択・決定能力の不足」が前回より微増して2位に

・前回に比べ微増したのは、「進路選択・決定能力の不足」「進路環境変化への認識不足」「教員の実社会に関する知識・経験不足」など。（2.0ポイント以上増加した項目）

Ⅰ－2．進路指導の取り組み

■高大連携など外部との連携項目が全般的に増加

■進路指導時に生徒の進学先として重視する点のトップは「学びたい学部・学科・コースがあること」、2位は「学生の面倒見が良いこと」

■高大接続・連携の観点から大学・短大に期待することのトップは、前回同様「わかりやすい学部・学科名称」

Ⅱ－1．キャリア教育の実施状況

■新学習指導要領への対応状況は、「対応できている」が8割近くと前回（61％）から大幅に増加

・「十分対応できていると思う」は9％、「ある程度できていると思う」68％まで合わせた、「（対応）できている・計」は77％と、前回（61％）から大幅に増加した。

■事前活動、プログラム作成、連携などを中心にほとんどの項目が増加

・「キャリア教育は特に行っていない」は6％と、08年から毎回減少している。

Ⅱ－2．キャリア教育の評価

■全体の約8割が「自校のキャリア教育は生徒の役に立っている」と回答

■キャリア教育に対する考えとしては、「生徒にとって有意義」が6割近くと前回同様トップ

・キャリア教育に対してポジティブな意見が増加し、ネガティブな意見は減少傾向。

Ⅲ－1．大学・短期大学・専門学校の「高校訪問」「校内相談会」に対する評価

■外部の「高校訪問」について、満足している割合は全体の25％。不満・計が満足・計を上回る

・「高校訪問」に対する不満理由のトップは「事前にアポイントを取らない」、ついで「訪問回数が多い」。

■提供してほしい情報のトップは「就職状況・就職実績」、ついで「入試に関する情報」

■大学・短期大学・専門学校を招いた「校内相談会」の実施は5割

・実施している学校の8割近くが“満足している（満足・計）”と回答

Ⅲ－2．大学の「秋入学」に対する評価

■全体の18％が大学の「秋入学」に“賛成”。“反対”（36％）が“賛成”を上回る結果

■賛成・反対の理由は、いずれも「高校を卒業してから大学入学までの期間」がトップ。
“ギャップターム（高校を卒業してから大学入学までの期間）”の使い方の捉え方が意見の分かれ目

■秋入学が導入された場合、「大学の国際化は推進される」と思う割合は4割弱

CONTENTS

調査概要・回答者プロフィール 4

第Ⅰ部 進路指導の実態

1. 進路指導の困難 5

1）進路指導の難易度 5
2）進路指導の難しさの要因 6
3）進路指導の難しさの最大要因 8
【フリーコメント①】生徒の問題でどのような困難が生じているか 10
【フリーコメント②】保護者の問題でどのような困難が生じているか 11
【フリーコメント③】学校の問題でどのような困難が生じているか 12
【フリーコメント④】進路環境の問題でどのような困難が生じているか 13

2. 進路指導の取り組み 14

1）進路指導で実施している取り組み事項 14
2）進路指導時に生徒に伝えること 18
3）進路指導時に生徒の進学先として重視する点 20
4）高大接続・連携／大学・短期大学・文部科学省に期待すること 22
5）高専接続・連携／専門学校・行政に期待すること 24
【フリーコメント⑤】大学・短大・専門学校との接続・連携についての意見・課題 25

第Ⅱ部 キャリア教育の実態

1. キャリア教育の実施状況 27

1）キャリア教育担当部署の設置状況 27
2）キャリア教育担当部署名・部門名 28
3）キャリア教育実施時間 29
4）キャリア教育の進捗状況 30
5）キャリア教育の新学習指導要領に対する対応度 32
【フリーコメント⑥】新学習指導要領に対するキャリア教育の対応状況 33
【フリーコメント⑦】キャリア教育に対する取り組みの具体的な内容 34
【フリーコメント⑧】キャリア教育を進めて行くうえでの障害 35

2. キャリア教育の評価 36

1）キャリア教育の役立ち度 36
2）キャリア教育の推進による学校や生徒の変容度 37
3）キャリア教育に対する考え 39
【フリーコメント⑨】キャリア教育に対する考え：「最も」そう思う理由 41

第Ⅲ部 上級学校の活動および方向性についての評価

1. 大学・短期大学・専門学校の「高校訪問」「校内相談会」に対する評価 42

1）大学・短期大学・専門学校の「高校訪問」満足度 42
2）大学・短期大学・専門学校の「高校訪問」の不満理由 43
3）高校訪問の際に提供してほしい情報 44
4）「大学・短期大学・専門学校」を招いた校内相談会実施状況 46
5）「大学・短期大学・専門学校」を招いた校内相談会実施についての満足度 47
6）「大学・短期大学・専門学校」を招いた校内相談会実施時期と目的 48

2. 大学の「秋入学」に対する評価 50

1）大学の「秋入学」の実施賛否とその理由 50
2）「秋入学」と大学の国際化に対する考え 52
【フリーコメント⑩】秋入学の導入と大学の国際化についての見通し 53

＜調査概要＞

- 調査対象：全国の全日制高校4898校の進路指導主事
- 調査期間：2012年10月15日～10月31日（11月5日到着分までを集計対象とした）
- 調査方法：郵送法
- 回収数：1209
- 有効回答数：1179
- 回答者平均年齢：48.05歳

＜回答者プロフィール＞

■高校設置者（全体／単一回答）　（%）

	調査数	国公立	私立	無回答
2012年：全体	1179	74.6	24.9	0.5
2010年：全体	1208	74.5	24.8	0.7
2008年：全体	910	74.2	25.5	0.3

■高校タイプ（全体／単一回答）　（%）

	調査数	普通科・計		総合学科・計		専門高校・計				その他	無回答	普通科・計	総合学科・計	専門高校・計
		普通科単独校	普通科中心で学科併設校	総合学科単独校	総合学科併設校	工業を中心とする高校	商業を中心とする高校	家政を中心とする高校	農業を中心とする高校					
2012年：全体	1179	54.3	19.1	5.8	1.3	5.8	3.4	0.4	2.0	4.7	3.2	73.4	7.0	11.6
2010年：全体	1208	53.0	20.4	6.5	1.0	5.5	4.5	0.2	3.5	4.2	1.3	73.3	7.5	13.7
2008年：全体	910	53.5	19.8	4.4	1.3	7.4	4.1	0.4	3.5	4.5	1.1	73.3	5.7	15.4

■高校所在地（全体／単一回答）　（%）

	調査数	北海道	東北	関東・甲信越	北関東・甲信越	南関東	東海・北陸	東海	北陸	関西	中国・四国	九州沖縄	無回答
2012年：全体	1179	7.5	10.3	28.8	11.5	17.3	15.1	12.7	2.4	13.2	11.6	12.9	0.5
2010年：全体	1208	7.9	10.1	29.4	17.5	11.9	14.6	11.6	3.0	12.7	12.4	12.2	0.7
2008年：全体	910	9.0	9.7	28.2	＊	＊	16.9	＊	＊	12.1	12.3	11.4	0.3

■校務分掌（全体／単一回答）　（%）

	調査数	進路指導主事	進路指導担当	学年担当	学年主任	校長	教頭（副校長）	その他	無回答
2012年：全体	1179	84.4	11.9	5.9	1.2	—	0.3	2.4	2.8
2010年：全体	1208	84.1	14.5	7.0	1.5	—	0.2	2.4	1.3
2008年：全体	910	84.5	12.4	7.8	2.9	—	0.3	2.7	1.6

■中高一貫・中学校併設状況（全体／単一回答）　（%）

	調査数	有	無
2012年：全体	1179	18.1	81.9
2010年：全体	1208	18.2	81.8

■キャリア教育の研究指定状況（全体／単一回答）　（%）

	調査数	有	無
2012年：全体	1179	4.3	95.7
2010年：全体	1208	5.9	94.1

■大学短大進学率（全体／単一回答）　（%）

	調査数	70%以上	40～70%未満	40%未満	無回答
2012年：全体	1179	45.7	19.8	32.9	0.5
2010年：全体	1208	41.5	21.1	36.7	0.7
2008年：全体	910	37.8	23.1	38.8	0.3

※「＊」は該当項目データなし

第Ⅰ部　進路指導の実態

1.進路指導の困難

1)進路指導の難易度

▶「非常に難しい」と感じている割合は35％

▶全体の9割以上が難しさを感じている点は、08年以降変わらず

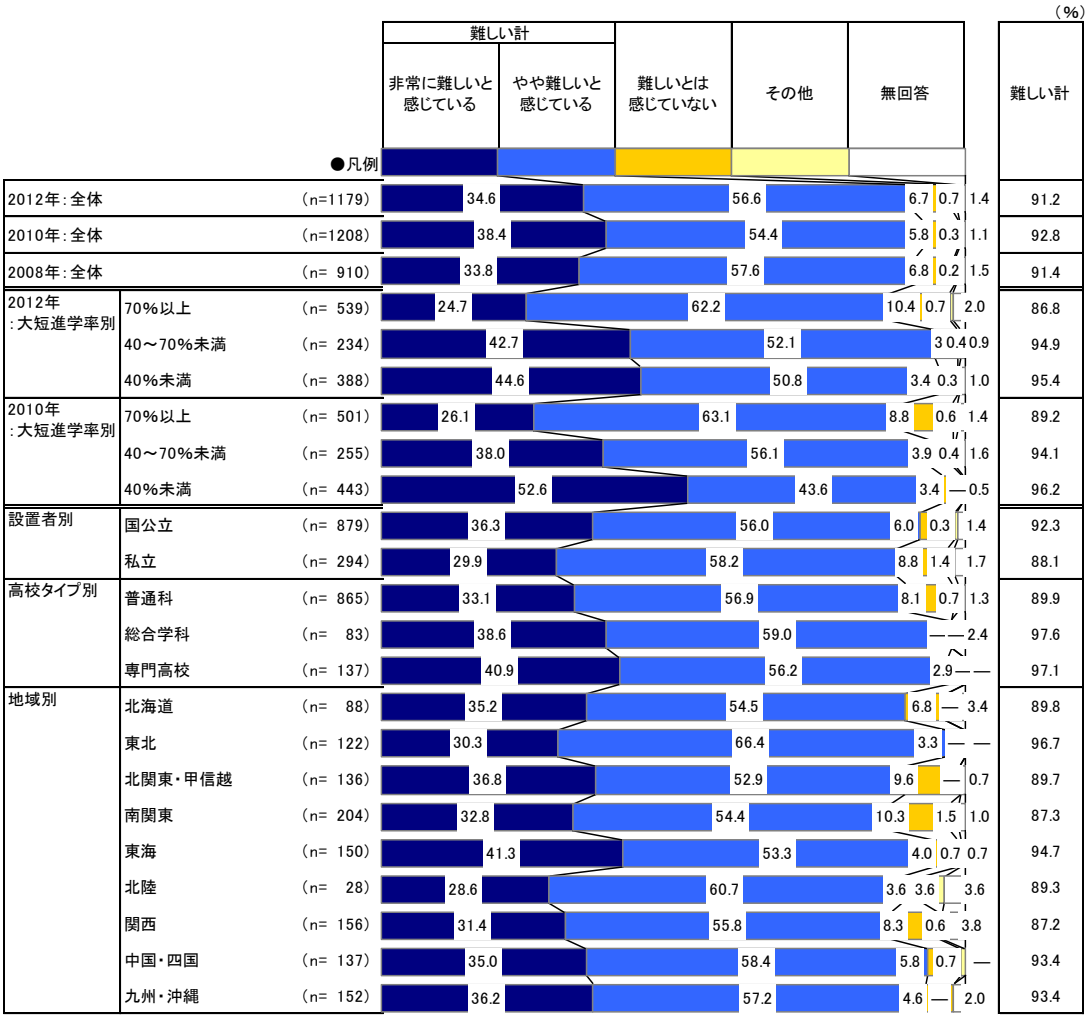
- 現在、進路指導を難しいと感じているかという質問に、進路指導主事を中心とする回答者の35%が「非常に難しい」と回答。「やや難しい」の57%と合わせると9割以上が進路指導を難しいと感じている。過去調査と比べると、「非常に難しい」は前回よりも3ポイント減少したが、難しい・計の割合は依然9割以上と高どまりの傾向にある。

- 大短進学率別にみると、進学率が低い高校ほど「非常に難しい」と感じる割合が多い。前回に比べ、「非常に難しい」と感じる割合が増加したのは大短進学率[40～70%未満]のみ。[40%未満]の学校では、「非常に難しい」が45%と前回（53%）から10ポイント近く減少した。

- 設置者別にみると、「非常に難しい」と感じる割合は、私立よりも国公立、高校タイプ別では普通科よりも総合学科や専門高校で高くなっている。

- 地域別にみると、「非常に難しい」が最も多いのは東海（41%）。ついで北関東・甲信越(37%)、九州・沖縄（36%）、北海道、中国・四国（35%）。反対に最も低いのは北陸（29%）、ついで東北（30%）
  - ・前回は4割を超える地域が3つ（中国・四国、関西、北海道）あったが、今回は東海のみ。

■ 進路指導の難易度：時系列比較（全体／単一回答）



2）進路指導の難しさの要因

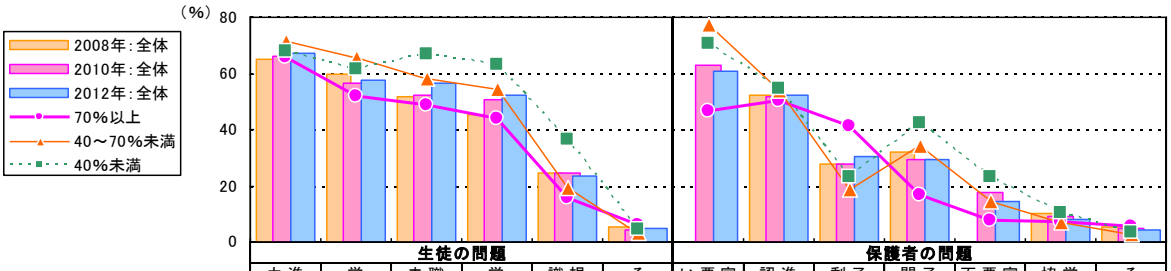
▶08年以降、トップは【生徒】の「進路選択・決定能力の不足」

- 現在の進路指導を「非常に難しい・やや難しい」と回答した人にその要因をすべてあげてもらったところ、最も多かったのは【生徒】の「進路選択・決定能力の不足」67%。以下、【保護者】の「家庭・家族環境の悪化（家計面）」61%、【学校】の「教員の進路指導に関する時間不足」59%、【生徒】の「学習意欲の低下」58%、「職業観・勤労観の未発達」57%と続く。

- 前回と比べ増えたのは、【生徒】の「職業観・勤労観の未発達」、【保護者】の「子どもに対する過剰な期待」、【学校】の「教員の実社会に関する知識・経験不足」、【進路環境】の「仕事や働くことに対する価値観の変化」など。反対に大きく減少したのは、【進路環境】の「高卒就職市場の変化」や「産業・労働・雇用環境の変化」。
  - ・その他にも【保護者】の「家庭・家族環境の悪化・計（家計面+家計面以外）」や【学校】の「教員の進路指導に関する時間不足」、【進路環境】「入試の易化」も前回に比べ減少した項目にあるが、前述の項目も含め、実社会の問題が改善されているとは捉えがたい。

- 大短進学率別にみると、全般的に[40～70%未満]と[40%未満]の数値が高い項目が多い。
  - ・[70%以上]　① 進路選択・決定能力の不足　② 教員の進路指導に関する時間不足　③入試の多様化
  - ・[40～70%未満]　①家庭・家族環境の悪化（家計面）　②進路選択・決定能力の不足　③学習意欲の低下
  - ・[40%未満]　①家庭・家族環境の悪化（家計面）　②進路選択・決定能力の不足　③職業観・勤労観の未発達

■ 進路指導の難しさの要因（進路指導は難しいと感じている者／複数回答）



	調査数	進路選択・決定能力の不足	学習意欲の低下	職業観・勤労観の未発達	学力低下	規範意識・道徳意識の低下	その他	家庭・家族環境の悪化：家計面について	進路環境変化への認識不足	子どもに対する過剰な期待	子どもに対する関心・放任	家庭・家族環境の悪化：家計以外の面について	学校や教師への非協力	その他
2012年：全体	1075	（1）67.3	（4）57.6	（5）56.8	（7）52.1	（18）23.7	（23）4.7	（2）61.0	（6）52.2	（12）30.2	（14）29.1	（21）14.4	（22）7.9	（25）4.1
2010年：全体	1121	（1）66.2	（4）56.8	（6）52.4	（8）50.5	（16）24.7	（25）4.5	（2）62.7	（7）51.7	（14）27.5	（13）29.4	（21）17.5	（22）9.3	（23）4.8
2008年：全体	832	（1）65.0	（4）60.0	（6）51.9	（8）45.3	（15）24.4	（20）5.5	＊＊	（5）52.2	（12）27.9	（11）32.2	＊＊	（19）10.3	（22）5.3
【2012年属性別】														
大短進学率別　70%以上	468	65.8	51.7	48.3	43.8	15.6	5.8	46.2	50.0	41.2	16.5	7.7	6.8	5.1
40～70%未満	222	71.6	65.8	58.1	54.5	19.4	3.2	77.5	54.1	18.9	34.2	14.4	7.2	2.7
40%未満	370	67.6	61.6	66.5	62.7	36.2	4.3	70.5	54.6	23.2	41.9	23.0	10.0	3.0
設置者別　国公立	811	67.6	58.6	58.8	52.8	25.0	4.9	64.7	53.0	28.2	31.6	15.4	7.9	3.9
私立	259	66.8	54.8	51.0	50.6	19.7	3.9	49.8	50.6	36.7	21.6	11.2	8.1	4.6
高校タイプ別　普通科	778	67.7	57.7	56.0	50.6	21.6	4.6	59.3	50.5	31.0	26.5	12.7	7.3	4.9
総合学科	81	70.4	60.5	53.1	55.6	29.6	7.4	75.3	58.0	22.2	44.4	17.3	4.9	—
専門高校	133	63.2	55.6	63.9	56.4	27.8	3.0	60.9	59.4	31.6	30.8	18.8	10.5	—
地域別　北海道	79	72.2	50.6	65.8	57.0	19.0	10.1	67.1	53.2	21.5	38.0	12.7	5.1	3.8
東北	118	59.3	53.4	64.4	48.3	19.5	5.9	60.2	57.6	27.1	20.3	11.0	11.9	5.9
北関東・甲信越	122	68.0	57.4	53.3	54.9	23.8	4.1	63.9	50.0	37.7	28.7	14.8	6.6	3.3
南関東	178	73.6	58.4	52.2	46.1	24.7	2.8	60.1	52.2	36.0	29.2	11.2	5.1	2.8
東海	142	67.6	53.5	55.6	48.6	23.9	3.5	64.1	52.8	28.9	28.2	16.9	7.0	4.9
北陸	25	72.0	44.0	52.0	28.0	16.0	—	52.0	32.0	40.0	16.0	—	8.0	4.0
関西	136	64.7	58.8	51.5	47.8	25.0	2.9	59.6	52.9	33.1	29.4	17.6	7.4	4.4
中国・四国	128	63.3	68.0	58.6	60.2	24.2	4.7	53.9	53.9	22.7	32.8	17.2	9.4	1.6
九州・沖縄	142	68.3	60.6	60.6	63.4	28.2	7.0	64.1	51.4	28.2	31.7	16.2	11.3	6.3

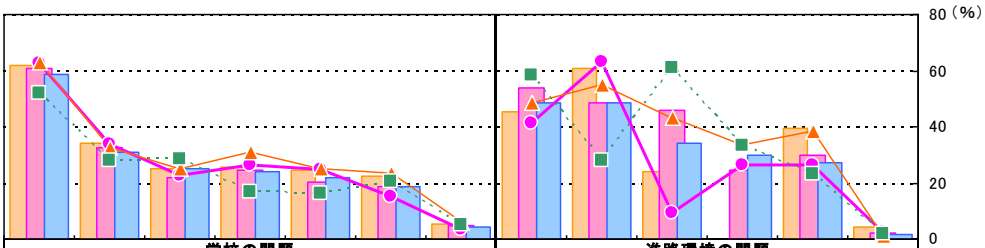
※各カテゴリーごと「2012年：全体」の降順ソート
※【2012年属性別】は、「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け
※（）内数値は全体順位

●設置者別にみると、【生徒の問題】や【保護者の問題】は、国公立の方が高めとなる項目が多い。

●高校タイプ別にみると、全般的に総合学科が最も高くなる項目が多いが、「職業観・勤労観の未発達」や「産業・労働・雇用環境の変化」「高卒就職市場の変化」については専門高校の割合が目立って高くなる。

●地域別にみると、どのエリアでも「進路選択・決定能力の不足」が上位3項目に選ばれている。

- 北海道　①進路選択・決定能力の不足　②家庭・家族環境の悪化（家計面）③職業観・勤労観の未発達
- 東北　①職業観・勤労観の未発達　②家庭・家族環境の悪化（家計面）③進路選択・決定能力の不足
- 北関東・甲信越　①進路選択・決定能力の不足　②家庭・家族環境の悪化（家計面）
  ③教員の進路指導に関する時間不足、産業・労働・雇用環境の変化
- 南関東　①進路選択・決定能力の不足　②教員の進路指導に関する時間不足　③入試の多様化
- 東海　①進路選択・決定能力の不足　②家庭・家族環境の悪化（家計面）　③教員の進路指導に関する時間不足
- 北陸　①進路選択・決定能力の不足　②教員の進路指導に関する時間不足
  ③職業観・勤労観の未発達、家庭・家族環境の悪化（家計面）
- 関西　①進路選択・決定能力の不足　②家庭・家族環境の悪化（家計面）　③学習意欲の低下
- 中国・四国　①学習意欲の低下　②進路選択・決定能力の不足　③学力低下
- 九州・沖縄　①進路選択・決定能力の不足　②家庭・家族環境の悪化（家計面）③学力低下



教員の進路指導に関する時間不足	校内連携の不十分	教員の実社会に関する知識・経験不足	教員の意欲・能力不足	旧態依然とした教員の価値観	生徒とのコミュニケーション不足	その他	産業・労働・雇用環境の変化	入試の多様化	高卒就職市場の変化	仕事や働くことに対する価値観の変化	入試の易化	その他	無回答	家庭・家族環境の悪化（家計面以外）＋家計面	
（3）58.8	（11）31.2	（16）25.3	（17）23.9	（19）21.7	（20）18.9	（24）4.4	（8）48.7	（9）48.6	（10）34.2	（13）30.1	（15）27.3	（26）1.6	0.1	64.6	2012年：全体
（3）61.0	（11）32.5	（18）21.7	（15）24.8	（19）20.5	（20）18.6	（24）4.7	（5）53.7	（9）48.7	（10）45.9	（16）24.7	（12）29.9	（26）2.2	—	65.8	2010年：全体
（2）62.1	（10）34.0	（14）25.0	（13）25.8	（16）24.3	（18）22.4	（20）5.5	（7）45.6	（3）60.8	（17）24.0	＊＊	（9）39.5	（23）4.1	—	50.2	2008年：全体
62.6	33.8	22.4	26.1	24.8	15.0	3.4	41.2	63.2	9.2	26.1	26.1	1.9	0.2	48.7	70%以上
63.1	32.4	25.2	31.1	25.2	23.4	5.9	48.6	55.0	43.2	33.8	38.3	0.9	—	81.1	40～70%未満
51.6	27.8	28.4	16.5	15.9	20.5	4.9	58.1	27.6	60.8	33.0	23.2	1.6	—	74.9	40%未満
59.9	30.1	25.2	22.6	21.3	19.7	5.2	51.3	47.1	38.5	31.1	28.2	1.6	0.1	67.9	国公立
55.6	35.1	25.9	28.2	23.2	15.8	1.9	40.5	53.7	20.8	27.8	25.1	1.5	—	54.1	私立
59.8	30.8	23.8	25.2	22.1	16.6	4.9	45.8	55.0	26.0	29.7	27.4	1.7	0.1	62.6	普通科
59.3	37.0	30.9	25.9	16.0	27.2	2.5	53.1	40.7	53.1	30.9	34.6	1.2	—	80.2	総合学科
52.6	29.3	33.1	18.0	24.1	25.6	1.5	63.9	24.8	66.9	30.1	18.8	0.8	—	66.2	専門高校
44.3	31.6	26.6	20.3	17.7	19.0	6.3	41.8	34.2	39.2	30.4	22.8	—	—	68.4	北海道
56.8	32.2	22.9	16.1	18.6	22.0	8.5	50.0	41.5	36.4	29.7	24.6	1.7	—	64.4	東北
59.8	31.1	18.9	22.1	20.5	18.9	2.5	59.8	49.2	33.6	30.3	29.5	2.5	0.8	64.8	北関東・甲信越
67.4	28.1	20.2	29.2	25.8	18.0	2.2	42.1	60.7	21.9	28.1	30.3	0.6	—	62.4	南関東
59.2	34.5	25.4	23.9	21.8	15.5	1.4	47.2	48.6	45.1	34.5	28.9	4.2	—	68.3	東海
68.0	28.0	20.0	20.0	12.0	8.0	8.0	40.0	36.0	24.0	44.0	12.0	—	—	52.0	北陸
55.9	30.9	27.9	23.5	19.9	18.4	5.1	45.6	50.7	36.8	31.6	39.7	1.5	—	64.0	関西
59.4	35.2	26.6	21.9	20.3	17.2	7.0	50.0	48.4	37.5	22.7	23.4	0.8	—	59.4	中国・四国
57.7	28.9	35.9	30.3	27.5	23.9	3.5	54.9	47.9	31.0	32.4	20.4	1.4	—	69.0	九州・沖縄

Q02

3）進路指導の難しさの最大要因

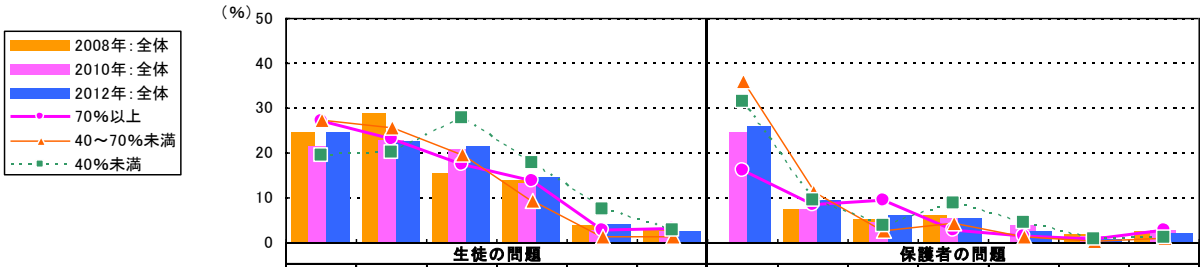
▶前回同様、トップは「家庭・家族環境の悪化（家計面）」
▶大短進学率の違いで異なる“最大要因”の傾向

- 進路指導を困難にしているすべての要因のうち、最も大きな要因と感じるものを3つまで選んでもらった。最も多かったのは【保護者】の「家庭・家族環境の悪化（家計面）」26%。以下【生徒】の「進路選択・決定能力の不足」24%「学習意欲の低下」「学力低下」22%と続く。

- 前回に比べ微増したのは、「進路選択・決定能力の不足」「進路環境変化への認識不足」「教員の実社会に関する知識・経験不足」など。（2.0ポイント以上増加した項目）

- 大短進学率別にみると、[70%以上]は1位が「進路選択・決定能力の不足」。「入試の多様化」「学習意欲の低下」「教員の進路指導に関する時間不足」がそれに続く。[40～70%未満]と[40%未満]の1位は、「家庭・家族環境の悪化（家計面）」。[40～70%未満]では、2位「進路選択・決定能力の不足」、3位「学習意欲の低下」。[40%未満]では2位「学力低下」、3位「高卒就職市場の変化」と、進学率ごとに異なる課題を抱えている様子がうかがえる。
  - ・[40～70%未満]で1位となった「家庭・家族環境の悪化（家計面）」は、前回に比べ10ポイント近く増加した。

■ 進路指導の困難の最大要因【最も大きな要因／上位3つ】（進路指導は難しいと感じている者／複数回答）

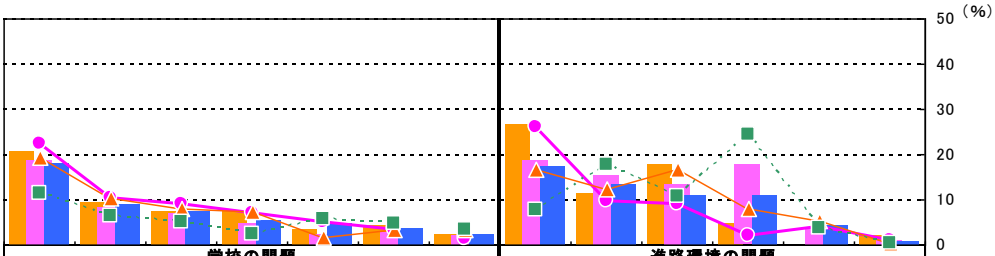


	調査数	進路選択・決定能力の不足	学習意欲の低下	学力低下	職業観・勤労観の未発達	規範意識・道徳意識の低下	その他	家庭・家族環境の悪化：家計面について	進路環境変化への認識不足	子どもに対する過剰な期待	子どもに対する無関心・放任	家庭・家族環境の悪化：家計以外の面について	学校や教師への非協力	その他
2012年：全体	1075	（2）24.3	（3）22.2	（4）21.5	（7）14.4	（19）4.0	（21）2.5	（1）25.7	（11）9.2	（14）6.0	（16）5.2	（23）2.4	（25）0.7	（24）1.9
2010年：全体	1121	（3）21.5	（2）22.8	（4）20.8	（10）12.9	（19）2.8	（23）2.2	（1）24.5	（12）7.2	（16）4.5	（14）5.4	（17）3.6	（25）1.2	（21）2.7
2008年：全体	832	（3）24.4	（1）28.6	（6）15.5	（7）13.7	（17）3.8	（19）2.8	＊＊	（10）7.2	（14）5.0	（13）5.9	＊＊	（23）1.8	（21）2.3
【2012年属性別】														
大短進学率別　70%以上	468	26.9	23.1	17.5	13.7	2.6	3.0	16.0	8.5	9.4	2.6	1.3	0.6	2.8
40～70%未満	222	27.5	25.7	19.8	9.5	1.4	1.4	36.0	11.3	2.7	4.5	1.4	0.5	0.9
40%未満	370	19.5	20.0	27.8	17.8	7.3	2.7	31.4	9.2	3.8	8.6	4.3	0.8	1.1
設置者別　国公立	811	23.7	22.4	21.9	14.5	4.3	2.6	27.6	9.2	5.2	4.8	2.7	0.9	1.8
私立	259	26.3	22.0	20.1	13.9	3.1	2.3	19.3	9.3	8.9	6.6	1.2	—	1.9
高校タイプ別　普通科	778	25.7	22.6	19.5	14.1	3.3	2.6	25.2	8.2	5.9	4.8	2.1	0.4	2.4
総合学科	81	24.7	23.5	25.9	8.6	3.7	2.5	37.0	9.9	4.9	3.7	4.9	—	—
専門高校	133	20.3	23.3	25.6	18.0	6.0	1.5	18.8	14.3	6.0	6.8	3.0	1.5	—
地域別　北海道	79	25.3	16.5	30.4	19.0	3.8	5.1	27.8	10.1	6.3	10.1	5.1	—	2.5
東北	118	23.7	16.9	19.5	21.2	4.2	4.2	24.6	5.9	5.1	5.9	0.8	3.4	3.4
北関東・甲信越	122	27.9	22.1	22.1	13.9	4.1	0.8	29.5	8.2	8.2	4.1	3.3	0.8	0.8
南関東	178	26.4	22.5	19.7	12.4	3.4	1.7	25.8	11.2	4.5	6.2	1.7	—	1.7
東海	142	23.9	16.9	19.7	14.8	2.8	2.8	28.9	11.3	7.0	3.5	2.8	1.4	1.4
北陸	25	36.0	16.0	20.0	12.0	4.0	—	16.0	16.0	4.0	12.0	—	—	—
関西	136	20.6	28.7	19.1	12.5	6.6	1.5	30.1	5.9	8.1	2.9	1.5	—	1.5
中国・四国	128	24.2	28.1	24.2	10.2	3.9	3.9	19.5	7.8	5.5	7.0	3.1	—	0.8
九州・沖縄	142	20.4	25.4	21.8	14.8	3.5	2.1	21.1	11.3	4.9	2.8	2.1	—	3.5

※各カテゴリーごと「2012年：全体」の降順ソート
※【2012年属性別】は、「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け
※（）内数値は全体順位

● 地域別の上位3項目は以下のとおり。「家庭・家族環境の悪化（家計面）」は北陸、中国・四国以外、「進路選択・決定能力の不足」は九州・沖縄以外、「学力低下」は東北、南関東、関西以外の地域で上位3項目として挙げられている。

- 北海道　①学力低下　②家庭・家族環境の悪化（家計面）　③進路選択・決定能力の不足
- 東北　①家庭・家族環境の悪化（家計面）　②進路選択・決定能力の不足　③職業観・勤労観の未発達
- 北関東・甲信越　①家庭・家族環境の悪化（家計面）②進路選択・決定能力の不足　③学習意欲の低下、学力低下
- 南関東　①進路選択・決定能力の不足　②家庭・家族環境の悪化（家計面）　③教員の進路指導に関する時間不足
- 東海　①家庭・家族環境の悪化（家計面）②進路選択・決定能力の不足　③学力低下
- 北陸　①教員の進路指導に関する時間不足　②進路選択・決定能力の不足　③学力低下
- 関西　①家庭・家族環境の悪化（家計面）　②学習意欲の低下　③進路選択・決定能力の不足
- 中国・四国　①学習意欲の低下　②進路選択・決定能力の不足　③学力低下
- 九州・沖縄　①学習意欲の低下　②学力低下　③家庭・家族環境の悪化（家計面）



学校の問題							進路環境の問題								
教員の進路指導に関する時間不足	教員の意欲・能力不足	校内連携の不十分	旧態依然とした教員の価値観	教員の実社会に関する知識・経験不足	生徒とのコミュニケーション不足	その他	入試の多様化	産業・労働・雇用環境の変化	入試の易化	高卒就職市場の変化	仕事や働くことに対する価値観の変化	その他	無回答	家族・家庭環境の悪化	
（5）17.9	（12）8.9	（13）7.3	（15）5.4	（17）4.7	（20）3.7	（21）2.5	（6）17.5	（8）13.2	（9）11.1	（10）10.9	（18）4.4	（25）0.7	7.3	28.0	2012年：全体
（5）18.6	（11）8.2	（13）6.9	（15）4.8	（22）2.3	（19）2.8	（24）2.1	（5）18.6	（8）15.3	（9）13.2	（7）17.7	（17）3.6	（26）0.9	8.3	27.8	2010年：全体
（4）20.7	（9）9.5	（10）7.2	（10）7.2	（18）3.4	（16）4.3	（20）2.5	（2）26.7	（8）11.5	（5）17.8	（15）4.6	＊＊	（22）2.0	5.6	20.9	2008年：全体
22.2	10.3	9.0	7.1	4.9	3.2	1.5	26.1	9.6	9.0	1.9	4.1	1.1	8.1	17.3	70%以上
19.4	10.4	8.1	7.2	1.8	3.2	3.2	16.7	12.2	16.7	8.1	5.4	0.5	6.3	37.4	40～70%未満
11.4	6.5	4.9	2.4	5.7	4.6	3.5	7.6	17.6	10.8	24.3	3.8	0.3	6.5	35.4	40%未満
19.1	9.2	6.2	4.4	4.2	3.9	3.0	17.3	14.1	11.2	11.8	4.1	0.7	6.4	30.2	国公立
13.9	8.1	10.8	8.5	5.8	2.7	1.2	18.1	10.0	10.8	8.1	5.4	0.4	10.0	20.5	私立
19.3	9.0	8.4	5.7	4.6	3.6	3.0	20.8	11.4	10.7	6.8	4.6	0.6	8.0	27.2	普通科
17.3	13.6	3.7	6.2	3.7	6.2	1.2	14.8	16.0	16.0	11.1	3.7	1.2	3.7	42.0	総合学科
11.3	5.3	5.3	3.8	7.5	3.0	0.8	6.0	21.8	9.0	31.6	3.0	—	6.8	21.8	専門高校
12.7	8.9	7.6	1.3	3.8	6.3	3.8	8.9	17.7	7.6	11.4	1.3	—	1.3	32.9	北海道
17.8	6.8	7.6	0.8	6.8	3.4	4.2	14.4	16.9	12.7	11.0	5.1	0.8	7.6	25.4	東北
20.5	7.4	4.9	4.9	2.5	5.7	0.8	16.4	17.2	12.3	9.8	4.1	0.8	8.2	32.8	北関東・甲信越
24.2	9.6	6.2	9.6	3.4	2.2	1.7	21.3	8.4	10.7	7.3	4.5	0.6	6.7	27.5	南関東
16.9	7.7	7.7	5.6	7.0	4.2	0.7	19.0	14.1	11.3	15.5	3.5	2.8	5.6	31.7	東海
40.0	8.0	12.0	8.0	4.0	4.0	—	—	16.0	12.0	4.0	12.0	—	4.0	16.0	北陸
15.4	7.4	7.4	3.7	4.4	2.9	2.9	19.9	9.6	15.4	8.8	6.6	—	10.3	31.6	関西
18.0	9.4	11.7	4.7	4.7	1.6	4.7	20.3	12.5	10.2	14.8	3.1	—	6.3	21.9	中国・四国
9.9	14.1	4.9	8.5	4.2	4.2	2.8	17.6	12.0	7.7	11.3	4.2	—	10.6	23.2	九州・沖縄

Q02SQ01

【フリーコメント①】生徒の問題でどのような困難が生じているか

▶進路選択・決定能力の不足

【大短進学率70%以上】

- 低学年から体系的な指導はしているものの外部からの情報過多の状況がかえって生徒の進路選択を難しくしているケースがある(北関東/普通)
- 答えや決定を求めてくる生徒(決断力不足)がいる一方で、受験直前になっても志望が見つからず探す努力もしていない生徒がいる(東海/普通)
- 自己の適性が見つけられず、進路先が定まらない生徒が増えている(九州・沖縄/普通)
- 自分が何をやりたいのか、何にむいているのかを考え、決定することができない。高3の夏すぎても学部を決定できない(関西/普通)
- 高望み、文理選択が適切でないなどで、実力と志望にギャップがある。また、急に高3の夏頃、進路を変える者もいる(南関東/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 3年夏～秋になっても、進路の方向性が定まらず、生徒に振り回されたり、生徒にこちらから声掛けをしないと動かない(南関東/普通)
- 1年次から、様々な形でガイダンス、面談等を重ね、自分について進路について考えさせているはずだが、自分のことと受け取れず、3年後半になってもコロコロ進路を変える生徒がいる(南関東/普通)
- 様々な適性検査を行ってもなかなか自分のやりたい事や興味の持てることが決まらず、進路について動き出せない(甲信越/普通)
- 自分のこととして考えられない。他人任せ(東海/専門)
- 自主的に学ぶ力の不足(東海/普通)
- 様々な講演や指導を通じて考える機会は与えられているが、自分のこととして捉えていないことや、まだ先のことであると考えている(九州・沖縄/普通)

【大短進学率40%未満】

- 職種、業種を決められず、親の考えで就職試験を受ける。進学先(学部学科)を決める際、狭い興味、友達、自宅からなどで決めてしまう(四国/総合)
- 生徒自身が何をしたいのか分かっていない。したいことが分からないので進路決定が遅れる。また、積極性に欠けている(北陸/普通)
- 勤労意欲はあるが、自身の将来像が描けないため、就職先の選択ができない(東海/専門)

▶学習意欲の低下

【大短進学率70%以上】

- 大学に入りやすくなってしまい、今までのように大学入試を突破するためにがんばるといったモチベーションの減退(北海道/普通)
- 進学というハードルを自分で越えようとしない。学習において指示待ち。宿題のみ消化、という状態(北海道/普通)
- 高校にも推薦で入ってくる生徒が多く、「本当に勉強した」という経験をした生徒が少ない。家庭学習の習慣がない生徒が多い(南関東/普通)
- 与えられることに慣れてしまい、いつも受け身になっている。当事者として行動しよう(勉学を含めて)という意識がない(関西/普通)
- 知的好奇心の低下を感じる。何事もおもしろがれる感性を育めていない。とにかく受動的(中国/普通)
- 自ら学習に取り組む生徒が減り受動的な学習をする生徒が増えている(九州・沖縄/普通)

▶学習意欲の低下(続)

【大短進学率40～70%未満】

- 家庭学習の習慣が身についておらず、高校の授業に対応できていない。各教科、HR等で、学習の仕方について繰り返し指導をしなければならない(北関東/普通)
- 推薦入試に安易に流れてしまい、学習する意欲を持たない生徒が年々増加してる(東海/普通)
- 学力の二極化。下位層の意欲が向上しない(九州・沖縄/普通)
- 学習せずに合格できる方法のみを考える生徒が多く、3年生になっても受験の雰囲気にならない(北海道/普通)
- 学習習慣がない。宿題はやるが、自立学習が出来ない生徒が多い(南関東/普通)

【大短進学率40%未満】

- 目的、目標を設定できず学習によって自己を改善しようという意識が低い。その結果学力も低下している(東北/普通)
- 集中して学習に取り組む習慣のない生徒が、多くなってきている(北関東/専門)
- 家庭学習の習慣がついていないため、学力の定着に結びつかないのが現状であり、また学習内容や方法が分らないとあきらめてしまい学力が低下する一方である(東北/普通)

▶学力低下

【大短進学率70%以上】

- 中学時代の学力が定着していない中、大学入試で求められる学力まで引き上げるのは限られた時間の中で困難を感じる(南関東/普通)
- ゆとり教育の影響で、学力の二極化が深刻である。中でも好奇心の低下が著しく、授業展開を難しくしている(東北/普通)
- 高校での学習内容が理解できない。特に数学、英語の基本的事項が習得されていないため、○大学入試レベルの学力まで達することができない生徒が多い(中国/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 中学校の学習内容が、身についていない(東北/普通)
- 学習習慣の欠如のため、基礎学力が定着しない点(南関東/普通)
- 入学時の基礎学力低下の生徒が増加。上位の生徒を引き上げるのに十分な時間がとれない(関西/普通)
- 学力の低下が全てに於いて影響している為、進路選択の指導等、職場観、労働観の指導をしても生徒自身のものになっていかない(東北/総合)
- 中学時代までの学習が不十分であり、3年間でセンター試験のレベルに高めるのが困難です(中国/普通)

【大短進学率40%未満】

- 入学してから小中の内容ができていなく苦しんでいる→基礎基本の反復(北海道/普通)
- 基礎学力不足を理由として就職の不採用が通知されるケースが多々ある(南関東/専門)
- 基礎学力の低下が著しく、進学、就職ともに対応しづらくしている。また、意欲の低さもあり、向上への姿勢を作りづらい。“その場さえしのげれば”との意識が強い生徒が多い(甲信越/総合)
- 就職選考のペーパーテストがクリアできない。基礎的な学力がない(関西/普通)
- 低学力層の占める割合が大きくなっており、学力の二極化が深刻化しています。同一カリキュラムで授業を行うことは相当に難しいと思います。習熟度別授業にも限界がある(九州・沖縄/普通)
- 義務教育レベルの学力が身についていないので、それを付けさせなければならない。学習習慣も、身につけさせねばならない(東海/専門)
- 中学校までの学力が定着しておらず、高校での学力がついて行っていない(東海/普通)

【フリーコメント②】保護者の問題でどのような困難が生じているか

▶家庭・家族環境の悪化：家計面について

【大短進学率70%以上】

- 経済的理由から四年制大学へ進学できる実力でありながら短大を選択する生徒がいる。高校の授業料未納で進学以前の問題がある(南関東/普通)
- 保護者の年収を苦慮し、地元の大学へ進学希望の生徒が多い。特に首都圏への難関私大進学者の減少(東海/普通)
- 収入が激減し、何らかの奨学金を受けないと、進学できない生徒が増えてきた(関西/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 経済的理由により、進学をあきらめたり、奨学金を利用して進学することが非常に多くなっている(北海道/普通)
- 経済的問題について生徒と保護者間で確認できていないことがあり、推薦で合格していながら辞退するようなケースがある(北海道/普通)
- 家計面で進学が困難な生徒が増加し、かといって高卒求人は減少の一途をたどっている状況で生徒に妥協させるしかない進路選択になっている(東海/総合)
- 親子での会話不足や親の面目のためか、家庭事情が子どもに伝わっておらず、上級学校に進もうとして、資金がないことにより進学をあきらめる生徒もいる(関西/普通)
- 経済的な面から、自宅から通える大学、専門学校、就職先が、進路を決める第一条件になっている生徒が多い(関西/総合)

【大短進学率40%未満】

- 子ども自身が進学を望んでいても、金銭的理由により、就職せざるを得ない。しかし、高卒では就けない職種も多いのが現状(東北/普通)
- 片親の家庭が非常に多く、これが家計の負担にもつながる。進学を諦める生徒の理由の大部分を占める(北海道/その他)
- 経済的に進学困難な家庭が多く、就職志望者が多いが、求人も減少しており、就職することが難しい(東海/普通)
- 経済的に苦境にある家庭が多くなってきた。保護者が日々の仕事(生活)に追われ、子供と関わる時間がほとんどない家庭が目立ってきた(関西/総合)
- 学費が支払えない為に進学出来ない家庭が増加している(四国/専門)

▶進路環境変化への認識不足

【大短進学率70%以上】

- 大学入試を甘く見ていて、どうにかなるだろう程度の認識だったり、逆に親が心配しすぎて、やたらとAO、推薦を子供にすすめる(南関東/普通)
- 大学全入時代と言われるが親世代の進学率は低い親が、自分の経験で子どもにアドバイスできなくなっている。結局子供の言いなりで学校まかせになる(東北/普通)
- 保護者が様々な情報に振りまわされて、じっくり子供と向き合って考えたり、生徒自らの進路実現を待つことができない(南関東/普通)
- 社会変化を理解しつつも、家庭、我が子となると、旧態依然(進学偏重)の方法を押し付ける(南関東/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 資格をとれば就職できると専門学校を進める保護者が多くなってきている(九州・沖縄/普通)
- 進学、就職とも、20～30年前の知識しかない。就職に関しては、特に事務職の求人などないという現実が受け入れられない。求人は、当時の「中卒」位の印象だと思う(東海/総合)
- 資格の取得にこだわりすぎる家庭が多く、進路が制限される(九州・沖縄/普通)

▶進路環境変化への認識不足(続)

【大短進学率40%未満】

- 親が自分の頃の意識で子に価値観を押しつけ、子が悩むケースが増えてきた(北海道/専門)
- 保護者の方の時代と大学の偏差値も就職の状況も違っているのに、それを理解していない(東北/普通)
- 勉強が苦手なら就職と考えていたり、高卒では出来ない仕事があることを理解していなかったり、有名企業ばかり望んだりする保護者が多い(甲信越/普通)
- バブル期の保護者が多く「なんとかなるさ」という考え方の人が多い。また給与面で安すぎると文句(東北/普通)

▶子どもに対する過剰な期待

【大短進学率70%以上】

- 子供の学力を考えず、学費が安いという理由で、無理に国公立大を押し付けるケースがある(南関東/普通)
- 本人の学力、希望に関わらず、親の強い希望で進路があらかじめ決められており、生徒のモチベーションがあがらない(関西/普通)
- 期待は大きい一方で現役にこだわり「行きたい大学」よりも「行ける大学」を子供に勧めること(関西/普通)
- 社会の現状から就職を意識するあまり、GMARCH以上でないと大学ではないと言い張る(子供の学力は伴わない)(南関東/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 保護者が“バブル時代”。したがって、進学、就職共にブランド志向が強くなっている。保護者自身が、子どもに“職業観”を伝えられない(北関東/総合)
- 地元志向が強く「家から通える国立大」しか考えていない。もしくは「家から通える私大」「下宿をさせたくない」親が多すぎる。(関西/普通)
- ○○高校に入れば進路決定は困らないはずと信じて頂けるのは有難いが、生徒個人の能力は見ていない(東海/専門)

【大短進学率40%未満】

- 保護者が就職に対して会社名、仕事内容にこだわりがあり、就職の求人票を紹介しても受験しない為、進路決定に支障が出てくる家庭が一部見られる(九州・沖縄/専門)
- 親が自分の進路と錯覚し、子供の希望とかけ離れた進路を選択しようとする(北関東/専門)

▶子どもに対する無関心・放任

【大短進学率70%以上】

- 「子どもに任せています」という方が多く、子供の言いなりになり、易きになりがち(九州・沖縄/普通)
- 附属校に入学すれば親大学に自動的に進学出来るはずと考えている(南関東/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 基礎学力が低いことに対して保護者の危機感も乏しい。子供と一緒になって学業の向上に取り組む姿勢が欲しい(九州・沖縄/普通)
- 子どものレベルを理解せず、大企業や公務員をすすめる(北海道/普通)

【大短進学率40%未満】

- 家庭の協力が得られず、欠席、遅刻、早退のコントロールの出来ない生徒が増加している(南関東/普通)
- 親は、「別にフリーターでもいい」や「ニートでもいい」と言う。そう言われると、学校では指導しにくくなり、生徒は進路未決定(関西/普通)

【フリーコメント③】学校の問題でどのような困難が生じているか

▶教員の進路指導に関する時間不足

【大短進学率70%以上】

- 教員に求められる業務が年を追う毎に肥大化している感があり、やってもやってもきりがない仕事に忙殺されている(北関東/普通)
- 学校全体が非常に忙しく、各教員の仕事も増える一方である。各生徒とじっくり時間をかけて話す時間の少なさを感じる(南関東/普通)
- 学校現場の多忙さは極限まで来ている。生徒に(個人面談等に)割ける時間がない(中国/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 進学希望者のほとんどがAO、推薦希望のため、小論文指導や面接指導で膨大な時間を取られる。その上、日常の繁雑な業務も変わらず、きめ細かな指導がなかなかできない(南関東/普通)
- あらゆることを教員に課せられており、教科指導のほか生徒指導、保護者の対応、部活動、研修等々時間がなさすぎる(東海/総合)
- 進学、公務員、就職と多岐にわたる指導の多様化により、教員に疲労感が大きい(東北/総合)

【大短進学率40%未満】

- 校務分掌(部活動など)がありすぎて、進路指導に集中できない(南関東/普通)
- 放課後も会議や行事の準備等で忙しく、生徒一人一人の考えをじっくり聞けず、良いアドバイスができていない(東海/専門)
- 処理文書の増加、会議、部活動、また正規教員数減による仕事量が偏ることで生徒と向き合う時間が不足(東海/総合)

▶教員の意欲・能力不足

【大短進学率70%以上】

- 進路指導に意欲・関心のある教員とない教員の落差が大きく、関心ない人ほど校内研修にも参加しないのでクラスによって生徒の意識のブレが大きい(南関東/普通)
- どんな学校にしてどんな生徒を育てるのかビジョンもなく、授業だけで精一杯。事務仕事(分掌の仕事)に押しつぶされている教員もいる(北海道/普通)
- きちんと考え、対応していこうという教員にばかり仕事が集中する。足並みがそろわないため、生徒、保護者を困惑させ、混乱が生じる(甲信越/普通)
- 例えば出前講義や外部添削などの外部との連携に重点を置きすぎ授業の魅力が欠けてしまっていることに気付かない(九州・沖縄/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 職員の継続勤務年数が短く、学校の実態がよく把握できないうちに担任になることと、進路指導の内容に不慣れで生徒を導く力に不足があること(甲信越/総合)
- 進路指導を面倒臭く思っている教員が多い(南関東/普通)
- 本校では、進学指導の経験が少ない教師が多く、3年間を見通した生徒指導、教科指導への取り組みがよくない(九州・沖縄/普通)

【大短進学率40%未満】

- 自身に向上意欲が乏しく、視野が狭く生徒を理解しようとしない。この仕事に対する情熱も感じられない教員が増加し始めている(北海道/普通)
- 教員の意欲の低下が目立ちます。与えられた事だけを処理し、さらに上を目指そうとする姿勢が見られない先生が多くなった。生徒を頑張らせられない(北関東/専門)
- 学校の規模が小さいため若手の教員が多く、進路指導の経験不足から指導が後手に回ってしまうことが多い(東海/普通)

▶校内連携の不十分

【大短進学率70%以上】

- 学年ごとに取り組みに温度差があり、学校としての統一した方針が打ち出せない(東北/普通)
- 容易な進学校化を目指す考えの教員と真の学力をつける指導が必要とする教員との意見集約の必要性(南関東/普通)
- 国公立へ行くよう勧める教員、ランクを落として確実に合格する大学を薦める教員、進路指導をあまりやりたがらない教員がおり、学校で方針が統一されていない(関西/普通)
- 出口(キャリア)支援と学力向上支援を行うセクションが異なるため、進路指導に一貫性を持たせることが大変難しい(南関東/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 進路指導については、先生方それぞれの思い(学年や担任する生徒への)が強く、今までのやり方や経験を一番としているので、足並みがそろわない(北海道/普通)
- 就職担当と進学担当のコミュニケーションがとれていないため、担任が間にはさまって大変である(東北/普通)
- 少人数ではやれることに限界があるので、就職、進学とも校内の連携が必須。だが、なかなか組織できない(東海/その他)

【大短進学率40%未満】

- 教員の間に、「少し問題はあってもやってみよう」という雰囲気が薄く、実施上考えられる問題を過大視する傾向がある(中国/専門)
- 小規模校で多様な進路希望に対する十分な指導ができない(甲信越/普通)

▶旧態依然とした教員の価値観

【大短進学率70%以上】

- 進学指導に対する抵抗感(先入観、不安、困難さ)がある教員が一定数いて足並みが揃いにくい(南関東/普通)
- 新しい価値観が持てない。募集のみに固執し、卒業進学時の数字のみこだわる(南関東/普通)
- 学習時間をかければ学力がつくと信じ、中学までの新課程に対応しようと考えない教員が多い(北関東/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 社会の変化、雇用構造の変化等を知ろうとせず経験則や大学進学こそ第一と考えることにより生徒の多様な進路選択を阻害(南関東/総合)
- 出口指導にとどまり、本来あるべきキャリア教育が不充分である(九州・沖縄/普通)
- 新しい入試システムやデータに目を全く向けない(南関東/普通)

【大短進学率40%未満】

- キャリア教育の重要性や、それを育むべき総合学科のシステムを理解してない(しようとしない)職員が多く、校内の指導に対するコンセンサスを得づらい(甲信越/総合)
- 進路指導のあり方(厳しい就職試験、多様化する入試等)を、古い知識(10年前)のままの教員がおり、話がかみ合わない(東海/専門)
- 特に専門科教員が、古い職業状況しか頭になく、現在の高卒就職状況に対応できていない(九州・沖縄/その他)

【フリーコメント④】進路環境の問題でどのような困難が生じているか

▶入試の多様化

【大短進学率70%以上】

- 各大学がさまざまな入試を実施していて、また同じ大学入試でも科目がちがったりしていてすべてを理解することが非常に困難(北海道/普通)
- センター試験の変更、理数先取り、あるいはAOなど推薦の多様化、複雑化と混沌となり皆が手探りとなっている(北関東/普通)
- 年々複雑化する入試状況に教師がついていけない為適切な指導が出来ない(甲信越/普通)
- 入試が多様化して、生徒が入試に振り回されている(関西/普通)
- 国公立大学は入試に課す科目数が多く現行のカリキュラムでは対応が困難。私大は入試方法が多様化しすぎており対応しきれない(東海/普通)
- AO、自己推薦、公募、指定校推薦など、一般入試の前に試験が多すぎて、教師も生徒も振り回される(九州・沖縄/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- AO入試、推薦入試が早期にあるため、生徒がそれに合わせて勉強する教科数を減らし、志望校のレベルも下げ合格後は半年近く勉強しなくなり、他生徒への悪影響も増加している(関西/普通)
- 各大学、多様な入試パターンで情報収集が大変であり、対応がとても難しい(東海/総合)
- 毎年の入試方法の変化に教職員はもちろん生徒、保護者もついていっていない点(九州・沖縄/普通)
- AO入試や推薦入試など早期に合格者を出すことで全体のモチベーション低下の要因を作っている。最後まで頑張れない。それがスタンダードになってしまう(関西/総合)

【大短進学率40%未満】

- 早い時期から進路が決定する生徒がいて、やる気が低下してしまう。早く決定してしまうことはよくない(北関東/普通)
- 入試の機会が多すぎて迷ってしまう。もう少しシンプルにならないか(甲信越/普通)
- AO入試による早期決定、学力伸長への意欲低下。調査書も提出しないうちに決まっていく危惧等(東海/総合)

▶産業・労働・雇用環境の変化

【大短進学率70%以上】

- 何でもかんでも資格、資格という傾向が保護者に強い。資格取得＝就職ではないのだがこのような経済状況では致し方ないのか・・・(北海道/普通)
- 適性を無視して理系進学をしようとする者が増加している。就職に有利、不利だけで進路を決めようとする傾向がある(北関東/普通)
- 雇用環境の悪化により実学志向が年々強くなり親の希望と相まって個の適性に基づくキャリア教育が難しくなっている(北陸/普通)
- 就職氷河期後の雇用形態の変化。特に、非正規雇用の増加は、保護者、生徒に動揺を与え、進路選択を困難にしている面がある(東北/普通)
- 大学を卒業しても、職に就けるとは限らず、資格を取って確実に仕事ができる様な進路を選択する傾向が、年々強まっている(東北/普通)
- 自分のやりたいことを十分考える前に将来の就職のしやすさを基準に進路を考える家庭が増えている(中国/普通)

▶産業・労働・雇用環境の変化(続)

【大短進学率40～70%未満】

- 努力すれば、こんな会社に入れるとか、そんな夢が持てない状況になっている。また、契約社員として採用されることも増えている(北海道/普通)
- 大学は選ばなければ入学は簡単で、努力がなくとも達成できるが、出口の保障がないものを勧めることに迷いがある(甲信越/総合)
- 女子の希望職種である事務職、販売職を新規学卒者から求人せず、パートや派遣社員で行っている(関西/総合)
- 資格を取れるような大学選びが増加している(東北/普通)

【大短進学率40%未満】

- 進学、就職の全てに多大な影響を及ぼしている。学校では、どうにもできないもの(北海道/－)
- 正社員の求人票が激減しており、日給月給、非正規雇用など、アルバイトのような求人しかない(北海道/普通)
- 高卒の就職の所に就職難の大学生の流入などによりバランスが崩れている(北関東/普通)
- 雇用が減り、または非正規雇用に流れ高卒での就職も難しいが、進学しても問題の先送りに過ぎない(南関東/普通)
- 雇用の極端な減少が構造的な問題であれば、学校としては対応が困難である(九州・沖縄/専門)

▶高卒就職市場の変化

【大短進学率70%以上】

- 高卒枠に短大、専門、大学卒が入り、就職の厳しさを感じる(南関東/普通)
- 進学をして、少しでもスキルや社会意識を身に付けることが望ましい。大学や専門学校から応募があるのに、高校生や中学生に目を向ける会社は多くない(四国/専門)

【大短進学率40～70%未満】

- 就職を希望する生徒が多いが、求人数が少ない上に合格水準も高く採用に至らないケースも多い(甲信越/普通)
- リーマンショック以前は指名求人として応募できたが、ショック後、求人が激減し、他校との競合が激しくなり内定率が下がった(東海/その他)
- 高卒就職に関しては、企業内の余裕もなく、即戦力しか採用してくれない。厳しい状況です(関西/普通)
- 地元企業の求人数減。地元企業への就職希望者増(九州・沖縄/普通)

【大短進学率40%未満】

- 求人数が減少し競争が激化。そのため学科試験を課す企業が増加(北海道/その他)
- 企業の採用が高卒より短大卒や大卒へシフトしている傾向があり、新規開拓はなかなか難しい(東海/総合)
- 以前には高卒の就職先であった販売等に専門卒でなければ入れなくなっている(南関東/普通)
- 製造、販売などの求人数が減り、高校生が受験できる企業が限られているので以前では考えられない程の高倍率になってしまい、何社受けても内定まで届かない生徒が増えている(南関東/普通)
- 高卒求人数が半減するとともに、高校への求人の仕方が、指定校制から公募に変化していること(東海/専門)
- ほとんどが製造業であり、多くの職種から選ぶ余地がない。また、多くの企業で機械化が進み、工業系の生徒を求人したいという意向を持つ企業が、大幅に増えている(九州・沖縄/専門)
- 現在は完全に企業の買い手市場となっている。ここまでの導入のノウハウが使えない状態がある。筆記試験を重視していく必要が出てきた(東海/専門)

2.進路指導の取り組み

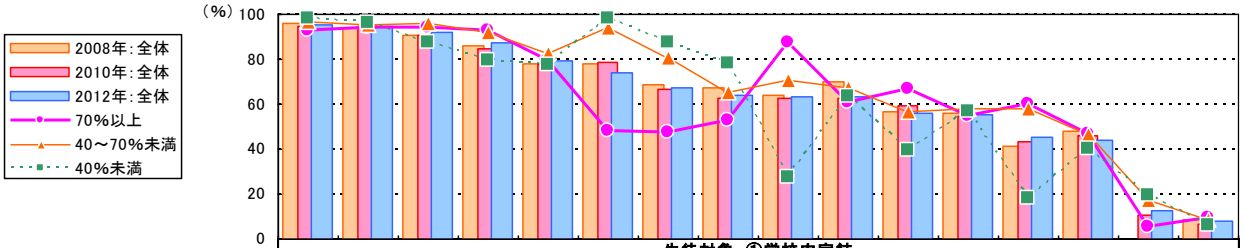
1)進路指導で実施している取り組み事項

▶高大連携など外部との連携項目が全般的に増加

- 現在自校で実施している進路指導の取り組みをすべてあげてもらった。生徒対象の取り組みのうち校内完結できるものから見てみると、「進路ガイダンス」「進学面接指導」95%、「小論文指導」92%をはじめとする上位項目の顔ぶれ・実施率ともにほぼ前回までと同様となっている。大短進学率別に見た場合、「文理(コース)選択ガイダンス」「情報誌など活字情報による進路研究」「土曜講座」などは進学率が高いほど実施率が高く、「就職面接指導」「資格取得・検定奨励」「適性検査」などは進学率が低いほど実施率が高い状況にある。

- 生徒対象のうち外部での実施や連携が必要な取り組みは、全般的に前回よりも実施率が上昇。前回は「ハローワークとの連携」「職業人による講演会」の2つが60%でトップだったが、今回は「高大連携:大学教授による出張授業」62%と前回から4ポイント増加し、「職業人による講演会」と同率トップとなった。
  - ・「高大連携:大学教授による出張授業」と同様に、08年以降毎回増加しているのは「職業人による講演会」「地域連携:講演、イベントなど」「高専連携:専門学校講師による出張授業」「中高連携:職場体験学習の発展など」「地域の商店街などとの共同プロジェクト」「NPO・ボランティア団体との共同プロジェクト」。

■ 進路指導で実施している取組み事項(全体/複数回答)



生徒対象:①学校内完結

	調査数	進路ガイダンス	進学面接指導	小論文指導	補習・課外授業	進学の手引き作成	就職面接指導	資格取得・検定奨励	適性検査	文理(コース)選択ガイダンス	進路相談・キャリアカウンセリング	情報誌など活字情報による進路研究	進路ニュースの発行	土曜講座	インターネットによる進路研究	労働者の権利に関する教育	ポートフォリオの活用
2012年:全体	1179	95.3	94.7	91.9	87.4	79.3	74.0	67.4	63.7	63.6	63.1	55.7	55.6	45.2	44.3	12.6	7.9
2010年:全体	1208	94.5	95.0	91.0	84.6	78.0	78.6	66.9	62.7	63.0	62.4	59.2	54.4	43.4	46.2	10.5	6.7
2008年:全体	910	96.0	94.0	90.7	85.7	78.0	78.2	68.7	67.1	64.2	70.1	56.6	56.3	41.2	47.9	*	8.9
【2012年属性別】																	
大短進学率別	70%以上	539	92.9	93.9	93.7	92.4	79.6	48.1	47.5	52.7	87.6	60.9	67.0	54.9	59.7	46.4	5.2	9.1
	40～70%未満	234	97.0	95.3	95.7	91.9	82.5	94.0	80.8	65.4	70.9	67.1	56.8	58.1	58.1	46.6	17.1	8.5
	40%未満	388	97.9	95.9	87.4	79.1	77.3	98.2	87.6	78.1	27.3	63.4	39.4	56.4	18.0	39.7	19.3	5.7
設置者別	国公立	879	96.2	96.0	92.2	89.1	84.8	81.3	67.9	63.4	61.9	65.1	56.1	62.8	46.3	46.4	15.5	9.2
	私立	294	92.5	90.5	90.8	82.3	63.3	52.4	66.3	64.6	69.0	57.1	54.1	34.7	41.8	37.8	3.1	3.7
高校タイプ別	普通科	865	94.8	94.7	93.3	90.6	79.4	67.5	60.6	60.5	76.6	62.7	60.8	55.8	53.1	45.4	10.1	7.7
	総合学科	83	98.8	95.2	90.4	91.6	81.9	96.4	90.4	72.3	49.4	69.9	53.0	63.9	37.3	51.8	25.3	13.3
	専門高校	137	96.4	93.4	87.6	69.3	78.1	97.8	91.2	83.9	3.6	58.4	27.7	53.3	6.6	32.1	21.2	8.8
地域別	北海道	88	94.3	96.6	92.0	72.7	80.7	89.8	79.5	55.7	47.7	59.1	44.3	69.3	29.5	40.9	12.5	6.8
	東北	122	97.5	97.5	97.5	93.4	88.5	86.1	73.0	64.8	59.0	56.6	48.4	62.3	43.4	47.5	7.4	4.9
	北関東・甲信越	136	96.3	96.3	91.9	90.4	76.5	75.0	65.4	69.9	68.4	67.6	60.3	69.1	50.7	51.5	16.9	12.5
	南関東	204	97.1	91.2	87.3	82.8	79.9	58.3	64.2	72.5	66.7	74.5	52.9	48.0	38.7	42.6	16.2	6.4
	東海	150	97.3	96.7	94.0	88.7	86.0	81.3	66.7	70.7	62.7	60.7	62.0	53.3	52.0	42.7	10.0	7.3
	北陸	28	100.0	96.4	96.4	85.7	78.6	71.4	46.4	60.7	82.1	57.1	60.7	35.7	64.3	32.1	3.6	—
	関西	156	94.2	93.6	85.9	86.5	75.6	69.9	60.9	58.3	68.6	67.3	56.4	52.6	36.5	39.7	14.1	3.8
	中国・四国	137	94.2	95.6	92.7	89.1	69.3	76.6	67.9	53.3	65.0	60.6	58.4	48.2	44.5	50.4	9.5	12.4
	九州・沖縄	152	90.1	92.1	95.4	92.8	79.6	71.1	73.7	58.6	59.9	52.6	56.6	57.2	58.6	42.1	11.8	10.5
「生徒の意欲」変容度別	増した	453	96.7	96.0	92.3	89.2	80.6	72.6	71.7	65.1	65.1	67.5	60.5	58.7	48.1	47.2	13.0	9.7
	変わらない	428	96.0	93.5	90.9	86.2	80.8	74.8	64.7	64.5	63.3	64.3	54.7	54.0	43.0	45.3	11.7	7.9
	減った	11	90.9	90.9	90.9	100.0	72.7	72.7	72.7	63.6	63.6	54.5	45.5	45.5	54.5	45.5	18.2	—
	わからない	211	93.8	94.8	93.8	88.2	75.4	78.2	67.8	62.6	60.7	56.9	52.1	55.9	43.6	35.5	15.6	5.2

※各カテゴリーごと「2012年:全体」の降順ソート
※【2012年属性別】は、「2012年:全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

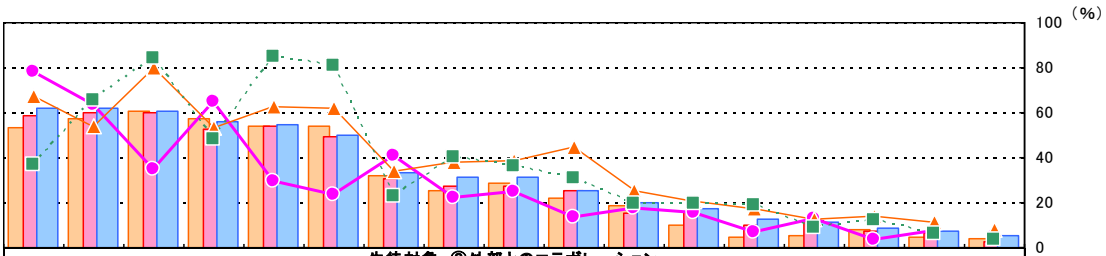
- 大短進学率別にみると、進学率[70%以上]では「高大連携」など進学関連項目が高く、[40%未満]では「ハローワークとの連携」「就業体験(インターンシップ)」「職場見学」などが8割強と高い実施率。残る[40～70%未満]は、他2つに比べ特徴は少ないが就職関連・進学関連いずれの項目とも満遍なく実施している状況がうかがえる。

- 設置者別にみると、学校内完結項目、外部連携項目とも、全般的に私立よりも国公立における実施率の方が高い。私立の方が目立って高いのは、「文理(コース)選択ガイダンス」のみ。

- 高校タイプ別にみると、全般的に総合学科や専門高校における実施率が高い項目が多い。「文理(コース)選択ガイダンス」「情報誌など活字情報による進路研究」「土曜講座」「高大連携・・大学教授による出張授業」など、受験に関する項目は普通科での実施率が他2つに比べ大きく上回る。

- 地域別にみると、北海道、東北では「就職面接指導」「資格取得・検定奨励」「ハローワークとの連携」「就業体験(インターンシップ)」など就職関連項目が他地域よりも高くなる傾向。

- 「生徒の意欲」変容度別にみると、意欲が「増した」という層は「変わらない」「わからない」という層に比べ、実施率が高い項目が多い。その傾向は、校内完結できるものよりも外部連携が必要な項目で顕著。



生徒対象：②外部とのコラボレーション

高大連携：大学教授による出張授業	職業人による講演会	ハローワークとの連携	卒業生との懇談会	就業体験(インターンシップ)	職場見学	高大連携：大学での講義受講	地域連携：講演、イベントなど	ボランティアなど異年齢交流	高専連携：専門学校講師による出張授業	職業人インタビュー	中高連携：職場体験学習の発展など	地域の商店街などとの共同プロジェクト	保護者との共同プロジェクト	高専連携：専門学校での授業・実習など	NPO・ボランティア団体との共同プロジェクト	ジョブ・シャドウイング	
61.9	61.8	60.5	56.3	54.7	50.2	33.1	31.4	31.3	25.5	19.7	17.6	12.7	11.3	8.6	7.6	5.1	2012年：全体
58.4	60.0	60.3	52.5	54.0	49.3	30.7	27.4	27.1	25.2	15.1	15.8	9.9	11.8	7.6	6.5	2.7	2010年：全体
53.2	57.5	60.8	57.3	54.1	54.3	31.9	25.2	28.8	22.3	18.6	9.9	4.8	5.4	8.0	4.7	3.8	2008年：全体
78.1	63.3	34.9	64.7	29.5	23.6	40.4	22.3	24.9	13.2	17.4	15.4	6.5	12.4	3.5	7.2	5.0	70%以上
67.5	54.3	80.3	53.4	62.8	62.0	33.8	38.0	38.9	44.9	25.2	20.5	17.5	12.8	13.7	11.1	8.1	40～70%未満
36.6	65.2	84.0	47.7	84.8	80.4	22.9	39.9	35.8	30.7	19.6	19.3	18.8	8.8	11.9	5.9	3.1	40%未満
63.7	66.6	66.9	58.8	63.3	55.9	33.8	36.4	33.3	27.6	21.0	18.7	15.1	11.8	8.8	8.1	5.7	国公立
56.5	47.3	41.5	49.3	28.6	33.3	31.3	15.6	24.8	19.4	15.6	14.6	5.4	9.5	7.8	5.8	3.4	私立
66.7	60.2	54.5	56.0	45.8	41.7	34.2	28.6	30.5	23.4	19.5	17.5	8.7	11.7	7.5	7.2	4.9	普通科
59.0	72.3	80.7	54.2	81.9	78.3	42.2	45.8	43.4	47.0	41.0	21.7	24.1	12.0	18.1	8.4	14.5	総合学科
37.2	69.3	82.5	60.6	93.4	84.7	23.4	42.3	28.5	27.7	14.6	19.0	29.2	10.9	8.0	6.6	0.7	専門高校
58.0	50.0	71.6	37.5	72.7	50.0	29.5	27.3	27.3	37.5	22.7	20.5	10.2	2.3	12.5	6.8	1.1	北海道
58.2	67.2	71.3	50.8	66.4	70.5	30.3	38.5	39.3	18.0	18.0	19.7	13.1	13.1	4.1	9.8	3.3	東北
65.4	70.6	67.6	61.8	57.4	64.0	36.0	25.7	30.1	27.9	16.2	17.6	15.4	14.0	11.0	2.9	7.4	北関東・甲信越
57.4	55.4	58.3	60.3	40.7	36.3	35.3	27.0	32.4	21.6	23.0	13.2	7.8	12.7	8.3	14.7	12.3	南関東
66.7	62.0	63.3	60.7	68.7	58.0	27.3	34.0	27.3	27.3	25.3	18.0	18.0	11.3	7.3	3.3	4.0	東海
64.3	71.4	57.1	75.0	53.6	39.3	28.6	42.9	28.6	21.4	21.4	17.9	7.1	21.4	7.1	10.7	3.6	北陸
63.5	57.1	50.0	59.6	35.3	45.5	49.4	23.1	30.1	27.6	17.3	17.9	9.6	8.3	12.2	7.1	2.6	関西
59.1	59.9	57.7	52.6	51.1	50.4	30.7	39.4	30.7	24.1	16.1	21.9	16.8	12.4	7.3	8.0	2.9	中国・四国
65.8	69.1	53.3	54.6	59.9	39.5	24.3	34.2	32.2	26.3	17.8	15.8	13.2	10.5	6.6	3.9	3.3	九州・沖縄
65.6	69.1	61.8	62.7	60.5	53.2	36.6	37.7	36.4	28.0	25.4	22.7	14.8	17.0	11.3	8.8	6.2	増した
61.4	59.8	61.2	54.2	53.5	50.9	33.9	28.0	28.0	26.4	17.3	16.6	10.0	8.4	7.9	8.4	4.9	変わらない
63.6	63.6	36.4	63.6	63.6	45.5	—	36.4	18.2	36.4	18.2	9.1	45.5	—	—	—	—	減った
57.3	56.4	62.6	49.8	52.6	46.4	27.5	30.3	30.8	22.3	16.6	13.3	13.3	8.1	6.2	5.7	4.3	わからない

Q03-1

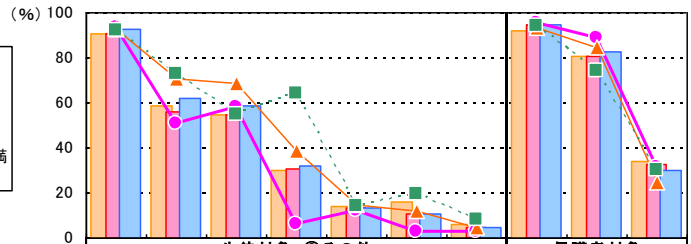
▶「オープンキャンパスへの参加指導」は93％と、前回からさらに増加
▶教師の「校内研修」が年々増加傾向

- 生徒対象の取り組み：その他項目の中では、前回同様「オープンキャンパスへの参加指導」がトップ。つづく「外部の進路イベントへの参加」「進路行事としての学校見学会」「卒業生の就職先への教員の訪問」なども前回に比べ増加した。

- 保護者対象の取り組みでは、前回同様「三者面談」95％、「保護者向け進路ガイダンス」83％の実施率が高い。

- 教師対象の取り組みで実施率が高いのは、前回同様「校内研修」56％、「教育委員会、教育センターなどでの研修」36％など。

■ 進路指導で実施している取組み事項（全体／複数回答）



	調査数	オープンキャンパスへの参加指導	外部の進路イベントへの参加	進路行事としての学校見学会	卒業生の就職先への教員の訪問	卒業生への追跡アンケート	アルバイト指導	卒業生の就職先アンケート	三者面談	保護者向け進路ガイダンス	保護者通信
2012年：全体	1179	92.5	62.2	58.9	31.7	13.1	10.5	4.8	94.5	82.6	29.7
2010年：全体	1208	90.7	56.1	54.6	30.5	13.5	10.8	4.6	94.6	80.9	32.6
2008年：全体	910	90.8	58.9	54.9	30.3	14.2	16.0	6.3	92.1	80.8	34.2

【2012年属性別】

		調査数	オープンキャンパスへの参加指導	外部の進路イベントへの参加	進路行事としての学校見学会	卒業生の就職先への教員の訪問	卒業生への追跡アンケート	アルバイト指導	卒業生の就職先アンケート	三者面談	保護者向け進路ガイダンス	保護者通信
大短進学率別	70%以上	539	93.3	50.6	57.9	5.8	12.2	3.0	2.8	95.4	88.9	31.4
	40～70%未満	234	92.7	70.5	68.4	38.9	15.0	12.0	4.7	93.6	85.0	24.4
	40%未満	388	91.8	72.4	54.6	63.9	13.9	19.6	8.0	94.1	73.7	30.2
設置者別	国公立	879	93.2	62.3	59.8	37.4	14.0	11.7	5.6	95.2	84.2	31.3
	私立	294	90.5	61.2	55.4	14.3	10.9	6.5	2.7	92.2	78.2	25.2
高校タイプ別	普通科	865	92.8	60.2	61.6	22.4	12.6	9.7	4.7	95.3	84.2	31.2
	総合学科	83	95.2	67.5	67.5	62.7	10.8	14.5	3.6	92.8	84.3	24.1
	専門高校	137	90.5	67.9	40.9	70.1	19.7	15.3	9.5	93.4	75.9	26.3
地域別	北海道	88	86.4	70.5	42.0	36.4	9.1	11.4	3.4	88.6	84.1	38.6
	東北	122	93.4	67.2	68.0	52.5	18.0	9.8	12.3	95.1	85.2	39.3
	北関東・甲信越	136	94.9	64.0	70.6	30.1	9.6	11.0	3.7	97.1	80.1	33.8
	南関東	204	90.7	53.4	53.9	12.3	16.7	6.9	3.4	94.6	87.3	23.5
	東海	150	91.3	62.7	56.7	38.0	13.3	14.7	2.0	95.3	82.7	20.7
	北陸	28	96.4	57.1	78.6	35.7	7.1	14.3	—	96.4	96.4	42.9
	関西	156	92.9	60.3	62.2	28.8	14.1	6.4	4.5	96.2	85.9	25.0
	中国・四国	137	92.7	61.3	61.3	35.8	13.9	13.1	6.6	92.7	81.8	24.1
	九州・沖縄	152	95.4	65.8	49.3	31.6	9.9	11.2	5.3	93.4	71.1	38.2
「生徒の意欲」変容度別	増した	453	93.8	66.4	59.6	34.0	16.8	12.4	6.8	94.9	86.5	34.0
	変わらない	428	92.8	60.7	61.0	30.6	11.9	9.6	4.0	96.5	82.2	29.4
	減った	11	100.0	27.3	54.5	36.4	—	—	—	90.9	63.6	18.2
	わからない	211	91.5	60.2	54.5	32.7	11.4	10.0	3.3	93.4	77.7	25.6

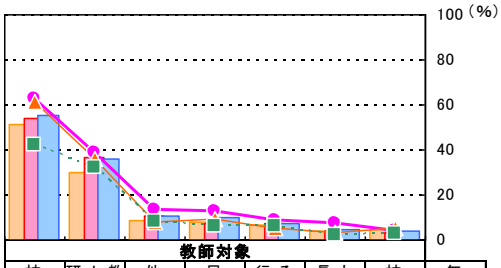
※各カテゴリーごと「2012年：全体」の降順ソート
※【2012年属性別】は、「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

＜生徒対象：その他＞

- 大短進学率別にみると、前回から増加している「外部の進路イベントへの参加」「卒業生の就職先への教員の訪問」や、「アルバイト指導」「卒業生の就職先アンケート」などは進学率が低い学校ほど実施率が高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科よりも総合学科や専門高校での実施率の高さが目立つのは「卒業生の就職先への教員の訪問」。

＜保護者対象、教師対象＞

- 保護者対象の3項目は、進学率[70%以上]の学校や普通科での実施率が他層よりも高めとなる傾向。
- 教師対象の項目は、全般的に進学率が高い学校や普通科などでの実施率が高め。



教師対象

校内研修	教育委員会、教育センターなどでの研修	他校との交流	民間研修	その他・貴校独自行事	大学院に在籍する長期的研修	校外との交流	無回答	
55.5	35.7	10.8	9.9	7.2	4.9	3.9	0.6	2012年：全体
54.1	36.4	10.5	7.2	7.5	4.1	3.4	0.7	2010年：全体
51.4	30.2	8.9	7.8	6.5	4.2	4.6	0.8	2008年：全体
62.9	38.6	13.2	12.8	8.7	7.4	3.7	0.6	70%以上
61.1	36.3	8.1	9.4	5.6	3.4	5.1	0.9	40～70%未満
41.8	32.2	8.0	5.7	6.2	2.3	2.8	0.5	40%未満
56.7	42.2	11.6	8.5	7.2	5.9	3.5	0.6	国公立
51.4	16.3	7.8	13.9	7.5	2.0	5.1	0.7	私立
58.8	37.0	11.9	11.0	7.6	5.4	4.5	0.6	普通科
56.6	30.1	12.0	8.4	4.8	4.8	3.6	—	総合学科
39.4	34.3	4.4	5.1	7.3	3.6	1.5	1.5	専門高校
43.2	10.2	8.0	6.8	4.5	1.1	3.4	2.3	北海道
56.6	47.5	9.8	9.0	6.6	6.6	1.6	—	東北
52.2	46.3	6.6	6.6	5.1	2.2	3.7	—	北関東・甲信越
53.9	34.8	8.3	13.2	9.3	3.4	5.4	0.5	南関東
49.3	31.3	9.3	6.7	8.0	7.3	4.0	0.7	東海
60.7	57.1	17.9	10.7	7.1	7.1	—	—	北陸
51.9	23.1	12.8	16.0	6.4	6.4	3.2	—	関西
63.5	46.0	16.1	10.2	8.0	8.0	5.8	1.5	中国・四国
67.1	36.8	12.5	7.2	7.9	3.3	3.9	0.7	九州・沖縄
58.3	40.0	13.2	10.6	11.3	5.5	4.9	0.9	増した
55.4	35.5	9.1	9.1	4.9	5.6	3.7	0.2	変わらない
63.6	27.3	18.2	18.2	—	—	—	—	減った
54.0	34.1	9.0	8.5	4.7	3.8	2.8	0.9	わからない

Q03-2

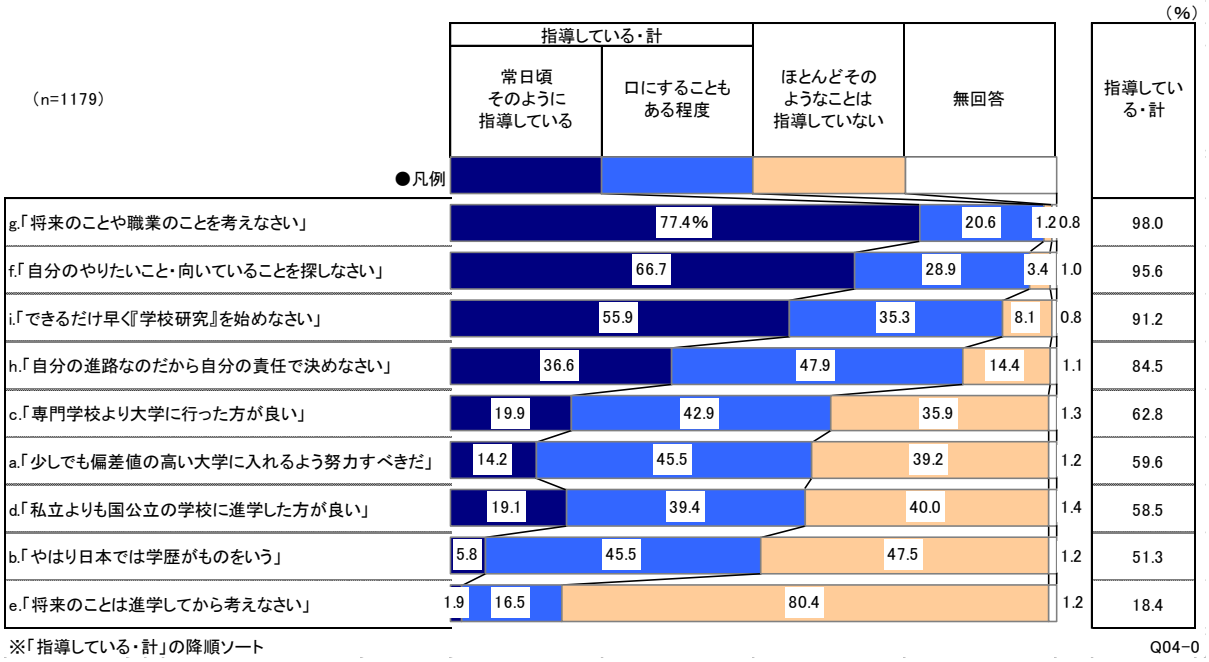
２）進路指導時に生徒に伝えること

▶前回同様、トップは「将来のことや職業のことを考えなさい」

- 進路指導を行う際に教師が生徒に伝える言葉を提示したところ、「常日頃そのように指導している」という割合が最も多かったのは「将来のことや職業のことを考えなさい」77%、ついで「自分のやりたいこと・向いていることを探しなさい」67%、「できるだけ早く『学校研究』を始めなさい」56%。この傾向は前回と同様。

- 「口にすることもある程度」まで合わせた「指導している・計」の割合をみると、9項目中8項目が5割を超える。

■ 進路指導時に生徒に伝えること_a～i（全体／各単一回答）



●「常日頃そのように指導している」「口にすることもある程度」を合わせた、「指導している・計」の割合をみると、各項目の順位は前回同様だが、前回よりも全般的にスコアは減少傾向。

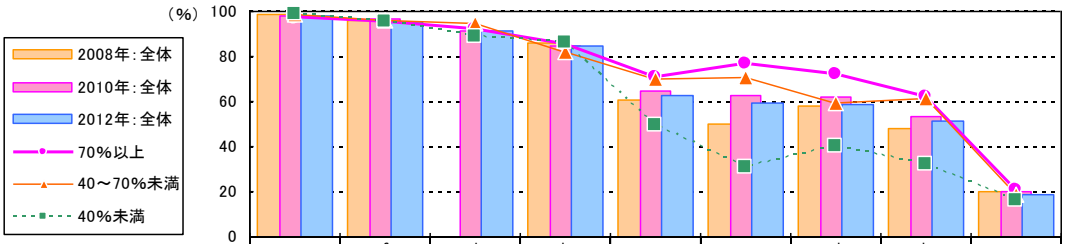
●特に低下が目立ったのは、「専門学校より大学に行った方が良い」「少しでも偏差値の高い大学に入れるよう努力すべきだ」「私立よりも国公立の学校に進学した方が良い」など。前回まで見られた高学歴志向にやや歯止めがかかった印象。

●大短進学率別にみると、前回同様5位以降の4項目は進学率が高い学校ほど「指導している・計」の割合が高くなる。

●設置者別では国公立よりも私立、高校タイプ別では普通科で、「少しでも偏差値の高い大学に入れるよう努力すべきだ」「やはり日本では学歴がものをいう」という指導がなされる割合が高い。

●地域別にみると、「少しでも偏差値の高い大学に入れるよう努力すべきだ」「私立よりも国公立の学校に進学した方が良い」「やはり日本では学歴がものをいう」の高学歴志向を表す3項目が比較的低めなのは、北海道、東北、九州・沖縄。

■ 進路指導時に生徒に伝えること_a～i　※【指導している・計】のスコア一覧（全体／複数回答）



	調査数	g「将来のことや職業のことを考えなさい」	f「自分のやりたいこと・向いていることを探しなさい」	i「できるだけ早く『学校研究』を始めなさい」	h「自分の進路なのだから自分の責任で決めなさい」	c「専門学校より大学に行った方が良い」	a「少しでも偏差値の高い大学に入れるよう努力すべきだ」	d「私立よりも国公立の学校に進学した方が良い」	b「やはり日本では学歴がものをいう」	e「将来のことは進学してから考えなさい」
2012年：全体	1179	98.0	95.6	91.2	84.5	62.8	59.6	58.5	51.3	18.4
2010年：全体	1208	98.2	96.6	91.3	84.9	64.9	62.9	61.7	53.1	20.0
2008年：全体	910	98.8	95.8	*	85.7	61.0	50.2	58.2	47.8	20.0

【2012年属性別】

		調査数	g	f	i	h	c	a	d	b	e
大短進学率別	70%以上	539	97.2	95.4	91.7	85.2	70.7	76.4	72.0	61.8	20.8
	40～70%未満	234	98.7	96.2	94.4	82.1	69.7	70.5	59.4	61.5	18.4
	40%未満	388	98.7	95.6	88.7	85.8	49.2	30.9	40.2	32.0	15.7
設置者別	国公立	879	98.4	95.3	91.5	85.4	63.1	58.0	61.9	48.6	18.0
	私立	294	96.9	96.3	90.1	81.3	61.9	64.6	48.3	59.5	20.1
高校タイプ別	普通科	865	97.8	95.8	91.9	84.6	66.4	67.3	62.4	56.8	19.4
	総合学科	83	98.8	92.8	95.2	91.6	56.6	48.2	57.8	39.8	16.9
	専門高校	137	97.8	97.1	86.1	83.9	46.7	24.8	40.1	31.4	10.9
地域別	北海道	88	98.9	97.7	94.3	83.0	63.6	44.3	50.0	47.7	19.3
	東北	122	97.5	94.3	86.1	84.4	68.0	44.3	60.7	45.9	14.8
	北関東・甲信越	136	99.3	94.9	94.9	85.3	66.2	66.2	62.5	44.1	16.9
	南関東	204	97.5	95.6	87.3	85.3	58.3	65.7	43.6	56.9	20.1
	東海	150	99.3	95.3	92.0	84.0	64.0	59.3	65.3	52.0	17.3
	北陸	28	92.9	92.9	82.1	82.1	53.6	71.4	60.7	53.6	14.3
	関西	156	96.8	96.8	90.4	85.3	55.8	64.7	59.0	57.1	19.2
	中国・四国	137	98.5	95.6	96.4	83.9	67.2	62.0	68.6	51.1	21.2
	九州・沖縄	152	98.0	95.4	92.1	83.6	65.1	57.9	61.2	50.0	19.1

※「2012年：全体」の降順ソート
※【2012年属性別】は、「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q04-1

3）進路指導時に生徒の進学先として重視する点

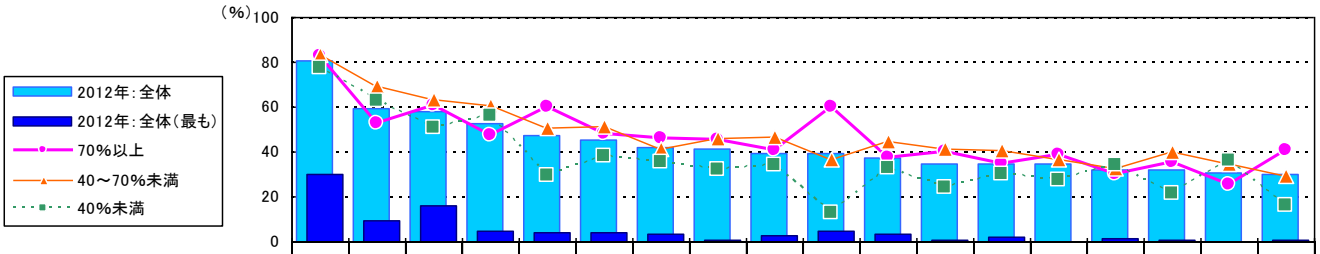
▶トップは「学びたい学部・学科・コースがあること」。「学生の面倒見が良いこと」が2位

▶大短進学率の高い学校では、教育内容・教授や講師陣・学生のレベル感を重視する傾向

- 進路指導時に教師は大学のどのような点を重視するのかをたずねたところ、トップは「学びたい学部・学科・コースがあること」81%、2位は「学生の面倒見が良いこと」60%。以下、「生徒の興味や可能性が広げられること」58%、「就職に有利であること」53%と続く。

- 大短進学率別にみると、いずれもトップは「学びたい学部・学科・コースがあること」。ついで進学率[70%以上]では2位「生徒の興味や可能性が広げられること」、3位「教育内容のレベルが高いこと」。[40～70%未満]と[40%未満]は2位も共通で「学生の面倒見が良いこと」。3位は[40～70%未満]では「生徒の興味や可能性が広げられること」、[40%未満]では「就職に有利であること」となっている。
  - ・進学率の違いによる差が特に顕著だったのは「伝統や実績があること」「教育内容のレベルが高いこと」「教授・講師陣が魅力的であること」「学生の学力が高いこと」などで、[70%以上]の学校での割合が他2つに比べ目立って高くなっている。
  - ・[40～70%未満]の学校は全般的にスコアが高めで、様々な事柄を気にかけている様子がうかがえる。

■ 進路指導時に生徒の進学先として重視する点（全体／複数回答）



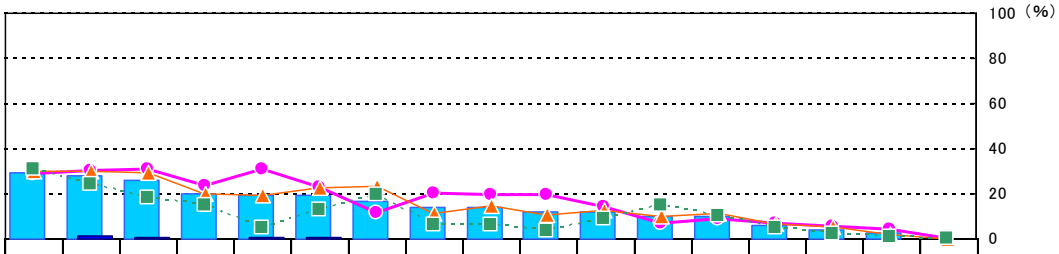
		調査数	学びたい学部・学科・コースがあること	学生の面倒見が良いこと	生徒の興味や可能性が広げられること	就職に有利であること	伝統や実績があること	教育方針・カリキュラムが魅力的であること	卒業後に社会で活躍できること	勉強するのに良い環境であること	専門分野を深く学べること	教育内容のレベルが高いこと	社会で役立つ力が身につくこと	校風や雰囲気が良いこと	将来の選択肢が増えること	学習設備や環境が整っていること	入試方法が生徒に合っていること	学校が発展していく可能性があること	学費が高くないこと	教授・講師陣が魅力的であること
2012年：全体		1179	80.7	59.5	57.8	52.8	47.6	45.5	41.7	41.3	39.6	39.5	37.3	35.0	34.8	34.4	32.0	31.8	30.6	30.0
大短進学率別	70%以上	539	82.4	52.9	60.5	47.5	59.9	47.7	46.2	45.6	41.0	60.3	37.5	39.7	34.9	38.6	29.7	35.4	25.2	40.6
	40～70%未満	234	83.3	69.2	63.2	60.7	50.4	51.3	41.5	45.7	46.6	36.8	44.4	41.5	41.0	36.8	32.5	40.2	34.6	29.1
	40%未満	388	77.3	62.9	51.0	56.2	29.1	38.1	35.1	32.0	34.0	12.9	32.5	23.7	30.2	27.1	34.3	21.6	35.8	15.7
設置者別	国公立	879	80.8	59.5	56.4	54.5	46.2	44.1	40.8	40.5	41.2	38.7	36.4	31.5	34.8	32.4	31.3	31.1	33.4	29.2
	私立	294	80.6	59.5	61.9	47.6	51.7	49.0	43.5	43.5	35.4	42.5	39.8	45.6	34.4	40.1	33.7	34.4	22.4	32.3
高校タイプ別	普通科	865	81.4	59.7	59.5	52.1	52.4	47.7	44.3	44.0	38.7	45.8	39.2	37.8	36.1	36.6	30.6	34.9	29.2	34.6
	総合学科	83	86.7	63.9	57.8	65.1	38.6	43.4	38.6	47.0	39.8	27.7	42.2	34.9	34.9	32.5	36.1	25.3	43.4	26.5
	専門高校	137	73.7	57.7	51.8	54.7	29.2	38.7	32.8	27.0	40.9	10.2	32.1	16.1	24.8	23.4	35.8	20.4	32.1	10.9
地域別	北海道	88	83.0	51.1	59.1	61.4	39.8	36.4	48.9	39.8	34.1	30.7	33.0	29.5	37.5	25.0	23.9	27.3	29.5	19.3
	東北	122	76.2	63.1	57.4	45.1	45.1	44.3	41.0	38.5	41.0	26.2	35.2	32.0	31.1	34.4	37.7	28.7	31.1	25.4
	北関東・甲信越	136	86.0	64.0	58.8	51.5	47.1	40.4	39.7	36.0	39.0	41.9	36.8	39.0	33.1	27.9	34.6	31.6	27.2	29.4
	南関東	204	79.9	62.3	54.9	51.0	52.5	50.5	44.1	41.7	43.1	45.1	41.7	42.6	36.3	35.8	27.9	36.3	25.0	36.3
	東海	150	81.3	64.7	59.3	54.7	51.3	47.3	40.7	39.3	35.3	39.3	36.0	33.3	34.7	38.7	33.3	28.0	29.3	28.7
	北陸	28	71.4	50.0	57.1	39.3	53.6	35.7	42.9	42.9	50.0	50.0	50.0	39.3	42.9	35.7	39.3	39.3	32.1	25.0
	関西	156	80.8	50.6	54.5	50.0	44.2	45.5	41.7	39.1	34.0	35.9	34.0	35.9	32.7	37.8	26.9	32.1	28.8	30.8
	中国・四国	137	78.1	61.3	60.6	56.9	51.8	46.7	37.2	48.9	41.6	43.1	35.0	26.3	34.3	34.3	40.9	32.1	40.9	29.2
	九州・沖縄	152	82.9	57.9	59.9	57.2	42.8	47.4	40.1	45.4	44.7	45.4	40.1	34.9	36.2	35.5	28.9	33.6	35.5	34.2
2012年：全体（最も）		1179	30.2	9.2	15.8	4.4	4.1	3.7	3.5	0.8	2.5	4.4	3.6	0.7	2.0	0.2	1.3	0.9	0.3	0.4

※各カテゴリーごと「2012年：全体」の降順ソート
※「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

● 地域別にみて、全体値を5ポイント以上上回った項目は以下のとおり。

● 南関東で、重視度の高い項目が多岐にわたる。（北陸はサンプル数が少ないので参考）

- ・北海道　就職に有利であること、卒業後に社会で活躍できること、教養が身につくこと
- ・東北　入試方法が生徒に合っていること
- ・北関東・甲信越　学びたい学部・学科・コースがあること、偏差値が生徒に合っていること
- ・南関東　教育方針・カリキュラムが魅力的であること、教育内容のレベルが高いこと、校風や雰囲気が良いこと、教授・講師陣が魅力的であること、偏差値が生徒に合っていること、活気がある感じがすること、周囲の人からの評判が良いこと、有名であること、学生生活が楽しめること、自宅から通えること、交通の便が良いこと
- ・東海　学生の面倒見が良いこと、
- ・北陸　伝統や実績があること、専門分野を深く学べること、教育内容のレベルが高いこと、社会で役立つ力が身につくこと、将来の選択肢が増えること、入試方法が生徒に合っていること学校が発展していく可能性があること、活気がある感じがすること、学生の力が高いこと教養が身につくこと、有名であること、国際的なセンスが身につくこと、規模が大きいこと
- ・関西　（なし）
- ・中国・四国　勉強するのに良い環境であること、入試方法が生徒に合っていること、学費が高くないこと、資格取得に有利であること
- ・九州・沖縄　専門分野を深く学べること、教育内容のレベルが高いこと、寮や奨学金などが充実していること



資格取得に有利であること	偏差値が生徒に合っていること	活気がある感じがすること	周囲の人からの評判が良いこと	学生の学力が高いこと	教養が身につくこと	寮や奨学金などが充実していること	先輩・卒業生が魅力的であること	有名であること	国際的なセンスが身につくこと	学生生活が楽しめること	自宅から通えること	交通の便が良いこと	クラブ・サークル活動が盛んであること	キャンパスがきれいであること	規模が大きいこと	遊びにいくのに便利な立地であること	無回答	
29.5	27.9	26.3	19.8	19.5	19.3	16.4	13.7	13.7	12.2	12.2	10.1	9.7	6.3	4.2	2.6	0.2	0.8	2012年：全体
28.4	30.2	30.4	23.6	30.4	22.4	11.3	20.0	19.1	19.1	13.7	6.5	8.5	6.5	5.2	4.1	0.2	0.7	70%以上
29.9	30.3	29.5	20.1	19.2	22.6	23.5	11.1	14.5	10.7	12.4	10.3	11.1	6.4	5.1	2.1	—	0.4	40～70%未満
30.4	23.7	18.3	14.4	4.6	12.4	19.1	6.2	5.9	3.4	8.5	14.9	9.8	4.9	2.1	0.8	0.3	1.0	40%未満
28.2	25.4	23.9	18.5	19.3	19.0	17.3	12.7	11.8	10.7	9.8	9.8	8.6	5.0	3.6	2.7	0.2	0.7	国公立
33.3	35.7	33.7	23.5	20.1	20.1	13.6	16.7	19.4	17.0	19.0	10.9	12.6	9.9	5.8	2.4	—	1.0	私立
29.7	28.9	28.4	21.2	22.1	21.3	15.3	15.1	15.5	14.0	13.6	8.8	9.8	5.9	5.0	3.0	0.1	0.6	普通科
27.7	27.7	26.5	21.7	14.5	18.1	19.3	13.3	14.5	7.2	7.2	15.7	16.9	7.2	1.2	2.4	1.2	—	総合学科
31.4	16.8	11.7	10.9	3.6	10.2	19.0	5.1	4.4	4.4	4.4	13.1	5.8	6.6	1.5	—	—	2.2	専門高校
15.9	15.9	19.3	10.2	12.5	25.0	17.0	9.1	8.0	5.7	6.8	4.5	1.1	6.8	2.3	1.1	—	—	北海道
26.2	20.5	18.9	20.5	13.9	13.9	19.7	6.6	7.4	6.6	11.5	10.7	2.5	4.9	2.5	3.3	—	0.8	東北
30.1	33.8	24.3	22.1	19.1	22.1	11.0	16.2	14.0	9.6	9.6	6.6	6.6	3.7	5.1	2.2	—	0.7	北関東・甲信越
32.8	36.8	32.4	26.5	22.5	20.6	10.3	18.6	20.1	15.2	18.6	18.1	15.2	6.4	6.4	2.0	0.5	1.0	南関東
32.7	30.0	25.3	16.0	18.0	14.0	15.3	15.3	12.7	10.7	6.0	11.3	14.0	6.7	2.7	2.0	—	0.7	東海
25.0	32.1	39.3	21.4	25.0	32.1	7.1	17.9	28.6	17.9	7.1	14.3	10.7	3.6	7.1	14.3	—	—	北陸
25.6	25.6	27.6	16.0	23.1	16.0	16.7	14.1	12.2	14.7	13.5	9.0	12.2	7.7	5.8	3.2	—	1.3	関西
38.7	29.9	25.5	21.2	21.2	19.7	19.7	7.3	14.6	15.3	9.5	6.6	12.4	10.2	4.4	2.2	0.7	0.7	中国・四国
28.3	21.7	28.3	19.7	19.7	21.7	25.7	16.4	12.5	14.5	17.1	7.2	5.9	3.9	2.0	2.6	—	0.7	九州・沖縄
0.2	1.2	0.4	0.2	0.8	0.4	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	—	—	—	—	7.8	

Q05

4）高大接続・連携／大学・短期大学・文部科学省に期待すること

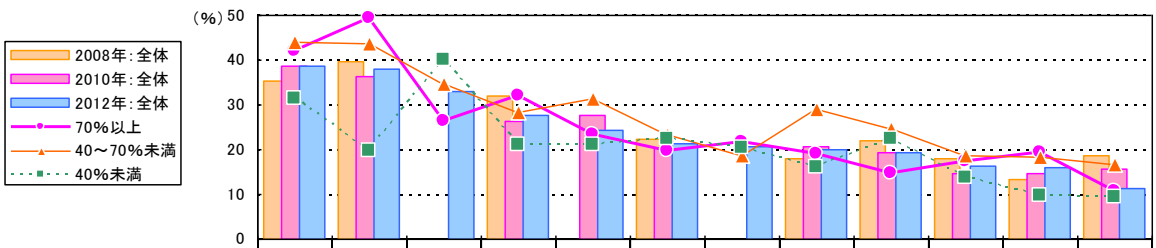
▶最も期待することは、「わかりやすい学部・学科名称」、ついで「入試の種類の抑制」
▶1・2位とも前回同様。

- 高大接続・連携の観点から大学・短大および文部科学省に期待することをたずねたところ、トップは「わかりやすい学部・学科名称」39%、2位は「入試の種類の抑制」38%、3位は今回新しく追加した「就職実績の公開」33%。

- 大短進学率別にみると、進学率[70%以上]では「入試の種類の抑制」、[40～70%未満]では「わかりやすい学部・学科名称」「入試の種類の抑制」「AO入試・推薦入試の実施時期の見直し」「AO入試・推薦入試における学力測定の実施」「入学前教育の実施」「入学者受け入れ方針の明確化」、[40%未満]では「就職実績の公開」「推薦入試枠の拡大」が、それぞれ他層に比べ高くなっている点が特徴的。

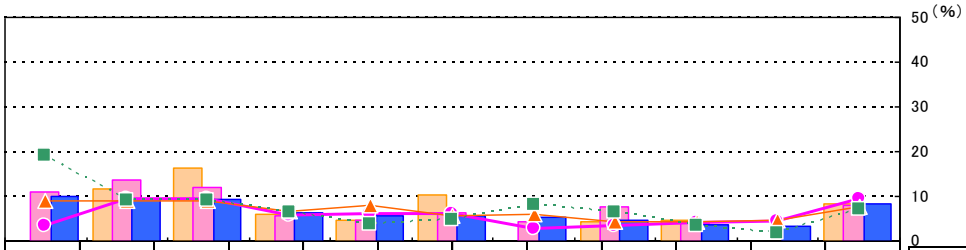
- 高校タイプ別にみると、総合学科では「就職実績の公開」「AO入試・推薦入試の実施時期の見直し」「中退者（率）情報の公開」、専門高校では「就職実績の公開」「推薦入試枠の拡大」などが20%を超え他層に比べ高くなっている。

■ 高大接続・連携／大学・短期大学・文部科学省に期待すること（全体／複数回答）



		調査数	わかりやすい学部・学科名称	入試の種類の抑制	就職実績の公開	実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加	AO入試・推薦入試の実施時期の見直し	中退者（率）情報の公開	卒業時に身につく能力の明確化	AO入試・推薦入試における学力測定（高大接続テスト（仮称））の実施	入学前教育の実施	大学・短大の入試の考え方やデータの情報公開	思考力・判断力等を測定する入試の開発	入学者受入れ方針の明確化
2012年：全体		1179	38.8	37.9	32.9	27.7	24.3	21.3	20.8	20.0	19.3	16.5	15.9	11.5
2010年：全体		1208	38.7	36.3	＊	26.5	27.8	20.2	＊	20.6	19.4	14.8	14.7	15.6
2008年：全体		910	35.4	39.6	＊	31.9	＊	22.5	＊	18.1	22.0	18.1	13.5	18.8
【2012年属性別】														
大短進学率別	70%以上	539	41.9	49.5	26.3	32.1	23.2	19.7	21.7	19.1	14.7	17.4	19.5	10.6
	40～70%未満	234	44.0	43.6	34.6	28.2	31.2	23.5	18.8	29.1	24.8	18.8	18.4	16.7
	40%未満	388	31.2	19.6	39.9	21.1	20.9	22.4	20.4	16.0	22.2	13.7	9.8	9.5
設置者別	国公立	879	39.2	38.8	35.3	27.4	24.1	21.5	19.9	20.0	19.5	16.4	16.4	11.3
	私立	294	37.4	35.7	25.2	28.2	24.1	21.1	23.1	20.4	19.0	16.3	14.6	12.2
高校タイプ別	普通科	865	39.8	42.5	31.1	30.1	25.7	22.3	21.3	21.3	19.2	17.0	17.2	11.6
	総合学科	83	42.2	37.3	47.0	22.9	31.3	27.7	15.7	24.1	24.1	22.9	10.8	15.7
	専門高校	137	32.8	17.5	40.1	19.0	17.5	13.1	22.6	13.9	19.7	8.8	10.2	8.8
地域別	北海道	88	34.1	22.7	27.3	23.9	19.3	19.3	23.9	18.2	22.7	14.8	13.6	11.4
	東北	122	38.5	27.9	26.2	24.6	13.9	13.9	19.7	23.0	16.4	17.2	13.1	13.9
	北関東・甲信越	136	40.4	42.6	41.2	30.1	30.1	23.5	22.8	25.7	22.1	16.2	18.4	11.0
	南関東	204	39.7	40.2	35.3	29.4	20.6	27.0	19.6	20.1	18.6	14.2	18.1	13.7
	東海	150	41.3	48.0	35.3	26.0	35.3	23.3	22.7	18.7	21.3	17.3	17.3	9.3
	北陸	28	46.4	42.9	21.4	28.6	28.6	14.3	21.4	3.6	14.3	28.6	10.7	7.1
	関西	156	36.5	42.9	30.1	23.7	26.9	25.6	20.5	19.9	23.1	16.7	16.0	10.9
	中国・四国	137	40.9	38.0	29.9	29.9	24.1	21.9	14.6	21.2	13.9	17.5	17.5	12.4
	九州・沖縄	152	35.5	32.2	34.9	30.9	19.7	13.8	23.0	17.8	18.4	15.1	12.5	9.9

※「2012年：全体」の降順ソート
※「＊」は該当なし
※【2012年属性別】は、「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け



推薦入試枠の拡大	調査書記載内容の明確化	経営・財務状況の開示	高校までの学習歴に関する情報を引き継ぐ仕組みづくり	大学入試資格試験の実施	「第三者評価」のわかりやすい表現での公開	AO入試枠の拡大	大学・短大の調査書の積極的活用	センター試験の複数回化	飛び級制度の実施	その他	無回答	AO・推薦入試枠の拡大	
9.9	9.3	9.2	6.3	5.8	5.6	5.2	4.6	3.8	3.5	8.2	4.8	10.9	2012年：全体
11.0	13.7	12.1	5.7	4.7	6.2	4.3	7.8	4.1	*	7.9	5.2	12.3	2010年：全体
*	11.8	16.3	5.9	4.7	10.2	*	4.5	4.8	*	8.4	3.4	8.4	2008年：全体
3.5	9.5	9.5	5.6	6.1	6.1	2.6	3.5	3.9	4.3	9.5	3.9	4.1	70%以上
9.0	9.0	9.0	6.8	8.1	5.6	6.0	4.3	4.3	4.7	7.7	3.8	10.7	40～70%未満
19.1	9.0	9.0	6.2	3.6	4.6	8.0	6.2	3.4	1.8	7.0	7.0	20.1	40%未満
10.0	9.7	10.8	6.1	5.6	5.9	5.2	5.1	3.6	2.8	8.8	4.4	10.9	国公立
9.5	8.5	4.4	6.5	6.5	4.4	4.8	2.7	4.4	5.4	6.8	6.1	10.5	私立
5.7	9.5	8.4	5.8	6.4	6.4	3.6	4.2	4.0	3.7	8.0	4.2	6.5	普通科
12.0	4.8	19.3	10.8	8.4	4.8	3.6	10.8	6.0	4.8	8.4	3.6	12.0	総合学科
29.9	8.8	8.8	5.8	2.2	2.9	13.9	2.9	2.2	2.2	7.3	8.0	32.8	専門高校
10.2	10.2	9.1	3.4	3.4	3.4	2.3	3.4	2.3	3.4	10.2	8.0	10.2	北海道
12.3	12.3	6.6	5.7	4.9	4.1	9.8	6.6	4.9	1.6	8.2	5.7	14.8	東北
8.1	11.8	11.8	6.6	8.1	10.3	4.4	6.6	3.7	5.9	2.9	3.7	8.8	北関東・甲信越
7.4	7.4	10.3	6.9	4.4	4.4	3.9	3.4	3.4	3.4	9.3	6.4	8.8	南関東
9.3	12.7	8.0	8.0	4.0	4.0	3.3	6.0	0.7	1.3	10.0	4.7	9.3	東海
3.6	17.9	10.7	3.6	7.1	14.3	7.1	3.6	7.1	—	10.7	7.1	7.1	北陸
5.1	7.7	9.0	5.8	8.3	5.8	1.3	2.6	7.7	5.1	9.6	3.8	5.1	関西
15.3	8.8	11.7	4.4	4.4	5.8	8.8	2.9	3.6	5.1	4.4	1.5	16.1	中国・四国
14.5	4.6	6.6	7.9	7.9	4.6	7.2	5.3	3.3	2.6	10.5	5.3	15.8	九州・沖縄

Q15

5）高専接続・連携／専門学校・行政に期待すること

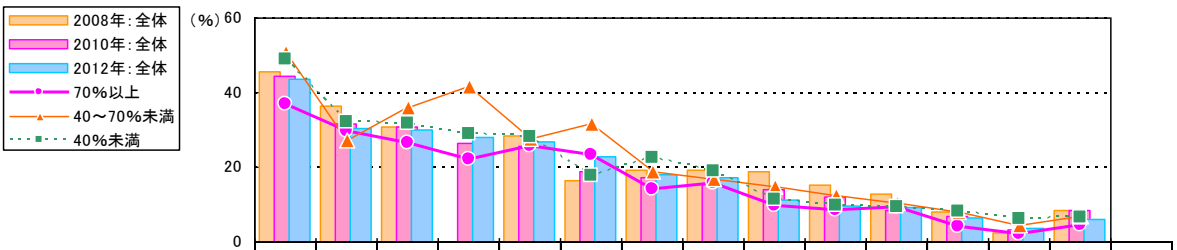
▶最も期待することは、「就職実績の公開」
▶ついで「卒業時に身につく能力の明確化」や「中退者（率）情報の公開」

- 高専接続・連携の観点から専門学校および行政に期待することをたずねたところ、トップは「就職実績の公開」44%、ついで「卒業時に身につく能力の明確化」「中退者（率）情報の公開」30%。前回同様の傾向となった。

- 大短進学率別にみると、進学率 [40～70%未満]では「就職実績の公開」「中退者（率）情報の公開」「AO入試の実施時期の見直し」「学力測定の実施」、[40%未満]では「就職実績の公開」が他2層に比べ高くなっている点が特徴的。[70%以上]は他2層に比べ全般的に低い。

- 高校タイプ別にみると、全般的に高めなのは総合学科。

■ 高専接続・連携／専門学校・行政に期待すること（全体／複数回答）



	調査数	就職実績の公開	卒業時に身につく能力の明確化	中退者（率）情報の公開	AO入試の実施時期の見直し	資格取得情報の公開	学力測定の実施	実際の授業に高校生が触れる機会の増加	業界の最新情報の提供	入学者受入れ方針の明確化	入学定員の明確化	「第三者評価」のわかりやすい表現での公開	教員向け説明会の充実	AO入試の実施	その他	無回答
2012年：全体	1179	43.6	30.4	29.9	28.1	26.9	22.8	18.2	17.3	11.2	9.5	9.4	6.3	3.8	5.9	13.1
2010年：全体	1208	44.6	31.5	30.9	26.4	25.6	19.0	17.3	15.6	14.2	12.0	8.5	6.9	3.1	8.6	12.7
2008年：全体	910	45.7	36.6	30.9	＊	28.6	16.5	19.3	19.1	19.0	15.1	12.9	8.0	2.4	8.4	13.4
【2012年属性別】																
大短進学率別　70%以上	539	36.7	29.7	26.3	22.1	25.8	23.2	14.1	15.6	9.8	8.5	9.1	4.1	2.0	4.6	18.9
40～70%未満	234	50.9	27.4	35.9	41.5	27.8	31.6	18.8	16.7	15.0	12.4	10.3	8.1	4.3	6.8	7.7
40%未満	388	48.7	32.2	31.7	28.9	28.1	17.8	22.4	18.8	11.3	9.5	9.3	8.2	5.9	6.4	8.5
設置者別　国公立	879	47.1	31.2	32.2	29.8	27.9	25.0	18.4	18.0	12.2	11.6	10.1	5.9	3.9	5.6	10.5
私立	294	33.0	27.2	23.5	23.1	23.8	16.7	17.3	15.0	8.5	3.4	7.1	7.5	3.7	7.1	20.7
高校タイプ別　普通科	865	41.2	29.8	30.4	27.7	27.4	24.6	16.3	17.1	10.6	9.4	9.4	6.7	3.1	5.9	14.7
総合学科	83	57.8	34.9	47.0	48.2	28.9	31.3	24.1	19.3	15.7	14.5	9.6	7.2	8.4	7.2	2.4
専門高校	137	51.1	29.9	21.9	23.4	29.2	9.5	25.5	19.0	10.9	8.0	7.3	5.8	5.1	6.6	10.2
地域別　北海道	88	44.3	34.1	25.0	25.0	21.6	23.9	17.0	21.6	10.2	4.5	4.5	4.5	5.7	9.1	11.4
東北	122	32.8	34.4	24.6	23.0	21.3	23.8	24.6	18.9	8.2	4.9	10.7	7.4	3.3	5.7	13.1
北関東・甲信越	136	49.3	30.9	36.8	30.9	30.1	30.1	15.4	16.9	10.3	14.0	11.0	5.9	3.7	6.6	9.6
南関東	204	46.1	28.4	33.3	24.5	29.9	15.7	12.7	16.7	11.3	11.8	13.2	5.9	1.5	6.9	19.1
東海	150	50.0	33.3	34.0	39.3	29.3	24.7	19.3	12.7	12.0	12.7	6.7	5.3	4.7	6.7	9.3
北陸	28	25.0	28.6	25.0	32.1	21.4	17.9	14.3	7.1	17.9	10.7	14.3	7.1	3.6	3.6	21.4
関西	156	35.3	30.8	28.2	31.4	25.6	21.2	18.6	14.7	10.9	7.7	9.0	3.8	1.9	5.1	17.3
中国・四国	137	43.8	25.5	25.5	23.4	27.0	20.4	18.2	21.9	16.8	10.2	8.8	8.8	7.3	2.9	8.0
九州・沖縄	152	48.7	27.0	29.6	25.7	27.0	28.3	22.4	19.1	8.6	7.2	7.2	8.6	4.6	5.9	11.2

※「2012年：全体」の降順ソート
※「＊」は該当項目なし
※【2012年属性別】は、「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q16

【フリーコメント⑤】大学・短大・専門学校との接続・連携についての意見・課題

【大短進学率70％以上】

▶入試制度のあり方を変えて欲しい

- 入試形態。マークシートなど、正解を選ぶ入試ではなく、思考力や面接重視など、個を選ぶものへ（南関東/普通）
- 入試の簡素化（東海/普通）
- AO入試、推薦入試はやめるか、一般入試と同じ時期にやってほしい。3年間しっかり勉強させてから進学させたい（九州・沖縄/普通）
- AO入試の実施時期、および合格発表が早すぎるし、入学前課題を課して欲しい（四国/普通）
- エントリー時点での内定通知やAO入試の入学金免除などで8月以前での囲い込みをやめてほしい（中国/普通）

▶大学に入学できる“学力”の見直しを

- きちんと学力を身につけていないと入学できない大学になって欲しい。大学が大学レベルを維持していないことが多すぎる（関西/普通）
- 本当に勉強をした（努力をした）者だけが進学できるシステムを、再構築してほしい（南関東/普通）

【大短進学率40～70％未満】

▶AO入試や専門学校の動きの早期化・易化を問題視

- AO入試、推薦入試は11月以降にしてほしい。少なくとも3年9月までは学校の授業に集中させたい（東海/総合）
- AO入試は、最もハードルの高い入試にすべきである。名前を書くだけや、オープンキャンパスに参加しただけで、“合格”と言うのはやめて欲しい（東海/総合）
- AO、公募の抑制、日程の後倒し、入試科目数の増加（文系なら少なくても3科目）（関西/普通）
- AO入試について･･･夏休みにほぼ進路が決定してしまうのはクラス、学年のことを考えても望ましくない。時期を考えて貰いたい（北陸/普通）

▶学費面への要望

- [大学・短大には]学費の納入の経済状態による対応の多面化。[専門学校には]学費を安くして欲しい（東北/普通）

▶教育内容・レベル（質）の明示

- [大学・短大には] 7年間を見通した教育の構築。[専門学校には]スペシャリスト養成の充実（北海道/専門）
- [大学・短大には]国際競争力をつけるための語学の充実。資格取得者のレベルアップのための方策。[専門学校には]一般教養の充実と、専門知識の高度化（関西/普通）

【大短進学率40％未満】

▶厳しく接してほしい（生徒を甘やかさないで）

- 大学、短大の厳しさに触れる機会をつくってほしい。入学してほしいため、やさしく扱わないで欲しい（北関東/普通）
- 学力や意欲が低くても地方の大学や短大は推薦で受かる現実を問題視（四国/総合）

▶安易な入試方法はやめて

- 大学・短大・専門学校に共通しますが、AO入試や推薦入試で早期に進学が決まる場合、学力が維持できない（高められない）現実があると思います。その対応を考慮する必要があると思います（東海/総合）
- AO、推薦で多くの合格者を出し、一般入試が実質意味をなしていない現状は問題である（四国/総合）
- しっかりとした学力検査を。基礎学力をつけさせたい（九州・沖縄/専門）

▶きちんとした評価機関による第三者評価を

- 専門学校の客観的評価リストが欲しい（東海/専門）
- きちんとした評価機関がないため、第三者的な機関の創設と、情報開示が必要（九州・沖縄/普通）

第Ⅱ部　キャリア教育の実態

1.キャリア教育の実施状況

1)キャリア教育担当部署の設置状況

▶最も多いのは「進路指導担当部署が兼ねている」

▶「担当する部署はない」はほぼ前回並み

- キャリア教育の担当部署の設置状況をたずねたところ、最多は「進路指導担当部署が兼ねている」64%で、前回よりも3ポイント減少。その分「進路指導の業務を含んだ担当部署を設けている」や「進路指導とは別の部署・組織を設けている」がそれぞれ微増した。「担当する部署はない」はほぼ前回並みだった。

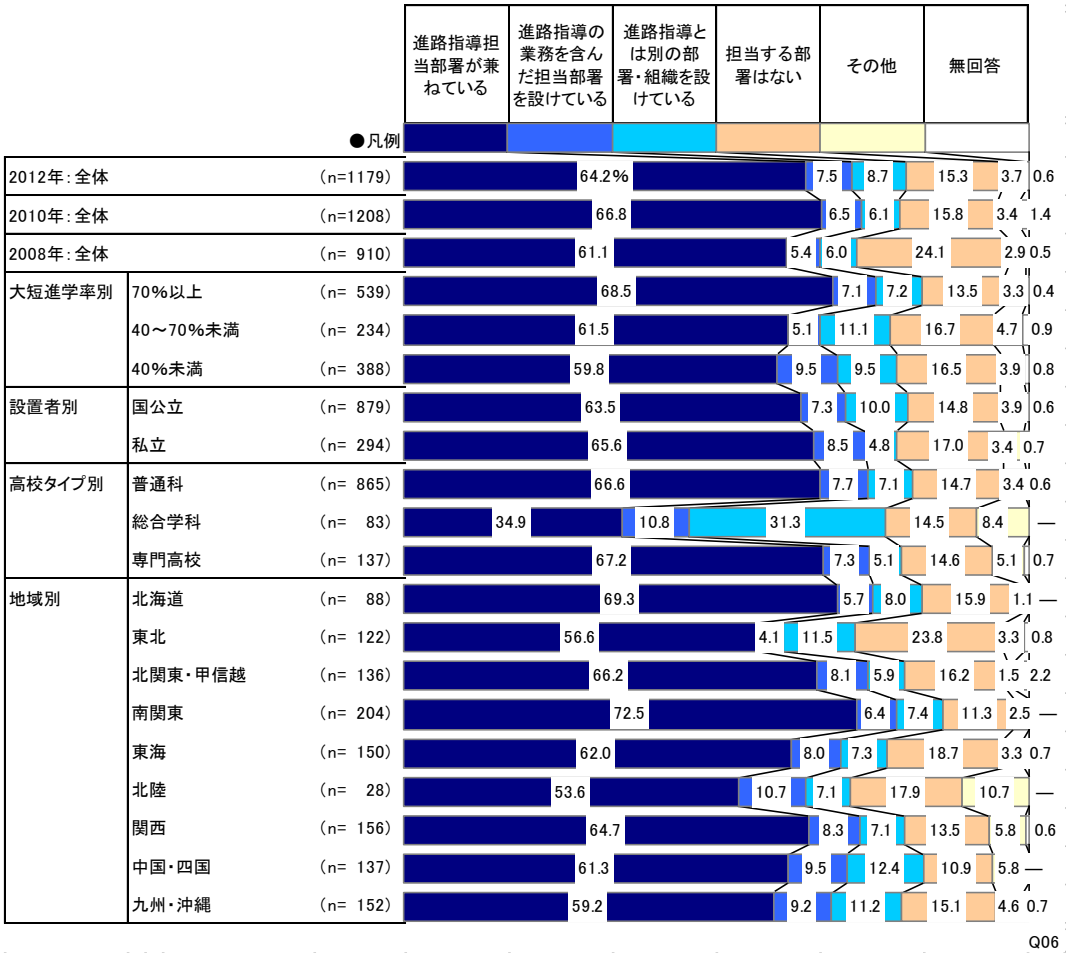
- 大短進学率別にみると、「担当する部署はない」が最も低いのは進学率[70%以上]。

- 設置者別にみると、国公立は私立よりも「担当する部署はない」割合が低い。

- 高校タイプ別にみると、総合学科のみ「進路指導とは別の部署・組織を設けている」割合が高く3割を超える。

- 地域別にみると、「担当する部署はない」が最も高かったのは東北(24%)。ついで東海(19%)、北陸(18%)。反対に低いのは、南関東、中国・四国(11%)。

■ キャリア教育担当部署の設置状況(全体／単一回答)



２)キャリア教育担当部署名・部門名

▶「進路」「指導」というワードがつく部署名に集中

- キャリア教育を担う部署の名前で最も多かったのは「進路（進学）指導部（課、グループ、委員会）」で、全体の１／４。

- 「キャリア」というワードがつく名称として最も多かった「キャリア教育（推進、担当）部（課、係）」も、全体の6%

■キャリア教育担当部署の名前（キャリア教育担当部署を設置している／自由回答）

（%）

順位		全体 (n=1179)	大短進学率別 70%以上 (n=539)	40～70%未満 (n=234)	40%未満 (n=388)
1	進路（進学）指導部（課、グループ、委員会）	25.3	25.6	23.5	27.1
2	キャリア教育（推進、担当）部（課、係）	5.9	3.5	7.3	8.2
3	進路部（課）、教育企画部（課）	3.9	4.8	3.4	3.1
4	教務（部）	2.5	3.0	3.0	2.1
5	総合的な学習の時間委員（担当）	1.7	1.5	0.4	2.3
6	総合学科（推進）部（課、係）	1.5	0.9	3.0	1.5
7	就職課、就職指導部（委員会）	0.9	0.7	1.3	1.0
	企画部（係）	0.9	1.5	1.3	—
9	教育研究（企画）部	0.8	1.1	1.3	0.5
	キャリアガイダンス（グループ、担当）	0.8	0.9	0.4	1.0
11	研究、研修（部）	0.7	1.5	—	—
12	キャリア支援□サポート、推進）部（課、グループ）	0.6	0.7	0.9	0.3
13	進路（情報室、資料室、支援グループ）	0.4	0.4	0.9	0.3
14	キャリア設計（教育）グループ	0.3	0.4	—	0.3
	ガイダンス部（グループ）	0.3	0.6	—	—
	総務部	0.3	0.6	—	—
17	進路ガイダンス	0.2	0.4	—	—
	教育本部	0.2	0.2	—	0.3
	学習支援（指導）部	0.2	0.2	0.4	—
	商業（科、教育部、総括部）	0.2	—	0.4	0.3
	インターンシップ係（委員会）	0.2	0.2	—	0.3
	その他（出現数1件のみ）	2.7	1.9	3.4	4.1
	名前はない□全校で、学年ごと、2年の担任）	1.8	1.9	2.1	2.3

Q06-0

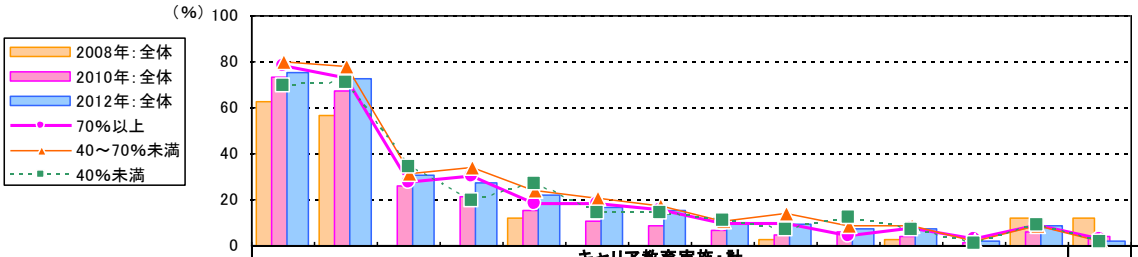
3）キャリア教育実施時間

▶前回同様、主な実施時間は「総合学習の時間」や「ロングホームルーム」
▶「実施していない」は、前回よりもさらに減少

- どの時間にキャリア教育を実施しているかでは、「総合的な学習の時間」76%、「ロングホームルーム」73%と、回答が集中し、前回よりもさらにスコアが増加したが、他項目も全般的に増加傾向。

- 大短進学率別で目立った違いはないが、全体値で1位・2位の「総合的な学習の時間」「ロングホームルーム」や「長期休暇の課題」「修学旅行や遠足」など、進学率[40～70%未満]で高めの項目が多い。「普段の学校生活全般の中で」「教科の時間」「キャリア・ガイダンスを内容とする学校設定科目授業時間」は進学率が低い学校ほど、高くなる傾向。
- 学校タイプ別にみると、総合学科は「長期休暇」「教科の時間」「キャリア・ガイダンスを内容とする学校設定科目授業時間」、専門高校は「普段の学校生活全般の中で」「教科の時間」などが普通科に比べ高い点が特徴的。

■ キャリア教育実施時間（全体／複数回答）



		調査数	キャリア教育実施・計																
			総合的な学習の時間	ロングホームルーム	普段の学校生活全般の中で	長期休暇（春・夏・冬休みなど）の課題	教科の時間	修学旅行や遠足	文化祭や体育祭などの学校行事	ショートホームルーム	生徒会活動	キャリア・ガイダンスを内容とする学校設定科目授業時間	部活動の時間	宗教・道徳などの時間	その他	特に実施していない	無回答	キャリア教育実施・計
2012年：全体		1179	75.6	73.0	30.7	27.1	22.1	17.0	15.3	10.3	9.3	7.5	7.4	2.0	9.0	2.1	0.8	97.1
2010年：全体		1208	73.5	67.4	25.7	21.1	15.2	10.9	8.4	7.0	4.6	5.7	4.1	1.3	5.9	4.1	0.6	95.4
2008年：全体		910	62.4	56.7	*	*	12.2	*	*	*	2.6	*	2.4	*	12.0	12.3	2.2	85.5
【2012年属性別】																			
大短進学率別	70%以上	539	77.9	72.5	27.1	30.2	18.2	17.8	15.6	9.6	9.5	3.7	7.4	2.8	8.7	2.4	0.6	97.0
	40～70%未満	234	80.3	78.2	31.6	34.2	23.9	20.9	17.1	10.7	13.7	8.5	8.5	1.7	8.5	2.1	0.4	97.4
	40%未満	388	69.3	70.9	33.8	19.1	26.5	13.9	13.7	10.6	6.4	12.1	6.7	1.0	9.0	1.3	1.3	97.4
設置者別	国公立	879	80.3	72.7	32.9	27.4	25.7	18.7	17.3	9.8	10.5	8.0	8.6	0.8	8.8	1.1	0.7	98.2
	私立	294	60.9	73.8	23.5	26.5	11.6	12.2	9.2	11.6	5.8	6.1	3.4	5.4	9.2	5.1	1.0	93.9
高校タイプ別	普通科	865	80.6	72.7	28.7	28.7	20.2	18.0	15.6	10.2	10.3	5.0	8.0	2.5	7.3	2.3	0.5	97.2
	総合学科	83	90.4	62.7	30.1	36.1	27.7	19.3	10.8	8.4	6.0	28.9	2.4	2.4	22.9	1.2	—	98.8
	専門高校	137	40.1	82.5	41.6	18.2	30.7	11.7	16.1	13.1	7.3	8.0	8.0	—	10.9	0.7	2.2	97.1
地域別	北海道	88	83.0	69.3	34.1	17.0	23.9	11.4	9.1	9.1	2.3	12.5	4.5	—	9.1	—	—	100.0
	東北	122	81.1	74.6	32.0	18.0	27.0	10.7	19.7	9.8	14.8	4.9	12.3	1.6	8.2	1.6	0.8	97.5
	北関東・甲信越	136	81.6	78.7	33.8	28.7	24.3	19.1	20.6	11.8	13.2	8.1	13.2	5.1	11.0	1.5	1.5	97.1
	南関東	204	76.0	74.0	27.9	32.8	24.0	15.2	12.3	13.2	6.9	3.9	6.4	3.9	11.8	2.9	1.0	96.1
	東海	150	68.0	70.7	30.7	38.7	18.7	18.0	15.3	8.7	8.7	6.0	7.3	0.7	12.7	0.7	0.7	98.7
	北陸	28	82.1	64.3	28.6	25.0	21.4	25.0	3.6	7.1	10.7	10.7	—	3.6	—	—	3.6	96.4
	関西	156	59.6	72.4	23.1	25.0	13.5	15.4	7.7	10.3	5.1	11.5	3.8	0.6	9.0	4.5	1.3	94.2
	中国・四国	137	82.5	81.8	28.5	31.4	24.8	22.6	16.1	7.3	8.0	9.5	3.6	0.7	5.8	1.5	—	98.5
	九州・沖縄	152	76.3	63.8	37.5	19.1	23.0	20.4	23.7	10.5	14.5	5.9	9.2	1.3	3.9	3.3	—	96.7
「生徒の意欲」変容度別	増した	453	78.6	76.8	33.6	31.3	25.8	19.0	14.1	13.9	10.2	9.1	7.1	3.5	11.3	—	—	100.0
	変わらない	428	79.9	75.9	29.2	28.0	20.6	15.7	16.8	7.7	9.8	7.2	7.7	0.9	7.9	1.2	0.7	98.1
	減った	11	63.6	63.6	18.2	27.3	9.1	18.2	9.1	9.1	—	18.2	9.1	—	9.1	—	—	100.0
	わからない	211	66.8	64.9	30.8	22.3	19.0	15.6	15.2	7.6	7.6	5.2	7.6	0.9	8.1	4.7	0.9	94.3

※「2012年：全体」の降順ソート
※「＊」は該当項目なし
※【2012年属性別】は、「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q07

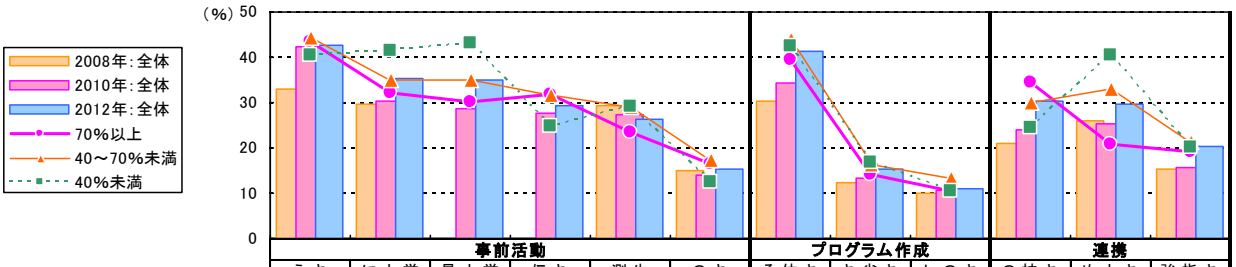
4）キャリア教育の進捗状況

▶事前活動、プログラム作成、連携などを中心にほとんどの項目が増加

- キャリア教育の具体的な推進状況をたずねたところ、全22項目のうち最も高かったのは【事前活動】の「キャリア教育の意味を生徒に伝えている」43%、以下【プログラム作成】「キャリア教育について組織的･体系的な指導計画を作成している」41%、【事前活動】「学校全体のキャリア教育の目標として、育てる生徒像を具体的に設定している」とつづく。
- 「キャリア教育は特に行っていない」は6%と、08年から毎回減少している。

- 【事前活動】【プログラム作成】【連携】などの6つの大分類でみてみると、今回いずれも増加傾向にあるが、特に伸びが大きい項目があったのは【事前活動】【プログラム作成】【連携】の3項目。

■ キャリア教育の進捗状況（全体／複数回答）



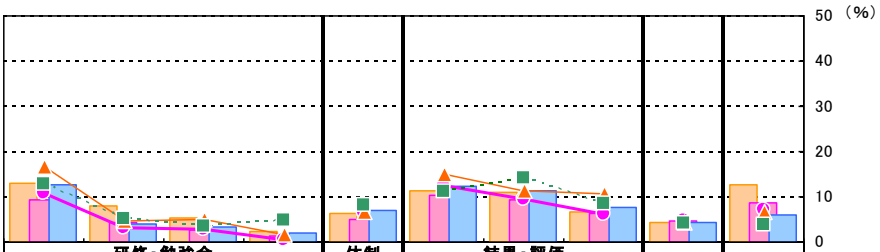
		調査数	キャリア教育の意味を生徒に伝えている	学校全体として、育てる生徒像を具体的に設定している	学校全体のキャリア教育の目標として、身につけさせたい力を具体的に設定している	キャリア教育の意味を保護者に伝えている	生徒の実態や要望の情報収集・測定・データ化を実施している	キャリア教育について自校独自の定義づけをしている	キャリア教育について組織的・体系的な指導計画を作成している	キャリア教育に関する文部科学省や教育委員会などの資料・テキストを教員に配布している	キャリア教育に関する自校独自の資料・テキストを教員に配布している	キャリア教育推進のため、小学校、中学校、専門学校、大学との連携を強めている	キャリア教育推進のため、学校と地域や民間企業との連携を強めている	キャリア教育推進のため、進路指導担当部署と各教科の連携を強めている
2012年：全体		1179	（1）42.7	（3）35.5	（4）35.0	（7）29.3	（8）26.5	（11）15.2	（2）41.2	（10）15.5	（15）10.9	（5）30.2	（6）29.7	（9）20.2
2010年：全体		1208	（1）42.2	（3）30.2	（4）28.6	（5）27.6	（6）27.2	（10）13.9	（2）34.4	（11）13.2	（12）10.8	（8）24.0	（7）25.3	（9）15.8
2008年：全体		910	（1）33.0	（3）29.8	＊＊	＊＊	（4）29.2	（8）14.9	（2）30.5	（10）12.3	（13）9.9	（6）20.9	（5）26.0	（7）15.2
【2012年属性別】														
大短進学率別	70%以上	539	43.2	31.9	29.9	31.7	23.4	16.3	39.3	14.1	10.2	34.5	20.6	19.1
	40～70%未満	234	44.4	35.0	35.0	31.6	29.1	17.5	44.0	16.2	13.2	29.9	32.9	21.4
	40%未満	388	40.2	41.2	43.0	24.7	28.9	12.4	42.3	16.8	10.3	24.2	40.5	20.1
設置者別	国公立	879	44.3	40.3	40.6	30.3	28.8	14.9	46.3	17.3	11.7	32.2	34.6	20.6
	私立	294	37.4	22.1	19.0	26.5	19.7	16.0	25.9	10.2	8.8	24.1	15.3	18.7
高校タイプ別	普通科	865	42.1	34.6	34.0	30.1	23.8	16.2	40.5	15.8	10.5	30.6	25.1	20.1
	総合学科	83	62.7	32.5	37.3	38.6	33.7	19.3	59.0	13.3	21.7	33.7	42.2	24.1
	専門高校	137	40.1	44.5	46.0	24.8	32.1	10.2	37.2	16.1	9.5	26.3	52.6	18.2
地域別	北海道	88	35.2	33.0	36.4	23.9	25.0	8.0	40.9	18.2	11.4	31.8	36.4	19.3
	東北	122	41.8	44.3	49.2	26.2	23.8	13.9	41.0	19.7	9.8	28.7	33.6	22.1
	北関東・甲信越	136	51.5	40.4	38.2	41.2	19.1	19.1	46.3	25.7	12.5	31.6	36.0	26.5
	南関東	204	48.0	36.8	33.8	38.2	33.8	20.1	48.5	12.3	15.2	32.8	25.0	21.1
	東海	150	38.7	29.3	25.3	23.3	24.0	12.7	35.3	10.7	6.7	28.7	32.7	16.7
	北陸	28	53.6	35.7	21.4	21.4	39.3	10.7	32.1	14.3	14.3	25.0	32.1	25.0
	関西	156	38.5	22.4	25.0	28.8	20.5	13.5	32.7	11.5	7.7	26.9	19.9	16.0
	中国・四国	137	42.3	50.4	51.1	28.5	37.2	16.8	52.6	19.0	13.9	40.9	35.0	21.2
	九州・沖縄	152	38.2	31.6	30.9	21.1	23.0	13.8	32.9	11.8	9.2	21.7	25.7	17.8
キャリア教育役立ち度	役に立っている・計	974	47.9	39.8	39.3	33.5	29.0	16.6	46.8	16.2	12.1	34.1	34.2	22.3
	役に立っていない・計	171	19.9	15.8	15.8	10.5	18.1	9.4	17.0	12.9	5.8	13.5	8.8	11.7
「生徒の意欲」変容度別	増した	453	59.4	40.8	43.5	44.6	34.7	21.9	55.8	18.3	17.2	39.7	43.5	28.7
	変わらない	428	36.9	36.0	33.9	24.1	25.2	11.7	36.2	17.3	7.5	29.4	23.8	16.4
	減った	11	36.4	36.4	36.4	36.4	9.1	18.2	18.2	—	—	9.1	18.2	9.1
	わからない	211	29.4	30.8	27.5	15.2	19.9	11.8	31.3	10.0	8.1	21.8	19.9	15.6

※各カテゴリーごと「2012年：全体」の降順ソート
※「＊」は該当項目なし
※【2012年属性別】は、「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

- 大短進学率別みると、今回伸びが大きかった「学校全体のキャリア教育の目標として、育てる生徒像を具体的に設定している」や「学校全体のキャリア教育の目標として、身につけさせたい力を具体的に設定している」や、「キャリア教育推進のため、学校と地域や民間企業との連携を強めている」などは進学率が低い学校ほど高くなる傾向。
  - ・反対に、進学率が高い学校ほど高くなるのは「キャリア教育推進のため、中学校、専門学校、大学との連携を強めている」など。

- 高校タイプ別にみると、総合学科での実施率がもっとも高くなる項目が多い。

- キャリア教育の役立ち度別や「生徒の意欲」変容度別にみると、「役立っている・計」や「（意欲が）増した」という層での実施率は、他層に比べ全般的に高い。



研修・勉強会				体制	結果・評価						
キャリア教育の概要や推進方法に関する研修や勉強会を実施している	キャリアカウンセリングに関する研修会・勉強会を実施している	キャリア教育の授業実践に関する研修会・勉強会を実施している	産業構造や雇用環境の動向を共有する研修会や勉強会を実施している	キャリア教育推進のための組織（担当部署の創設、増員など）を変更を行っている	キャリア教育の成果について生徒の評価を求めている	キャリア教育の成果を教員自身が評価している	キャリア教育の成果について保護者の評価を求めている	その他	キャリア教育は特に行っていない	無回答	
（12）12.8	（19）4.0	（20）3.5	（21）2.1	（17）7.0	（13）12.4	（14）11.4	（16）7.7	（18）4.4	5.9	2.7	2012年：全体
（15）9.2	（19）4.5	（20）2.7	（21）1.2	（17）5.1	（13）10.3	（14）9.4	（16）6.2	（18）4.8	8.6	3.5	2010年：全体
（9）13.0	（14）8.1	（17）5.3	（19）2.4	（16）6.5	（12）11.4	（13）10.9	（15）6.8	（18）4.5	12.7	6.2	2008年：全体
10.8	3.0	2.8	0.4	6.3	12.2	9.5	6.1	4.8	6.9	3.2	70%以上
16.7	4.7	5.1	1.7	6.8	15.0	11.5	10.7	4.3	6.8	2.6	40～70%未満
12.6	4.9	3.4	4.6	8.0	11.1	13.9	8.5	3.9	3.6	2.3	40%未満
13.4	4.6	3.8	2.3	7.7	13.7	12.6	9.3	3.9	3.8	1.9	国公立
10.5	2.4	2.7	1.4	5.1	8.8	7.8	3.1	5.8	12.2	5.1	私立
13.9	4.3	2.5	1.2	6.6	12.3	11.1	7.2	4.6	6.7	3.1	普通科
15.7	6.0	6.0	3.6	14.5	19.3	18.1	10.8	3.6	4.8	—	総合学科
5.8	3.6	6.6	6.6	5.1	11.7	12.4	10.2	2.2	1.5	0.7	専門高校
18.2	5.7	3.4	2.3	8.0	15.9	12.5	11.4	2.3	5.7	2.3	北海道
13.9	3.3	2.5	2.5	7.4	10.7	10.7	5.7	2.5	6.6	1.6	東北
14.0	3.7	2.2	1.5	9.6	18.4	15.4	14.0	4.4	4.4	2.2	北関東・甲信越
16.2	4.4	4.9	2.0	2.9	12.3	8.8	7.4	3.9	4.9	2.5	南関東
10.7	4.0	2.0	2.0	4.0	10.0	7.3	4.7	4.0	6.7	3.3	東海
7.1	—	—	—	3.6	17.9	14.3	10.7	—	7.1	3.6	北陸
7.1	3.2	3.8	1.3	8.3	9.0	10.9	4.5	5.8	10.3	5.8	関西
15.3	4.4	5.1	2.9	8.8	16.8	16.8	11.7	2.2	2.9	0.7	中国・四国
9.2	4.6	3.9	2.6	10.5	7.9	10.5	4.6	9.2	5.3	2.6	九州・沖縄
14.8	4.3	4.0	2.3	8.1	14.6	13.0	9.0	4.0	2.0	1.7	役に立っている・計
3.5	2.3	1.2	1.8	2.3	2.3	4.1	1.8	4.1	20.5	4.1	役に立っていない・計
19.0	5.1	5.5	2.2	11.0	21.6	18.8	12.4	4.2	—	0.9	増した
8.4	3.0	2.3	2.8	4.9	6.8	7.9	4.7	2.8	1.9	2.3	変わらない
9.1	—	—	—	—	—	—	—	9.1	9.1	—	減った
10.4	2.8	2.8	1.4	5.2	7.6	5.7	6.6	7.6	13.7	2.4	わからない

Q08

5）キャリア教育新学習指導要領に対する対応度

▶全体の77％が“対応できている”と回答

- 自校のキャリア教育が新学習指導要領にどの程度対応しているかをたずねた。
  「十分対応できていると思う」は9％、「ある程度できていると思う」68％まで合わせた、「（対応）できている・計」は77％と、前回（61％）から大幅に増加した。

- 設置者別にみると、国公立では81％が「できている・計」と回答したのに対し、私立では65％と前回同様大きな開きが見られる。

- 高校タイプ別にみると、総合学科では84％が「できている・計」と回答。他2層を10ポイント近く上回った。

- 地域別にみると、「できている・計」が8割を超えたのは北関東・甲信越、南関東。一方、「できている・計」が最も低かったのは関西（71％）。

■キャリア教育新学習指導要領に対する対応度（全体／単一回答）

（％）

			十分対応できていると思う（できている・計）	ある程度対応できていると思う（できている・計）	あまり対応できていないと思う（できていない・計）	まったく対応できていないと思う（できていない・計）	無回答	できている・計	できていない・計
2012年：全体		(n=1179)	9.1	67.7	21.0	1.3	0.9	76.8	22.3
2010年：全体		(n=1208)	7.0	54.4	33.4	3.7	1.5	61.3	37.2
大短進学率別	70％以上	(n= 539)	9.3	69.6	19.1	0.9	1.1	78.8	20.0
	40～70％未満	(n= 234)	9.0	66.7	20.9	2.6	0.9	75.6	23.5
	40％未満	(n= 388)	8.5	66.5	23.2	1.0	0.8	75.0	24.2
設置者別	国公立	(n= 879)	9.9	70.9	18.2	0.3	0.7	80.8	18.5
	私立	(n= 294)	6.5	58.2	29.6	4.1	1.7	64.6	33.7
高校タイプ別	普通科	(n= 865)	9.0	67.3	21.3	1.5	0.9	76.3	22.8
	総合学科	(n= 83)	12.0	72.3	15.7	—	—	84.3	15.7
	専門高校	(n= 137)	6.6	70.8	21.9	—	0.7	77.4	21.9
地域別	北海道	(n= 88)	14.8	61.4	23.9	—	—	76.1	23.9
	東北	(n= 122)	7.4	64.8	25.4	1.6	0.8	72.1	27.0
	北関東・甲信越	(n= 136)	9.6	71.3	17.6	—	1.5	80.9	17.6
	南関東	(n= 204)	9.8	73.5	14.7	1.0	1.0	83.3	15.7
	東海	(n= 150)	6.7	70.7	19.3	2.0	1.3	77.3	21.3
	北陸	(n= 28)	3.6	75.0	21.4	—	—	78.6	21.4
	関西	(n= 156)	9.0	61.5	25.6	2.6	1.3	70.5	28.2
	中国・四国	(n= 137)	8.0	67.9	21.2	2.2	0.7	75.9	23.4
	九州・沖縄	(n= 152)	9.9	64.5	24.3	0.7	0.7	74.3	25.0

Q09

【フリーコメント⑥】新学習指導要領に対するキャリア教育の対応状況

▶「対応できている」との回答は、『校内が連携し、体系的に取り組めていると認識できている』学校で多くみられる傾向。

- 自身の高校のキャリア教育が、「新学習指導要領にどの程度対応できていると思うか」をたずね、その対応状況を具体的に記入してもらったところ、【対応できている】と回答した学校では、「3年間の組織だった取り組みができている」「3年間を見通した、組織的な進路指導態勢の構築のもとで、キャリア教育を行っている」など、校内が連携し体系的に取り組んでいる様子がうかがえる記述が多くみられた。

【十分対応できていると思う】

▶全体で段階的に計画的に取り組み

- 学年を通して流れができ、長年の成果で蓄積もある点(南関東/普通)
- 1年で自己理解と職業研究、2年で大学研究と文理選択、3年で入試研究と系統的で段階的な進路指導を進路部が主導権をもって実施し、それぞれの計画に合った講演会、進路講話、イベントを実施して自分が将来何をもって社会に貢献していくのかを主軸に指導している(南関東/普通)
- M3職業研究、H1職業前提の大学研究など、システムが出来ているから(北関東/普通)
- 3年間を見通した、組織的な進路指導態勢の構築のもとで、キャリア教育を行っている。総合の時間(水、7限)に、1年次は学部、学科研究、職業研究。2年次は課題研究。3年次は志望理由書の作成などを行い、キャリアセミナー、大学セミナー、出前講義なども実施(中国/普通)
- 1年で職業調べ、進路研修旅行、地域学習(就業体験)を行い、それをもとに2、3年でオープンキャンパスや職場見学を行い、自分自身で進路を選択し、将来について考えることができるよう計画している(甲信越/普通)

【ある程度対応できていると思う】

▶学年に応じた取り組み

- 高校では1年次から大学訪問「職業を考える」を企画し2年次には学問研究、大学訪問を企画している。3年次に進路の具体性をもたせて各自の目指す進路に向けて受験指導を行っている。これらの活動により概ね生徒は主体的の進路選択ができるようにはなっているため。ある程度は対応できていると思う(南関東/普通)
- 高大連携による進路選択に当たっての指導をしている。NPO法人との連携による進学セミナー(高1、高2)の実施による指導をしている「16歳の仕事塾」(南関東/普通)
- 就職、進学に関しては3年間計画を元に生徒が主体的に選択できるよう練られている。これを教務や総務、生徒指導、生徒会も認識した上でそれぞれの立場から支援、指導し、全体として協力体制を取っている(北陸/普通)

▶学校の特性を活かして

- 本校は総合学科であるため「産業社会と人間」の履修が課せられている。学年の考えで指導してきた内容を整備し、学校としてキャリアを見据えた進路指導となるよう委員会により内容を精査して行うようになった(甲信越/総合)
- 工業高校であること、そのカリキュラムの内容や進路行事、インターンシップ、職場見学等、色々な面で対応ができていると思います(北関東/専門)

▶成果はこれから・・・

- LHRその他の時間を使って様々なキャリア教育を各学年で行っているが、やや形式的な行事消化的なものになっており、生徒を納得させるモノにはなっていない(関西/総合)
- システムはある程度確立しているが、生徒の受け取り方に差があり、必ずしも期待しているレベルまで上がってきていない(南関東/総合)

【あまり対応できていないと思う】

- 受験を意識した指導に重点が置かれ、正しい職業観や就労意識を育てることに特化した指導ができていない(四国/普通)
- PDCAサイクルが不十分(東海/普通)
- キャリア教育の必要性は十分承知しているが、系統だった指導になっていない(関西/普通)
- 3年間を見通したキャリア教育プランが確立していない。学年主導型できており、学校としての統一した指導方針があいまいである(九州・沖縄/普通)

【まったく対応できていないと思う】

- 就職、進学(専門、短大、大学)と、生徒の進路が多様であり、どのように対応すべきか分からない(南関東/普通)
- キャリア教育という言葉自体学校内で耳にしない。そのためその意識は非常に低いと思われる(関西/普通)

【フリーコメント⑦】キャリア教育に対する取り組みの具体的な内容

【事前活動】

▶生徒への意味の伝達

- まずは基本的な生活習慣、礼儀や礼節をしっかり身につけることだと思う。日本人としての義務（はたらくこと、税金を納めること、選挙に参加することなど)が希薄になってきていることが問題！（東海/普通）
- 高い志の育成と、将来像について話をしている（九州・沖縄/普通）
- 将来の見通しを持たせる「進路ロードマップ」の作成。保護者による進路ガイダンス文集の作成。保護者への聞き書き（北海道/普通）
- 1年次葛飾アントレ（2泊3日HR合宿）で旅行先の職場訪問したり、研修することによって高校で学習する意義、目的を考えさせる（南関東/－）

▶保護者への意味の伝達

- 主体的に進路選択ができるように保護者にも生徒にも情報を与え、かつきめ細かい面接指導を行っている（九州・沖縄/普通）
- 1、2年生と保護者対象の職業観育成講話（東北/普通）
- 保護者を中心とした職業講話、大学による出前講座など（九州・沖縄/普通）

▶目標の設定

- 2年前に在学3年間の各ステージに応じた目標や課題を具体的に示した「進路学習プログラム」を作成し、教職員全体で確認し進めている（関西/その他）
- 3年間を通して学校設定科目を通して行っている（中国/総合）

【プログラム作成】

▶独自の教材・プログラムで対応

- 各学年での目玉となる取組を柱としてその事前指導、事後指導を含めて一貫性のある指導としている。（1年・企業学校見学とピアサポート、2年・インターンシップ、3年・キャリアツアー(校外研修)）（北海道/普通）
- 入学前から卒業まで、一貫して生徒のキャリアカウンセリング、カリキュラムカウンセリングを継続します。そのプロセスで個に応じて、様々な手段（進路講座、高大連携、資格取得、面接セミナー他）を個別にアドバイスしてゆきます（九州・沖縄/普通）
- 「将来を見通した進路学習」をテーマに掲げ1年で職業研究、2年で学部・学科研究、3年でテーマ研究と総合的な学習の時間を中心に年間計画を組んで実施している（北関東/普通）
- 高1は12月に1回目、高2は7月に2回目の進学セミナーを実施。それぞれ2コマの授業を受講し職業、進路について考えさせる。年度末に生徒のアンケートをまとめ冊子にすることで、各家庭でその冊子を使い親子間で仕事や進路について話をして貰うことが狙い（南関東/普通）
- 学校教育全体の中でwill projectという取り組みが行われインターンシップライフプラン、職業研究などキャリア教育の内容を相当含んでいる（東北/普通）
- 大学、企業の見学（キャリア＆キャンパス見聞録、島内産業事情視察）、職業人講話（働く人にインタビュー）、教師体験（放課後先生）、看護師の体験（看護体験、ホスピタルサポーター）、島根大学との連携（春の学校、夏の学校）など（中国/普通）
- 本校独自のキャリア教育実践プログラムを実施している。1年：自己理解、2年：進路理解、3年：自己表現の3段階ステップ（南関東/専門）

【連携】

▶小・中学校や大学との連携

- 中高大学連携行事という名称で様々な取り組みがあります。大学と中高（本校）の教員間交流や授業への参加、講演会など、中、高、大の連携を深めている（南関東/普通）
- パネルディスカッション(退職期のOBと社会のあり方、生き方を討論)、進路ガイダンス(大学3～4年生OBとの懇談会)、訪問講義(大学教授、企業の研究者等による講演)、進路講演会(リクルート、駿台等による講演)、学年集会(進路主任による講話、指導)、海外交流事業(2週間ホームステイ)、ジョブドゥイング、奉仕活動（南関東/普通）

▶地域、企業、ハローワークなどとの連携

- 中学校への進路学習会講師、インターンシップ、市内起業家による進路講話、ハローワーク、教育員進路相談員による面談等、専門学校体験授業（北海道/普通）
- 外部講師による講演会、模擬授業、座談会等。招へい事業を実施する際、生徒には運営にかかわる役割分担をし、当日は先生に頼らないほぼ自立運営に近い形で実施しています（北関東/普通）
- 社会で活躍されている方を招いての講演会etc、今年度実施。教員採用試験説明会（県教委）。看護師、助産師を目指す人へ、国立病院機構（助産師）、海外の仕事（JTB）etc （南関東/普通）
- マイウェイ(総合的な学習の時間での調べ学習)、インターンシップ（1、2年生全員3日間×2回)、地域や県等との連携（四国/普通）
- 各学年対象の進路講演会、キャリアガイダンス等、適宜行っている「一日総合大学」と称し大学、短大、専門学校の先生や社会人の方を講師として招き生徒は興味に応じてそれぞれ講義を受講する（九州・沖縄/普通）

【フリーコメント⑧】キャリア教育を進めて行くうえでの障害

▶実施段階に入ったゆえの具体的課題の増加

- キャリア教育を進める際の「障害」を自由に書いてもらった 。前回同様に、教員の「負担感」や「多忙」を示すコメントが非常に多く見られた。負担感だけではなく、実際に行ううえでの「実施時間の不足」を挙げている記述も非常に多かった。

▶実施時間の不足

- 生徒をどのように育てるかは、各教員の価値観の相違があるので、全校体勢で取り組む難しさ。仕事の多忙化が、全てを圧迫して、よい取り組みに時間がさけない(南関東/普通)
- 生徒に「キャリア教育」を行う意義には異論はないが、現実問題として、進学学力の向上等を目指し、生徒の希望進路を達成するための時間が必要であり、それに費やす時間を削ることはできない(四国/普通)
- 学校全体で考えていかないと「時間」がとれない。担任のみならず教科担任の指導も重要であり、教科の中で「キャリア教育のための時間」がどのくらいとれるかが問題となる(東北/普通)
- 学習指導要領が改訂されて、カリキュラム再編、学力向上となれば、総合的な学習の時間など減ることがあるのかも？(九州・沖縄/総合)
- 肝腎な授業時間数や授業、生徒個別対応等の時間を奪う恐れがある。それでは本末転倒である(甲信越/普通)
- 総合的な学習の時間が一年のうち半年分しか実施できないため年間を通したキャリア教育ができない。またインターンシップも実施が困難である(九州・沖縄/普通)

▶教員の負担の大きさ

- 教員の負担が大きく、これ以上業務量を増加させることが難しい。進路指導部がキャリア教育も担っており、散漫になってしまう可能性がある(南関東/普通)
- 普通科と商業科の併設であり、それぞれに応じたキャリア教育プログラムを構築すると、教員の仕事量が膨大となる。授業時数を確保することと、プログラムの量との兼ね合い。教員の協力体制づくり(中国/普通)
- 進路部で対応していますが、スタッフが校内分掌で一番少なく、進路指導主事一人で仕事をしている。就職と進学両方を一人でやっている状況で、大変な思いで頑張っている(九州・沖縄/普通)
- 時間不足（週1本2日制の下で教科指導、学校行事、部活動etc、既存の指導で時間はすでにいっぱい）(北関東/普通)
- プランの作成や検証、県への報告などの事務処理の多さが教員の仕事を増加させ、キャリア教育に最も必要な生徒との面談、会話がへらされる(九州・沖縄/普通)

▶教員の知識・共通認識不足

- 職員がキャリア教育が大事であるとしっかり認識することでしょうか。進学校として労力重視に偏らないようにしなければなりません(九州・沖縄/普通)
- 教員の認識不足。キャリア教育を、単なる出口指導としか捉えていない教員が、まだ少なからずいる(東海/専門)
- 全職員が、キャリア教育にますます共通した認識が必要であると同時に、社会環境も同じように動かないとむずかしい(関西/普通)
- 出口（キャリア）支援と学力向上支援を行うセクションが異なるため、進路指導に一貫性を持たせることが大変難しい。教員間の進路指導に対する能力・意欲の差が激しく歩調をあわせることが難しい。低下はしていないが向上もしていない点が問題。校内連携の不十分や教員の意欲・能力不足に起因する部分もあり、生徒側だけの問題ではない(南関東/普通)
- キャリア教育そのものの全教員への周知する時間、場面がない(東海/普通)

▶教員のレベル、トップのリーダーシップ力

- 若い教員が多く、卒業後に社会人として身につけておきたい能力についての認識レベルが低い(東海/普通)
- 職員の理解と、管理職のリーダーシップ(九州・沖縄/専門)
- 教員そのものの教科指導力、生活指導力の不足(東北/普通)
- キャリア教育を実践されたことのある先生方が多くない。毎年内容の深さに差がでる(九州・沖縄/専門)

▶学力向上や進学実績を優先

- 「学力向上の取り組み」に大いなる時間をさいているため「キャリア教育」の研究にさける時間やエネルギーは極めて少ない(関西/普通)
- 生徒にとって、通常の授業や講習に多くの時間が割かれるため、十分な活動時間が確保できないこと(北海道/総合)
- 授業時数確保のため総合的な学習の時間が減らされ、キャリア教育に総合学習を割り振れなくなる(北海道/普通)
- 時間の確保と、上級学校進学とのミスマッチ(南関東/普通)
- 進学実績を重要と考える高校ではそんなことに時間を取りたくない考えがある(中国/普通)
- 大学進学への意識が希薄化してしまう所があり、進学指導との兼ね合いが難しい(中国/普通)
- 生徒に「キャリア教育」を行う意義には異論はないが、現実問題として、進学学力の向上等を目指し、生徒の希望進路を達成するための時間が必要であり、それに費やす時間を削ることはできない(四国/普通)

▶生徒の意欲や学力の低下・欠如

- 生徒の質が下がってきており、「やらされている感」が、生徒側に負担になりそう(南関東/普通)
- 基礎学力の不足と社会的関心の希薄さ(北関東/普通)
- 学力の二極化により学力の高い生徒、低い生徒双方を満足させられる内容の講座の設定が難しくなっており、この傾向が続けばますますキャリア教育を進めていくのが難しくなると思います(九州・沖縄/普通)
- 生徒の労働意欲、学力の低下、毎年入学時点で下がっている(関西/普通)

▶定義が曖昧

- 「キャリア教育」の定義が曖昧であり、浸透していない。進路指導主事、教務主任が知っている程度であり、指導にまでいたらない。ただ「全ての教育活動＝キャリア教育」ならば全職員がやっているとも言える(九州・沖縄/普通)
- 本校における、キャリア教育の位置づけが明確でない。教職員のキャリア教育に対する意識の共有ができるかどうか(－/普通)

▶その他

- キャリア教育をすれば、自己実現できるようになるという考え方に問題がある。キャリア教育で、学習時間を減らすのは間違い。何よりも、学力があって、考える力や進路の多様性の理解が進む。落ち着いて、充分に学習する時間を与えることが先決(北関東/－)
- 大学選びは「職業決め」から始める傾向が強くなっているが、「職業に名前のついている仕事」をしている人より「名前のない仕事」をしている人の方が多いのだからもっと広い視野で考えて欲しいと思うが、つい「職業を考えさせる」指導になっていることが多いこと(関西/普通)

2.キャリア教育の評価

1)キャリア教育の役立ち度

▶全体の84%が「役に立っている」と回答。

- 自校のキャリア教育は生徒の役に立っているのか、キャリア教育実施校にその効果についてたずねたところ、「とても役に立っている」と「ある程度役に立っている」を合わせた「役に立っている・計」は84%。前回から3ポイント増加。
  - ・「まったく役に立っていない」は、わずか1%だった。

- 大短進学率別による差はあまりみられないが、進学率が低い学校ほど「とても役に立っている」の割合が高くなっている。

- 設置者別では私立よりも国公立、高校タイプ別では普通科に比べ総合学科や専門高校での「役立っている・計」の割合が高く、特に総合学科の「とても役に立っている」は11%と唯一1割を超える。

- 地域別にみると、「役に立っている・計」が最も高いのは中国・四国(88%)、ついで北関東・甲信越(87%)。
  - ・「役に立っている・計」が最も低かったのは東北(81%)。但し「とても役に立っている」が10%と、北海道(13%)についで高く、評価がやや分かれる傾向にある。

■ キャリア教育の役立ち度(キャリア教育を実施している／単一回答)

(%)

			役に立っている・計		役に立っていない・計		無回答	役に立っている・計	役に立っていない・計
			とても役に立っている	ある程度役に立っている	あまり役に立っていない	まったく役に立っていない			
2012年:全体		(n=1145)	7.5%	76.7	12.7	1.0	2.1	84.2	13.7
2010年:全体		(n=1152)	7.6	72.5	17.3	1.0	1.6	80.1	18.2
2008年:全体		(n= 778)	7.3	73.3	15.7	1.5	2.2	80.6	17.2
大短進学率別	70%以上	(n= 523)	6.5	78.4	12.2	0.6	2.3	84.9	12.8
	40～70%未満	(n= 228)	7.0	74.1	13.2	2.2	3.5	81.1	15.4
	40%未満	(n= 378)	8.7	76.2	13.0	1.1	1.1	84.9	14.0
設置者別	国公立	(n= 863)	8.6	78.4	10.5	0.9	1.5	87.0	11.5
	私立	(n= 276)	4.3	70.7	19.6	1.4	4.0	75.0	21.0
高校タイプ別	普通科	(n= 841)	7.3	76.2	13.0	1.2	2.4	83.5	14.1
	総合学科	(n= 82)	11.0	76.8	8.5	—	3.7	87.8	8.5
	専門高校	(n= 133)	7.5	84.2	7.5	—	0.8	91.7	7.5
地域別	北海道	(n= 88)	12.5	72.7	10.2	2.3	2.3	85.2	12.5
	東北	(n= 119)	10.1	70.6	16.8	1.7	0.8	80.7	18.5
	北関東・甲信越	(n= 132)	9.1	78.0	9.8	—	3.0	87.1	9.8
	南関東	(n= 196)	6.6	78.1	12.8	0.5	2.0	84.7	13.3
	東海	(n= 148)	4.7	77.7	15.5	0.7	1.4	82.4	16.2
	北陸	(n= 27)	3.7	77.8	14.8	3.7	—	81.5	18.5
	関西	(n= 147)	4.8	78.2	12.9	1.4	2.7	83.0	14.3
	中国・四国	(n= 135)	8.9	79.3	10.4	—	1.5	88.1	10.4
	九州・沖縄	(n= 147)	7.5	74.8	12.2	2.0	3.4	82.3	14.3

Q10

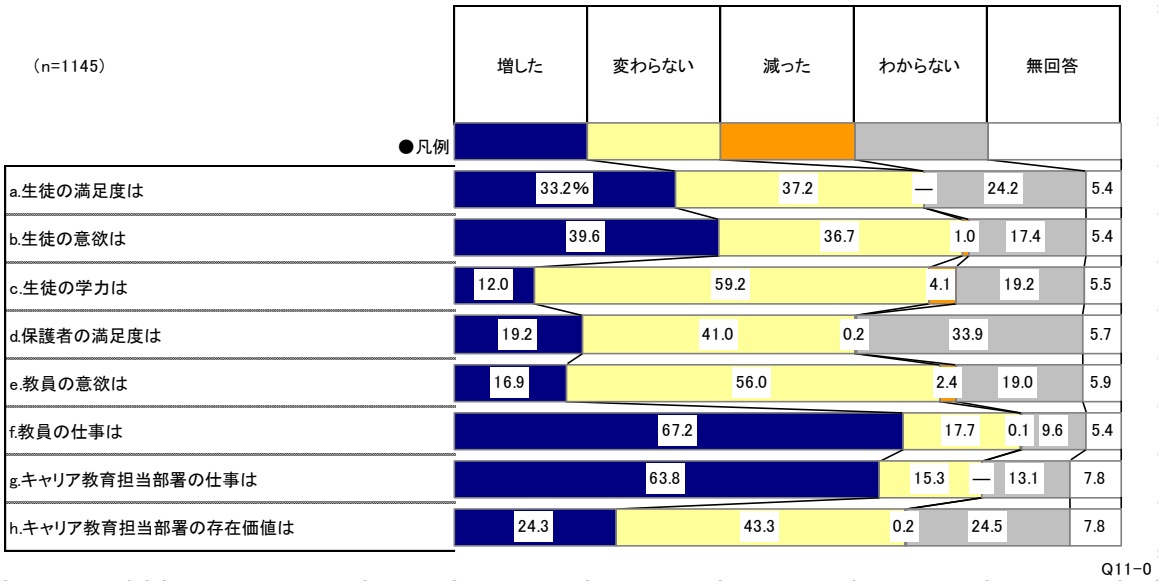
２）キャリア教育の推進による学校や生徒の変容度

▶前回同様、「増した」の割合が最も多いのは「教員の仕事」

- キャリア教育実施校に生徒の満足度や意欲、教員の意欲や仕事量など8項目について増減をたずねたところ、「増した」の割合が多かったのは、「教員の仕事」「キャリア教育担当部署の仕事」で、いずれも6割を超えた。以下はかなり離れるが「生徒の意欲」「生徒の満足度」などが続き、「増した」が最も少なく「変わらない」という割合が最も多いのは「生徒の学力」だった。

- 「教員の仕事」と「キャリア教育担当部署の仕事」と「生徒の意欲」の3項目以外の項目は「増した」よりも、「変わらない」や「わからない」という回答のほうが多い状況。

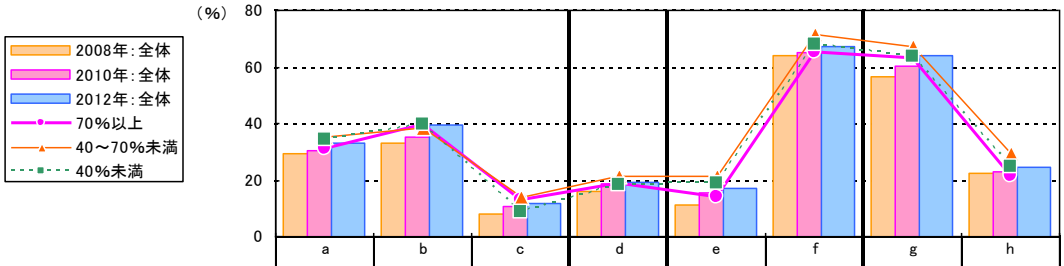
■ キャリア教育の推進による学校や生徒の変容度_a～h （キャリア教育を実施している／各単一回答）



▶前回に比べ、全項目とも「増した」が増加

- 前回に比べて、「増した」の割合の伸びが最も大きかったのは「生徒の意欲」（4ポイント増）。ついで「キャリア教育担当部署の仕事」「生徒の満足度」（3ポイント増）
- 大短進学率別で大きな違いはみられないが、全般的に進学率[40～70%未満]のスコアがやや高めとなっている。
- 高校タイプ別にみると、全般的に「増した」の割合が高いのは総合学科。

■ キャリア教育の推進による学校や生徒の変容度_a～h 【増した】のスコア一覧
（キャリア教育を実施している／複数回答）



		調査数	a 生徒の満足度は	b 生徒の意欲は	c 生徒の学力は	d 保護者の満足度は	e 教員の意欲は	f 教員の仕事は	g キャリア教育担当部署の仕事は	h キャリア教育担当部署の存在価値は
2012年：全体		1145	33.2	39.6	12.0	19.2	16.9	67.2	63.8	24.3
2010年：全体		1152	30.6	35.2	10.7	18.9	15.6	65.1	60.4	22.9
2008年：全体		778	29.2	32.9	8.2	15.8	11.2	63.9	56.4	22.4
【2012年属性別】										
大短進学率別	70%以上	523	31.0	39.4	12.8	18.5	13.8	65.2	62.7	21.6
	40～70%未満	228	35.1	38.6	14.0	21.5	21.1	71.5	67.1	29.4
	40%未満	378	34.1	39.7	8.7	18.0	18.5	68.0	63.5	24.6
設置者別	国公立	863	34.1	39.2	12.9	19.1	17.4	70.5	66.6	24.7
	私立	276	30.1	40.9	9.1	19.6	15.6	57.2	54.7	23.6
高校タイプ別	普通科	841	32.3	39.4	12.6	19.4	16.5	65.4	63.5	24.0
	総合学科	82	42.7	45.1	12.2	24.4	18.3	82.9	68.3	30.5
	専門高校	133	36.8	41.4	9.0	18.8	17.3	72.9	70.7	20.3
地域別	北海道	88	36.4	47.7	13.6	19.3	28.4	75.0	67.0	31.8
	東北	119	28.6	35.3	7.6	17.6	17.6	62.2	57.1	19.3
	北関東・甲信越	132	34.8	40.9	16.7	20.5	18.9	72.0	62.9	28.8
	南関東	196	41.3	45.4	15.8	28.1	17.3	66.3	67.9	31.1
	東海	148	27.0	39.9	10.8	10.8	16.2	64.2	62.8	15.5
	北陸	27	48.1	48.1	11.1	25.9	14.8	59.3	55.6	25.9
	関西	147	25.9	29.9	8.2	15.6	14.3	66.0	60.5	20.4
	中国・四国	135	32.6	37.8	10.4	20.0	13.3	71.9	69.6	26.7
	九州・沖縄	147	33.3	38.8	11.6	17.7	14.3	65.3	62.6	21.8

※【2012年属性別】は、「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け　　Q11-1

3）キャリア教育に対する考え

▶「生徒にとって有意義だと思う」が6割弱でトップ

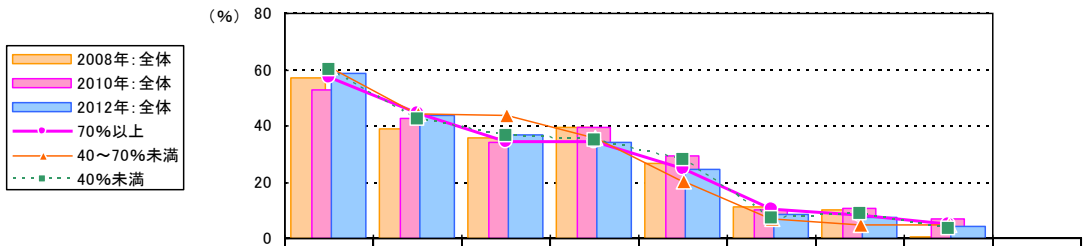
▶キャリア教育に対してポジティブな意見が増加し、ネガティブな意見は減少傾向

- キャリア教育について8つの選択肢から、自分の考えに近いと思うものをすべて選んでもらったところ、最も多かったのは前回と同様、「生徒にとって有意義だと思う」59%。前回（53%）から6ポイント増加した。
  - ・2位の「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」（44%）はネガティブ項目の中では、今回唯一増加した項目。他のネガティブ項目は全て減少した。

- 大短進学率別で大きな違いはみられないが、進学率[40～70%未満]では「望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる」44%と、他2層に比べやや高めとなっている。

- 高校タイプ別にみると、総合学科や専門高校は「生徒にとって有意義だと思う」「望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる」というポジティブな項目が普通科よりも高め。
  - ・但し、総合学科は「学校現場で浸透するかどうかは未知数」「キャリア教育の意味がわからない」といったネガティブ項目の割合が、普通科や専門高校に比べ高めとなる傾向がみられた。

■キャリア教育に対する考え（全体／複数回答）



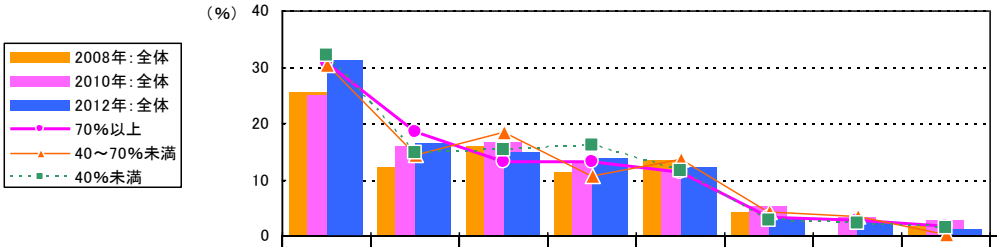
		調査数	生徒にとって有意義だと思う	提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ	望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる	学校現場で浸透するかどうかは未知数	進路指導や職業教育と「キャリア教育」の違いがわからず、主旨が見えない	今は注目されているが、「キャリア教育」という言葉も内容もいずれ忘れ去られると思う	「キャリア教育」において教員が果たすべき役割が見えない	「キャリア教育」の意味がわからない	無回答
2012年：全体		1179	58.9	43.5	36.8	34.4	24.7	8.5	7.5	4.2	1.0
2010年：全体		1208	52.6	42.9	33.9	39.5	29.5	10.1	10.6	6.8	1.4
2008年：全体		910	56.9	39.2	35.5	39.5	26.8	11.4	9.9	0.3	1.6
【2012年属性別】											
大短進学率別	70%以上	539	57.1	44.3	34.1	34.3	24.7	10.4	8.0	4.6	0.7
	40～70%未満	234	60.7	44.4	43.6	35.5	20.1	6.8	4.7	4.7	2.1
	40%未満	388	59.8	42.3	36.1	34.5	27.6	7.0	8.5	3.4	0.8
設置者別	国公立	879	59.6	45.8	37.3	35.2	24.1	8.5	6.8	3.8	0.9
	私立	294	56.1	36.4	35.7	32.7	26.5	8.5	9.5	5.4	1.4
高校タイプ別	普通科	865	57.7	45.5	36.5	34.9	23.8	8.9	7.5	3.6	1.2
	総合学科	83	66.3	43.4	41.0	41.0	25.3	7.2	8.4	9.6	—
	専門高校	137	65.0	35.8	38.0	26.3	27.0	5.1	6.6	3.6	0.7
地域別	北海道	88	63.6	42.0	37.5	27.3	23.9	8.0	5.7	2.3	—
	東北	122	59.8	49.2	42.6	33.6	22.1	7.4	10.7	1.6	—
	北関東・甲信越	136	58.1	46.3	33.8	33.1	27.9	6.6	7.4	2.9	1.5
	南関東	204	60.8	39.7	36.8	32.4	24.0	7.8	6.4	4.9	2.0
	東海	150	54.7	46.7	33.3	43.3	24.7	10.0	9.3	6.0	1.3
	北陸	28	42.9	28.6	35.7	42.9	28.6	17.9	10.7	—	—
	関西	156	55.8	47.4	30.8	35.9	25.6	8.3	9.6	7.1	2.6
	中国・四国	137	61.3	42.3	42.3	29.2	21.9	9.5	4.4	1.5	—
	九州・沖縄	152	60.5	38.8	40.1	36.8	26.3	8.6	5.9	5.9	—

※「2012年：全体」の降順ソート
※【2012年属性別】は、「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q12

● 前ページ項目の中から、「最もあてはまる」ものをひとつ選んでもらったところ、複数回答と同様に最も多かったのは「生徒にとって有意義だと思う」（31%）で、前回よりも6ポイント増加した。ついで「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」16%、「学校現場で浸透するかどうかは未知数」15%といずれもほぼ前回並。有意義だとは理解しつつも、現場での負担感や今後についての不安感なども垣間見える結果となっている。

■キャリア教育に対する考え（最も）（全体／単一回答）



		調査数	生徒にとって有意義だと思う	提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ	学校現場で浸透するかどうかは未知数	進路指導や職業教育と「キャリア教育」の違いがわからず、主旨が見えない	望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる	今は注目されているが、「キャリア教育」という言葉も内容もいずれ忘れ去られると思う	「キャリア教育」の意味がわからない	「キャリア教育」において教員が果たすべき役割が見えない	無回答
2012年：全体		1179	31.2	16.3	14.6	13.6	12.1	3.3	2.5	1.2	5.2
2010年：全体		1208	24.8	15.8	16.6	12.9	11.8	5.0	3.2	2.6	7.4
2008年：全体		910	25.4	11.9	15.8	11.3	13.4	4.0	—	1.6	13.5
【2012年属性別】											
大短進学率別	70%以上	539	30.8	18.4	13.0	13.0	11.3	3.3	2.6	1.5	6.1
	40～70%未満	234	30.3	14.5	18.4	10.7	13.7	4.3	3.4	0.4	4.3
	40%未満	388	32.0	14.7	15.2	16.0	11.6	2.8	2.1	1.3	4.4
設置者別	国公立	879	31.3	16.5	14.8	13.4	13.0	3.4	2.3	1.0	4.3
	私立	294	30.3	15.6	14.3	14.3	9.5	3.1	3.4	1.7	7.8
高校タイプ別	普通科	865	30.9	17.5	14.6	12.6	12.1	3.6	2.2	1.3	5.3
	総合学科	83	31.3	12.0	16.9	15.7	12.0	3.6	4.8	—	3.6
	専門高校	137	30.7	12.4	10.9	16.8	15.3	2.9	2.2	1.5	7.3
地域別	北海道	88	33.0	19.3	14.8	14.8	12.5	4.5	1.1	—	—
	東北	122	32.0	19.7	13.9	11.5	15.6	4.1	1.6	—	1.6
	北関東・甲信越	136	31.6	16.2	11.8	15.4	11.8	4.4	1.5	2.2	5.1
	南関東	204	36.3	13.2	15.2	13.7	7.8	1.5	2.9	1.0	8.3
	東海	150	25.3	17.3	15.3	16.0	11.3	3.3	4.0	2.0	5.3
	北陸	28	25.0	7.1	25.0	10.7	21.4	3.6	—	—	7.1
	関西	156	28.2	15.4	13.5	12.8	9.6	4.5	5.1	2.6	8.3
	中国・四国	137	32.8	16.8	10.9	11.7	17.5	2.9	1.5	0.7	5.1
	九州・沖縄	152	29.6	17.1	19.1	13.8	11.8	2.6	2.0	0.7	3.3

※「2012年：全体」の降順ソート
※【2012年属性別】は、「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q12SQ01

【フリーコメント⑨】キャリア教育に対する考え:「最も」そう思う理由

▶生徒にとって有意義

- 生徒が、生涯に渡って学び続ける事を通じて、自らの職業や働くことの意義も見い出すことが期待できる(九州・沖縄/総合)
- キャリア教育は単に進路指導、職業教育にとどまらず、生徒達の生き方、生きる力を育成するために大きな役割を担っている(東北/普通)
- 企業の方など外部の方に社会について語って貰うことによって生徒は確実によい形で変化していくから(東海/その他)
- 本校の生徒にとって将来を考えることが今何をすべき、身につけるべきかを理解できる機会となって充実した高校生活を送ろうとする生徒が多いから(北海道/普通)
- 将来のことが見えてくると現状何をすべきかはっきりしてくるから。大学の先生を呼んでさまざまな講演をしてもらっている(関西/普通)

▶望ましい進路指導が実現できそうな期待

- 生徒の意欲が向上するだけでなく、教員自身のキャリア教育になり、学校全体の力がアップする(東北/普通)
- 本校では今までキャリア教育はほとんどなされていないので教員の意識も変わるきっかけになると思う(南関東/普通)
- キャリア教育の取り組み開始時点では見えなかった成果が毎年の積み重ねで少しずつではあるが見えてきたような気がしているから(四国/普通)
- 出口指導から、生徒の生き方、在り方の指導に移行してきている。とても良いこと(北海道/普通)
- 手探りや勘を頼りに進路指導している所が多々あるので、それらを体系付けられれば自信を持って指導できそうだから(東海/専門)

▶教員の負担は相当大きくなりそう

- 教職員が減少する中で新しい業務が加わる一方で、勤務時間内では消化できない現状にある(東北/普通)
- 生徒の成長過程にある指導全てがキャリア教育となり、どこまでやってもきりがない。学校への依存度は高くなっている(東海/普通)
- 現勤校については生徒の進路希望、学力が多様であり、個々に対応したキャリア教育を行うとしたら相当の時間が必要だと思われる。実際にここ数年で業務量が増加して土、日も休めない状態である(九州・沖縄/普通)

▶学校現場に浸透するかは未知数

- キャリア教育のことを知らない教員が多い。キャリア教育の理念が浸透していない(九州・沖縄/普通)
- 教員が、連携を図る時間を設定できずに、バラバラな動きになりそうである(東海/普通)
- 実施した各イベントがどの程度生徒に反映されているかはなかなか計り知れない。結果が求められる職場となりつつある現状でどう対応するかが課題(甲信越/総合)

▶違いがわからず主旨が見えない

- 進路指導部では将来の職業について考えさせる指導をしている。キャリア教育は何をするのか不明。分ける必要があるのか？(南関東/普通)
- 「キャリア教育って何をすればいいんですか？」と聞いた時に、既に学校でやっている、卒業生講話やインターンシップといった行事、日常の実習、また教員との会話の全てがそうである。だから、何も新しいことをする必要があるわけではない、と回答してもらったことがあるから(北海道/総合学科)
- 「キャリア」という言葉が、学校内で言われることがなく、「進路」「職業」と同等とされてしまう(東北/その他)

第Ⅲ部　上級学校の活動および方向性についての評価

1．大学・短期大学・専門学校の「高校訪問」「校内相談会」に対する評価

1）大学・短期大学・専門学校の「高校訪問」満足度

▶外部の「高校訪問」について、満足している割合は全体の25％

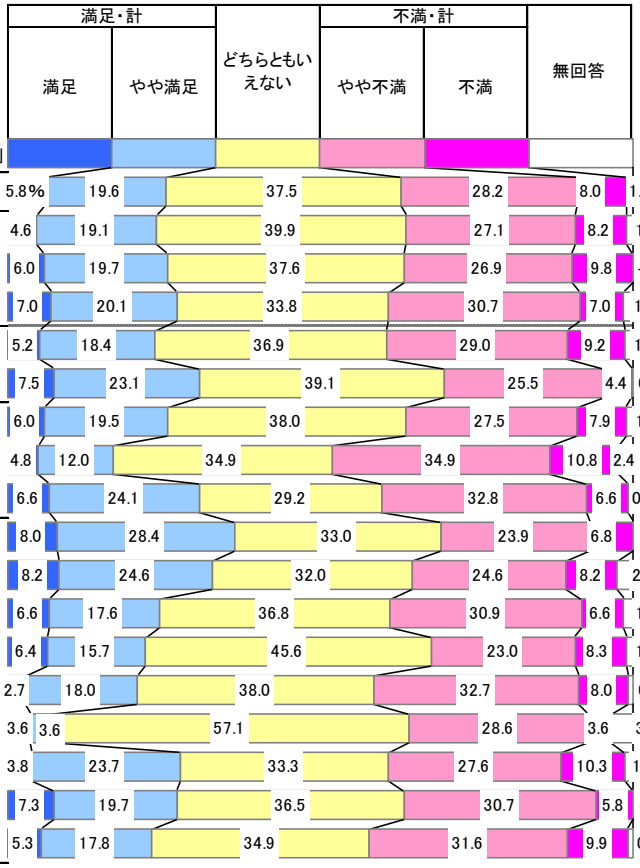
- 大学・短期大学・専門学校の「高校訪問」について満足度をたずねたところ、「不満」「やや不満」を足した「不満・計」が36％と、「満足」「やや満足」を足した「満足・計」の25％を10ポイント以上上回った。

- 大短進学率別にみてあまり大きな違いはみられないが、進学率が低い学校ほど満足・計の割合がやや高くなる傾向。
  - ・但し、不満・計の割合も進学率が低い学校ほど高いことから、評価が分かれやすい可能性がうかがえる。

- 設置者別にみると、国公立よりも私立の方が満足・計の割合が高い。

- 高校タイプ別にみると、最も「満足・計」が低く、「不満・計」が高いのは総合学科。
  - ・総合学科の「不満・計」は46％と、普通科35％や専門高校39％に比べ高い。

■ 大学・短期大学・専門学校の「高校訪問」満足度（全体／単一回答）



（%）

			満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答	満足・計	不満・計
2012年：全体		(n=1179)	5.8	19.6	37.5	28.2	8.0	1.0	25.4	36.1
大短進学率別	70％以上	(n= 539)	4.6	19.1	39.9	27.1	8.2	1.1	23.7	35.3
	40～70％未満	(n= 234)	6.0	19.7	37.6	26.9	9.8	—	25.6	36.8
	40％未満	(n= 388)	7.0	20.1	33.8	30.7	7.0	1.5	27.1	37.6
設置者別	国公立	(n= 879)	5.2	18.4	36.9	29.0	9.2	1.3	23.7	38.2
	私立	(n= 294)	7.5	23.1	39.1	25.5	4.4	0.3	30.6	29.9
高校タイプ別	普通科	(n= 865)	6.0	19.5	38.0	27.5	7.9	1.0	25.5	35.4
	総合学科	(n= 83)	4.8	12.0	34.9	34.9	10.8	2.4	16.9	45.8
	専門高校	(n= 137)	6.6	24.1	29.2	32.8	6.6	0.7	30.7	39.4
地域別	北海道	(n= 88)	8.0	28.4	33.0	23.9	6.8	—	36.4	30.7
	東北	(n= 122)	8.2	24.6	32.0	24.6	8.2	2.5	32.8	32.8
	北関東・甲信越	(n= 136)	6.6	17.6	36.8	30.9	6.6	1.5	24.3	37.5
	南関東	(n= 204)	6.4	15.7	45.6	23.0	8.3	1.0	22.1	31.4
	東海	(n= 150)	2.7	18.0	38.0	32.7	8.0	0.7	20.7	40.7
	北陸	(n= 28)	3.6	3.6	57.1	28.6	3.6	3.6	7.1	32.1
	関西	(n= 156)	3.8	23.7	33.3	27.6	10.3	1.3	27.6	37.8
	中国・四国	(n= 137)	7.3	19.7	36.5	30.7	5.8	—	27.0	36.5
	九州・沖縄	(n= 152)	5.3	17.8	34.9	31.6	9.9	0.7	23.0	41.4

Q23-01

2）大学・短期大学・専門学校の「高校訪問」不満理由

▶外部の「高校訪問」に対する不満理由のトップは「事前にアポイントを取らない」（74％）

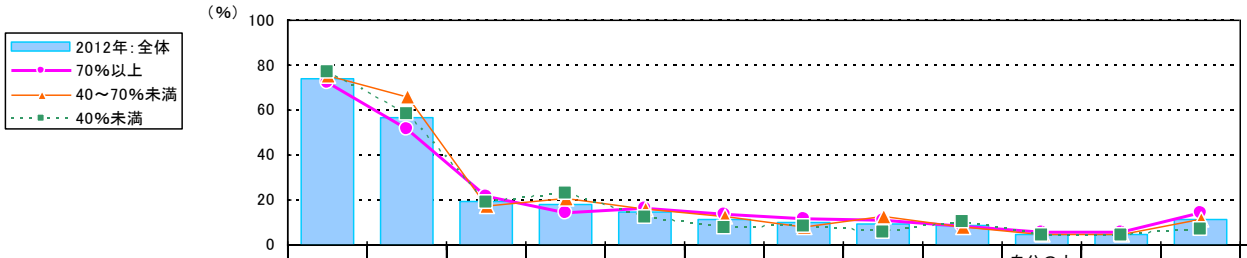
▶ついで「訪問回数が多い」（57％）

- 前ページで、大学・短期大学・専門学校の「高校訪問」について不満であると答えたその理由についてたずねた。トップの「事前にアポイントを取らない」は74％、2位「訪問回数が多い」は57％と、3位以下の項目を大きく引き離していることから、大学・短期大学・専門学校の高校訪問に対する不満の大きな要因となっていることがわかる。

- 大短進学率別でみた場合も、どの層においても1位「事前にアポイントを取らない」、2位「訪問回数が多い」は同様。
  - ・進学率[40～70％]では、「訪問回数が多い」66％と、他2層に比べ高いスコアとなっている。

- 高校タイプ別にみると、総合学科のみ「訪問回数が多い」71％が1位と、普通科と専門高校と異なる傾向。

■ 大学・短期大学・専門学校の「高校訪問」不満理由　（「高校訪問」不満者／複数回答）



		調査数	事前にアポイントを取らない	訪問回数が多い	貴校の進学や就職状況について把握していない	1回の訪問時間が長い	資料の量が多い	貴校からの進学者の現況説明がない	訪問者の熱意が伝わらない	訪問者の礼儀やマナーが悪い	特定の時期にしか来ない	自分の大学・短期大学・専門学校に関する説明	訪問者が頻繁に変わる	その他	無回答
2012年：全体		426	73.9	56.8	19.5	18.3	14.8	11.3	9.9	9.2	8.7	4.7	4.7	11.5	0.9
大短進学率別	70%以上	190	72.1	51.1	21.1	14.2	16.3	13.2	11.1	10.5	7.9	5.3	5.3	14.2	1.1
	40～70%未満	86	75.6	66.3	17.4	20.9	16.3	12.8	8.1	12.8	8.1	4.7	4.7	11.6	1.2
	40%未満	146	76.7	58.2	18.5	22.6	12.3	7.5	8.2	5.5	10.3	4.1	4.1	6.8	0.7
設置者別	国公立	336	73.2	60.4	22.0	17.9	15.8	11.3	10.7	9.5	9.5	5.1	4.8	10.7	0.9
	私立	88	77.3	42.0	10.2	20.5	11.4	11.4	6.8	8.0	5.7	3.4	4.5	13.6	1.1
高校タイプ別	普通科	306	75.8	54.9	18.6	18.3	16.0	12.4	9.8	10.1	8.2	4.2	4.6	14.7	0.3
	総合学科	38	63.2	71.1	15.8	13.2	10.5	10.5	2.6	2.6	15.8	5.3	2.6	2.6	2.6
	専門高校	54	74.1	63.0	24.1	25.9	11.1	7.4	13.0	9.3	5.6	3.7	3.7	3.7	1.9
地域別	北海道	27	85.2	44.4	22.2	18.5	22.2	11.1	18.5	11.1	3.7	3.7	—	—	—
	東北	40	77.5	60.0	12.5	22.5	5.0	10.0	12.5	2.5	12.5	—	2.5	7.5	2.5
	北関東・甲信越	51	72.5	58.8	23.5	23.5	15.7	9.8	11.8	11.8	9.8	2.0	5.9	3.9	2.0
	南関東	64	62.5	57.8	15.6	14.1	20.3	10.9	9.4	12.5	6.3	7.8	6.3	28.1	—
	東海	61	77.0	54.1	32.8	21.3	13.1	21.3	9.8	11.5	13.1	4.9	1.6	8.2	—
	北陸	9	66.7	44.4	11.1	—	—	11.1	—	—	—	—	11.1	22.2	—
	関西	59	84.7	50.8	20.3	15.3	10.2	10.2	3.4	6.8	5.1	6.8	8.5	8.5	1.7
	中国・四国	50	64.0	58.0	12.0	18.0	16.0	10.0	8.0	6.0	8.0	6.0	4.0	6.0	—
	九州・沖縄	63	76.2	65.1	17.5	19.0	19.0	6.3	12.7	11.1	11.1	4.8	4.8	15.9	1.6

※「2012年：全体」の降順ソート
※「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q23-02

3）高校訪問の際に提供してほしい情報

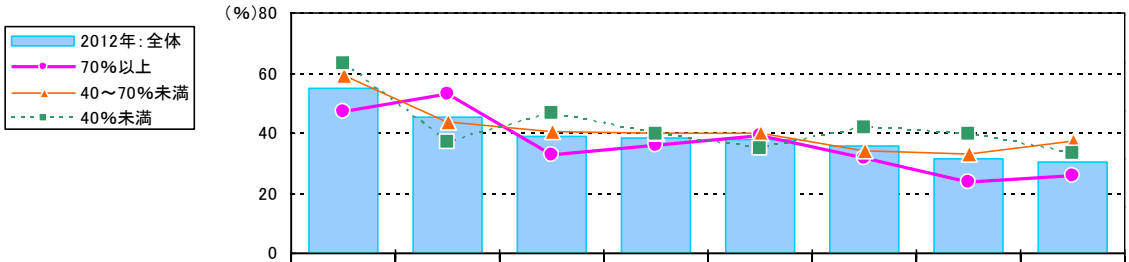
▶提供してほしい情報のトップは「就職状況・就職実績」、ついで「入試に関する情報」

- 大学・短期大学・専門学校の「高校訪問」の際に提供してほしい情報のトップは「就職状況・就職実績」55%、2位が「入試に関する情報」46%、3位が「学費、学費支援関連」39%という結果になった。

- 大短進学率別にみると、進学率[70%以上]では「入試に関する情報」（53%）、進学率[40～70%未満][40%未満]では「就職状況・就職実績」が6割前後でトップ。2位以下の項目も含め、進学率ごとに欲しい情報の傾向にも違いが見られる。
  - ・2位以下をみると、進学率[40～70%未満では、②「入試に関する情報」、③「学費、学費支援関連」とつづくが、[40%未満] では、②「学費、学費支援関連」、③「訪問先の高校卒業生の就職・資格取得状況」という順位。

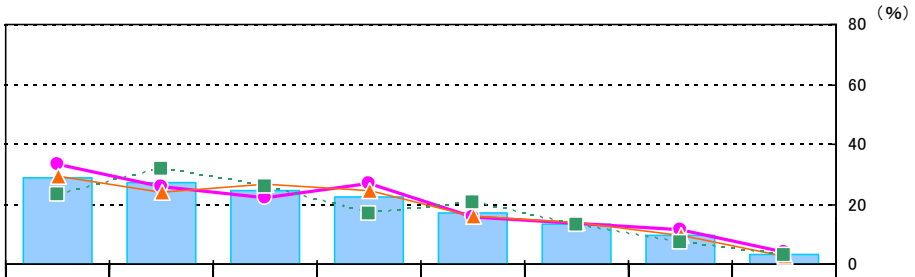
- 高校タイプ別にみると各層とも1位は共通して「就職状況・就職実績」だが、専門高校は2位以下も「訪問先の高校卒業生の就職・資格取得状況」「就職指導内容・サポート体制」と続き、提供してほしい情報の上位を就職関係の情報が占める結果となっている。
  - ・また、総合学科では「学費、学費支援関連」「訪問先の高校卒業生の就職・資格取得状況」「退学や中退に関する資料」、専門高校では「就職状況・就職実績」「訪問先の高校卒業生の就職・資格取得状況」「就職指導内容・サポート体制」「説明会・オープンキャンパスの情報」などが他層よりも高くなっている。

■ 高校訪問の際に提供してほしい情報（全体／複数回答）



		調査数	就職状況・就職実績	入試に関する情報（日程、種類など）	学費、学費支援関連（奨学金・教育ローン他）	分野や業界の現状や将来性に関する情報	大学や専門学校の特色ある取り組み	訪問先の高校卒業生の就職・資格取得状況	就職指導内容・サポート体制	退学や中退に関する資料
2012年：全体		1179	55.0	45.5	38.8	38.2	37.9	35.5	31.3	30.4
大短進学率別	70%以上	539	47.1	52.9	32.3	35.6	39.0	31.5	23.4	25.4
	40～70%未満	234	59.0	43.6	40.6	40.2	40.2	34.2	33.3	37.6
	40%未満	388	63.1	36.9	46.6	39.7	34.5	41.8	39.7	33.2
設置者別	国公立	879	58.0	44.3	41.1	39.1	37.0	35.3	33.4	32.2
	私立	294	45.2	49.3	32.3	35.0	40.1	35.7	24.1	25.5
高校タイプ別	普通科	865	53.4	47.7	37.2	40.0	39.1	34.2	30.2	30.8
	総合学科	83	50.6	49.4	50.6	31.3	32.5	48.2	31.3	37.3
	専門高校	137	65.7	33.6	39.4	36.5	30.7	43.1	41.6	27.0
地域別	北海道	88	59.1	38.6	42.0	44.3	40.9	38.6	31.8	29.5
	東北	122	58.2	56.6	41.8	32.8	40.2	36.9	37.7	26.2
	北関東・甲信越	136	55.9	46.3	35.3	35.3	33.1	34.6	30.1	28.7
	南関東	204	47.5	38.7	30.4	29.9	37.3	31.9	26.5	35.8
	東海	150	58.7	51.3	39.3	32.7	37.3	41.3	34.0	32.7
	北陸	28	39.3	64.3	35.7	25.0	42.9	32.1	35.7	25.0
	関西	156	54.5	41.7	35.9	39.7	31.4	35.3	28.2	30.1
	中国・四国	137	54.7	47.4	42.3	51.1	43.1	29.9	28.5	27.7
	九州・沖縄	152	57.9	42.1	49.3	46.7	40.1	37.5	34.2	30.9

※「2012年：全体」の降順ソート
※「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け



学部・学科・コースの紹介、カリキュラムの説明	資格取得状況・実績	社会全体の就職や雇用に関する情報	学部・学科・コースの新増設・改組に関する資料	説明会・オープンキャンパスの情報	キャリア教育に関する情報	大学や専門学校の学内改革について	その他	無回答	
28.8	27.1	24.3	22.6	17.1	13.4	9.7	3.1	2.5	2012年：全体
33.2	25.4	21.9	26.7	15.4	13.2	11.1	3.7	3.5	70%以上
29.5	23.9	26.5	24.4	15.8	13.7	9.8	2.6	3.0	40～70%未満
22.9	31.7	25.5	16.5	20.1	12.9	7.2	2.6	0.8	40%未満
27.9	27.3	24.1	20.9	16.8	13.0	8.5	3.0	2.3	国公立
32.0	26.5	25.2	27.9	18.0	14.6	13.3	3.4	3.1	私立
29.4	27.1	24.7	24.2	16.2	14.1	10.6	2.8	2.3	普通科
31.3	26.5	21.7	21.7	16.9	13.3	8.4	3.6	3.6	総合学科
22.6	28.5	23.4	15.3	22.6	13.1	5.1	2.9	1.5	専門高校
19.3	22.7	22.7	17.0	13.6	19.3	13.6	4.5	1.1	北海道
31.1	27.0	22.1	21.3	20.5	13.9	9.0	1.6	1.6	東北
30.9	27.2	25.7	15.4	14.7	16.2	6.6	4.4	2.2	北関東・甲信越
29.4	25.0	22.5	22.5	20.6	11.3	8.8	5.9	2.5	南関東
29.3	32.0	20.7	31.3	14.7	6.0	11.3	2.0	1.3	東海
42.9	21.4	25.0	39.3	14.3	14.3	14.3	—	7.1	北陸
24.4	22.4	25.0	21.2	16.0	13.5	11.5	1.3	3.8	関西
36.5	31.4	19.7	24.8	20.4	10.2	9.5	1.5	4.4	中国・四国
25.0	29.6	35.5	21.7	15.1	19.7	7.9	3.3	1.3	九州・沖縄

Q24-01

4）「大学・短期大学・専門学校」を招いた校内相談会実施状況

▶全体の5割を超える学校が校内相談会を実施

▶進学率[40%未満][40～70%未満]の2層では6割以上の学校が実施

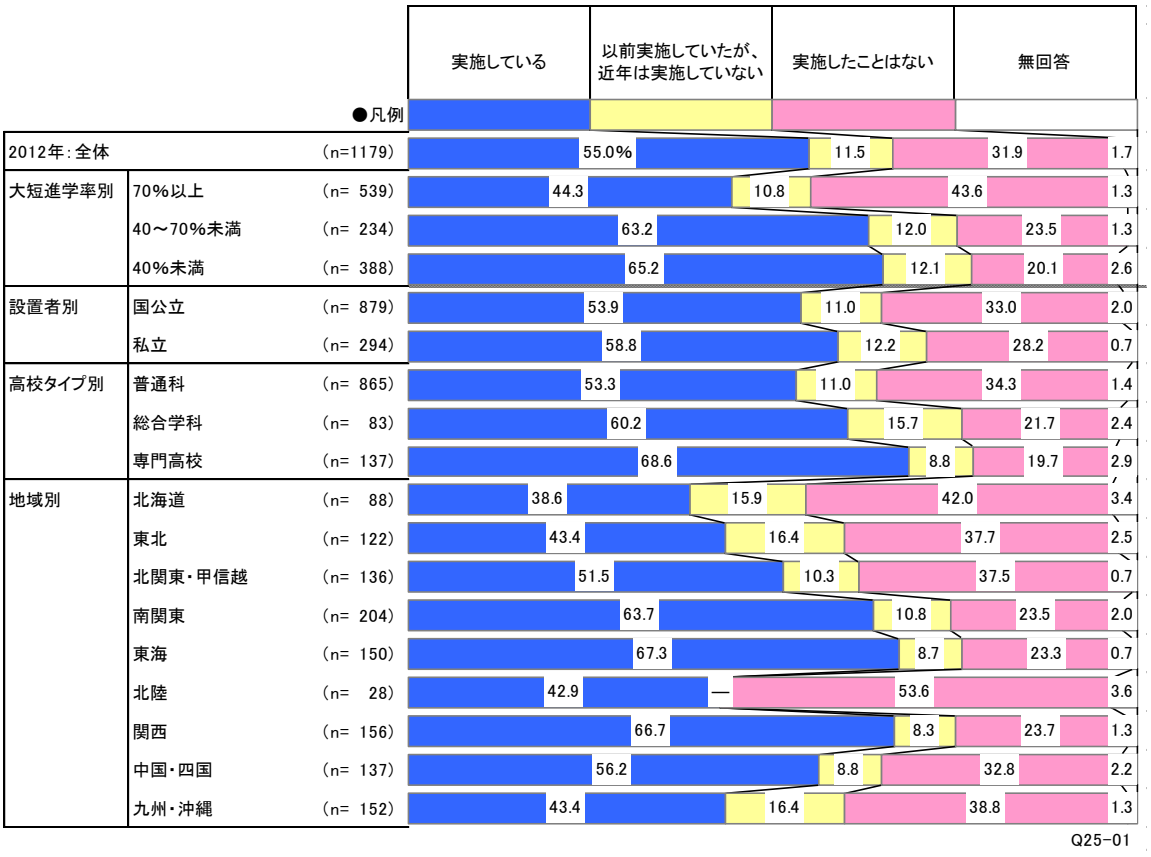
- 大学・短期大学・専門学校を招いた「校内相談会」の実施状況についてたずねたところ、全体の55%の学校が校内相談会を実施していると回答。「以前実施していたが、近年は実施していない」という過去の実施経験までを含めると全体の67%が実施したことがあると回答している。

- 大短進学率別にみると、進学率[40%未満]では65%、[40～70%未満]では63%、[70%以上]では44%と、進学率が低い学校ほど実施率が高くなっている

- 高校タイプ別にみると、最も実施率が高いのは専門高校69%。ついで総合学科60%、普通科53%。

- 地域別にみると、「実施している」が最も高いのは東海、関西（67%）。ついで南関東（64%）。反対に「実施している」割合が5割に満たないのは、北海道（39%）、北陸、東北、九州・沖縄（43%）。

■「大学・短期大学・専門学校を招いた校内相談会」実施状況（全体／単一回答）



5）「大学・短期大学・専門学校」を招いた校内相談会実施についての満足度

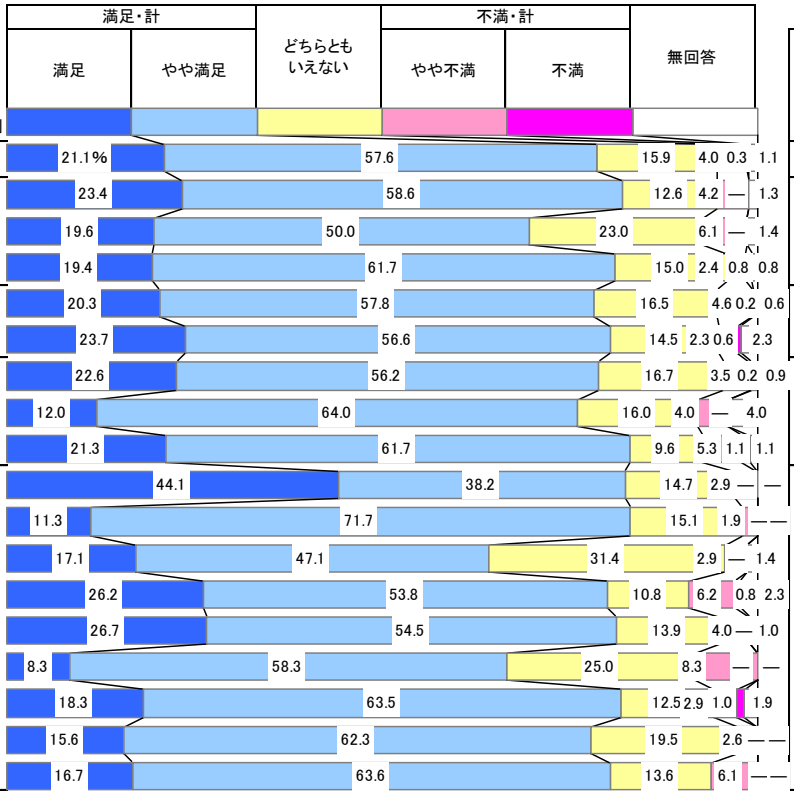
▶実施している学校の79％が“満足している（満足・計）”と回答。校内相談会の満足度は高い

- 前ページで大学・短期大学・専門学校を招いた「校内相談会」を実施していると回答した学校を対象に、その満足度についてたずねた。「満足」「やや満足」を足した「満足・計」は79％と、校内相談会を実施した学校の8割近くが満足と感じている。

- 大短進学率別にみると、進学率[40％未満][70％以上]の満足度が80％を超えているのに対し、進学率[40～70％未満]では70％と、やや満足度に差が見られた。
  - ・進学率[40～70％未満]では、「どちらともいえない」が23％と、他層に比べ高い。

- 高校タイプ別にみると、「満足・計」が最も高いのは専門高校（83％）。ついで普通科（79％）、総合学科（76％）。
  - ・総合学科は、「満足」の割合も12％と、他2層に比べ低い評価となっている。

■「大学・短期大学・専門学校を招いた校内相談会」実施についての満足度（校内相談会を実施している／単一回答）



（%）

			満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答	満足・計	不満・計
2012年：全体		(n= 648)	21.1	57.6	15.9	4.0	0.3	1.1	78.7	4.3
大短進学率別	70％以上	(n= 239)	23.4	58.6	12.6	4.2	—	1.3	82.0	4.2
	40～70％未満	(n= 148)	19.6	50.0	23.0	6.1	—	1.4	69.6	6.1
	40％未満	(n= 253)	19.4	61.7	15.0	2.4	0.8	0.8	81.0	3.2
設置者別	国公立	(n= 474)	20.3	57.8	16.5	4.6	0.2	0.6	78.1	4.9
	私立	(n= 173)	23.7	56.6	14.5	2.3	0.6	2.3	80.3	2.9
高校タイプ別	普通科	(n= 461)	22.6	56.2	16.7	3.5	0.2	0.9	78.7	3.7
	総合学科	(n= 50)	12.0	64.0	16.0	4.0	—	4.0	76.0	4.0
	専門高校	(n= 94)	21.3	61.7	9.6	5.3	1.1	1.1	83.0	6.4
地域別	北海道	(n= 34)	44.1	38.2	14.7	2.9	—	—	82.4	2.9
	東北	(n= 53)	11.3	71.7	15.1	1.9	—	—	83.0	1.9
	北関東・甲信越	(n= 70)	17.1	47.1	31.4	2.9	—	1.4	64.3	2.9
	南関東	(n= 130)	26.2	53.8	10.8	6.2	0.8	2.3	80.0	6.9
	東海	(n= 101)	26.7	54.5	13.9	4.0	—	1.0	81.2	4.0
	北陸	(n= 12)	8.3	58.3	25.0	8.3	—	—	66.7	8.3
	関西	(n= 104)	18.3	63.5	12.5	2.9	1.0	1.9	81.7	3.8
	中国・四国	(n= 77)	15.6	62.3	19.5	2.6	—	—	77.9	2.6
	九州・沖縄	(n= 66)	16.7	63.6	13.6	6.1	—	—	80.3	6.1

Q25-02

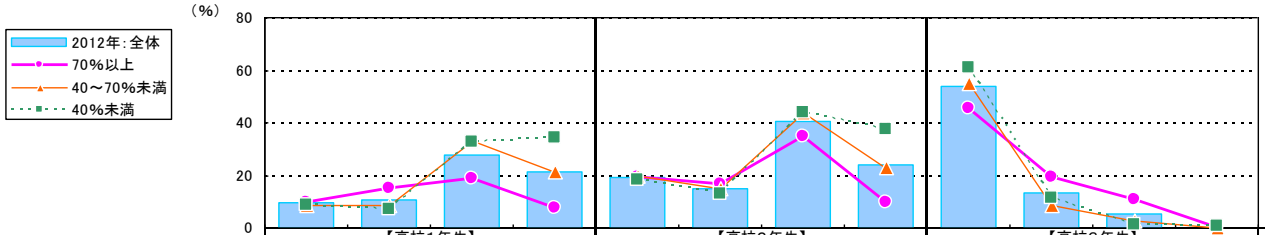
6）「大学・短期大学・専門学校」を招いた校内相談会実施時期と目的

▶外部を招いた校内相談会の実施時期として最も多いのは「高校3年生4～6月」
▶進学率[40%未満][40～70%未満]の2層では、高校1年生の秋から3割を越える実施率

- 大学・短期大学・専門学校を招いた「校内相談会」の実施時期についてたずねたところ、最も高いのは「高校3年生4～6月」54%。以下「高校2年生10～12月」40%、「高校1年生10～12月」28%とつづく。

- 大短進学率別にみると、進学率[40～70%未満][40%未満]では「高校1年生の10～12月」の実施率が3割を超えるなど早い時期での実施率が高め。反対に、進学率[70%以上]では「高校3年生7～9月」や「高校3年生10～12月」の実施率が、他2層に比べ高くなっている。

■「大学・短期大学・専門学校を招いた校内相談会」実施の時期（校内相談会を実施している／複数回答）



		調査数	高校1年生 4～6月	高校1年生 7～9月	高校1年生 10～12月	高校1年生 1月～3月	高校2年生 4～6月	高校2年生 7～9月	高校2年生 10～12月	高校2年生 1月～3月	高校3年生 4～6月	高校3年生 7～9月	高校3年生 10～12月	高校3年生 1月～3月	無回答
2012年：全体		648	9.6	10.6	27.6	21.3	19.4	14.7	40.3	23.8	54.0	13.6	5.1	0.2	0.5
大短進学率別	70%以上	239	9.6	15.1	18.8	7.5	19.2	16.7	34.7	9.6	45.6	19.2	10.9	—	0.8
	40～70%未満	148	8.8	8.8	33.1	21.6	19.6	14.9	43.9	23.0	54.7	8.8	2.7	—	0.7
	40%未満	253	8.3	7.1	32.4	34.0	18.2	12.6	43.5	37.5	60.9	11.1	1.2	0.4	—
設置者別	国公立	474	8.2	10.8	27.0	22.2	16.9	14.8	42.0	26.4	53.0	12.9	4.2	0.2	0.4
	私立	173	12.7	10.4	29.5	19.1	26.0	14.5	35.8	16.8	56.6	15.6	7.5	—	0.6
高校タイプ別	普通科	461	10.6	12.1	28.9	18.0	20.0	16.3	42.5	18.0	51.8	15.0	6.7	0.2	0.4
	総合学科	50	8.0	10.0	28.0	16.0	22.0	14.0	36.0	32.0	62.0	12.0	—	—	—
	専門高校	94	6.4	4.3	22.3	33.0	12.8	10.6	33.0	46.8	60.6	10.6	1.1	—	—
地域別	北海道	34	14.7	11.8	29.4	5.9	23.5	11.8	44.1	8.8	35.3	8.8	8.8	—	—
	東北	53	5.7	11.3	32.1	18.9	13.2	9.4	60.4	22.6	43.4	13.2	5.7	—	—
	北関東・甲信越	70	2.9	7.1	32.9	24.3	10.0	20.0	40.0	25.7	60.0	14.3	1.4	—	—
	南関東	130	8.5	7.7	24.6	13.8	23.8	11.5	40.0	19.2	61.5	9.2	6.9	0.8	0.8
	東海	101	11.9	7.9	24.8	26.7	16.8	11.9	39.6	33.7	64.4	12.9	5.9	—	—
	北陸	12	8.3	—	33.3	8.3	25.0	—	25.0	25.0	25.0	16.7	16.7	—	8.3
	関西	104	8.7	13.5	24.0	22.1	22.1	19.2	39.4	23.1	54.8	18.3	3.8	—	1.0
	中国・四国	77	7.8	18.2	39.0	20.8	16.9	18.2	45.5	16.9	40.3	13.0	5.2	—	—
	九州・沖縄	66	18.2	12.1	19.7	36.4	24.2	16.7	22.7	33.3	54.5	18.2	1.5	—	—

※「2012年：全体」の降順ソート
※「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q25-03

▶外部を招いた校内相談会の実施目的のトップは「学校研究」（78％）

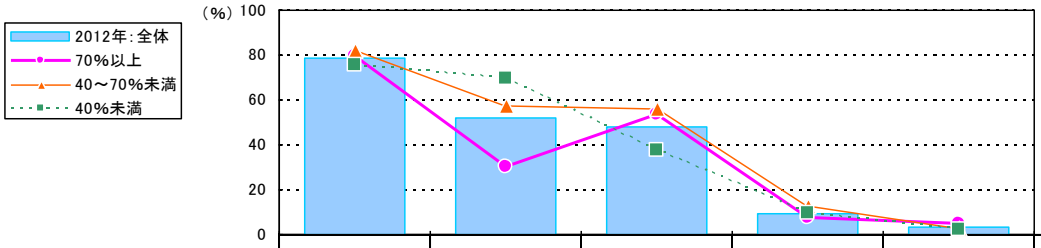
- 大学・短期大学・専門学校を招いた「校内相談会」の実施目的についてたずねたところ、「学校研究」が78%で1位となった。2位は「職業・仕事研究」52%、以下「学問研究」49%、「オープンキャンパス指導」9%となった。

- 大短進学率別にみると、進学率[40～70%未満]と[40%未満]では全体値同様に、2位「職業・仕事研究」、3位「学問研究」となっているが、[70%以上]では2位「学問研究」、3位「職業・仕事研究」と2位と3位が逆転。

- また、設置者別でみた場合も、国公立と私立を比べると、2位と3位の順位が逆になる結果となった。
  - ・国公立では「職業・仕事研究」、私立では「学問研究」が2位。

- 高校タイプ別にみると、普通科以外は全体値と同様の傾向。
  - ・普通科のみ、「学問研究」が2位。

■「大学・短期大学・専門学校を招いた校内相談会」実施の目的　（校内相談会を実施している／複数回答）



		調査数	学校研究	職業・仕事研究	学問研究	オープンキャンパス指導	その他	無回答
2012年：全体		648	78.4	51.9	47.8	9.3	3.1	0.5
大短進学率別	70%以上	239	79.5	30.1	53.6	7.1	4.6	0.8
	40～70%未満	148	81.8	57.4	56.1	12.8	2.7	—
	40%未満	253	75.5	69.2	37.5	9.1	2.0	0.4
設置者別	国公立	474	75.7	56.3	47.3	8.2	3.2	0.2
	私立	173	85.5	39.3	49.1	12.1	2.9	1.2
高校タイプ別	普通科	461	78.1	47.9	53.4	9.8	3.7	0.4
	総合学科	50	80.0	54.0	48.0	4.0	2.0	—
	専門高校	94	79.8	66.0	22.3	5.3	1.1	1.1
地域別	北海道	34	76.5	58.8	29.4	11.8	2.9	—
	東北	53	71.7	66.0	47.2	9.4	1.9	—
	北関東・甲信越	70	75.7	60.0	47.1	1.4	5.7	—
	南関東	130	85.4	42.3	50.8	11.5	3.8	0.8
	東海	101	78.2	47.5	49.5	15.8	2.0	1.0
	北陸	12	75.0	33.3	25.0	8.3	8.3	—
	関西	104	76.9	49.0	51.9	8.7	2.9	1.0
	中国・四国	77	68.8	63.6	63.6	1.3	3.9	—
	九州・沖縄	66	87.9	47.0	28.8	12.1	—	—

※「2012年：全体」の降順ソート
※「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q25-04

2. 大学の秋入学に対する評価

1)大学の「秋入学」の実施賛否とその理由

▶全体の18%が秋入学に“賛成”。“反対”(36%)が“賛成”を上回る結果

▶賛成、反対ともに、その理由のトップに「高校を卒業してから大学入学までの期間」を挙げる

- 大学の秋入学に対して、「導入に賛成」と「どちらかといえば賛成」を足した「賛成・計」が18%。「導入に反対」「どちらかといえば反対」を足した「反対・計」は36%と、「反対」が「賛成」を20ポイント近く上回る結果となった。

- 大短進学率別にみると、進学率[40%未満]のみ「賛成・計」が13%と低く、「どちらともいえない」が半数近い。残る2層は賛成、反対ともほぼ同程度の評価。

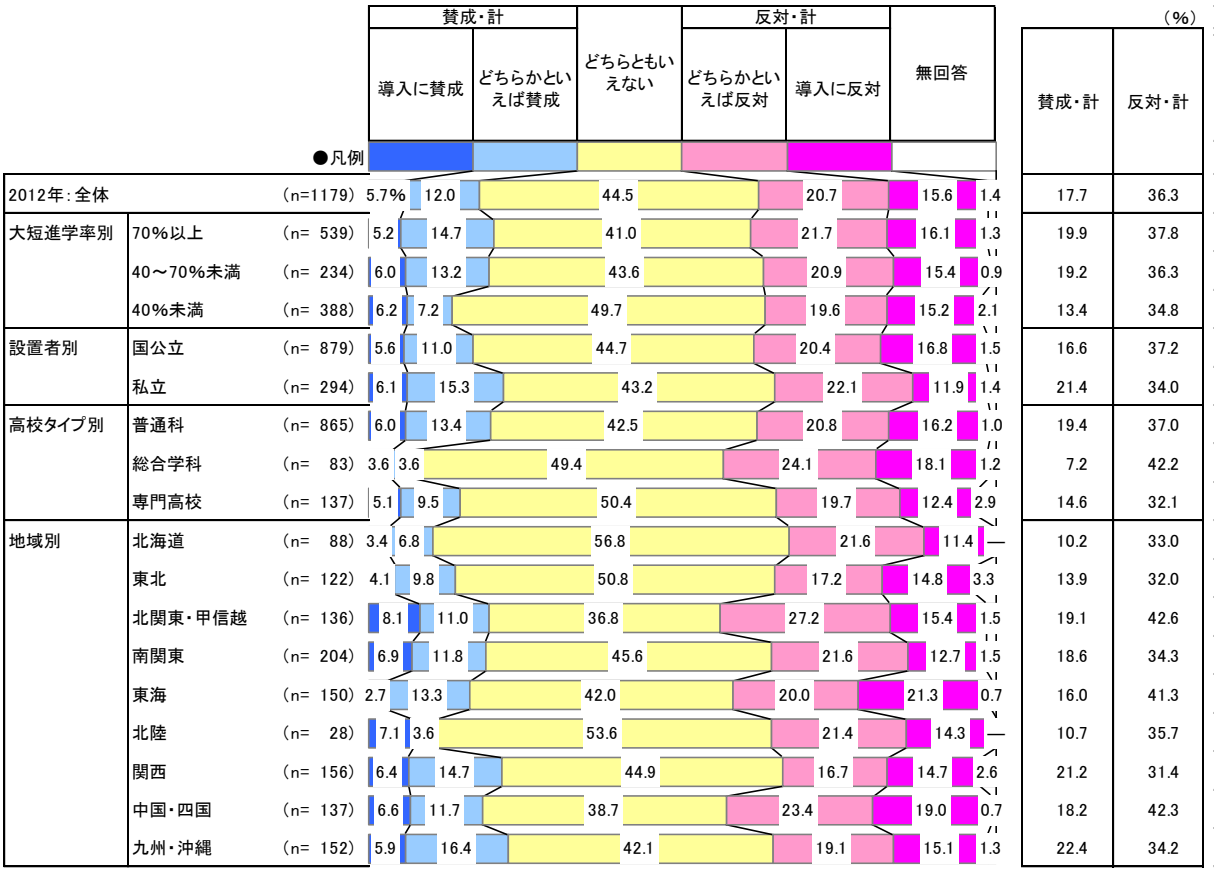
- 設置者別では、国公立よりも私立、高校タイプ別では、総合学科や専門高校よりも普通科での「賛成・計」の割合が高め。

- 次ページでは、秋入学に「賛成」と回答した理由、「反対」と回答した理由をそれぞれたずねた。その結果、秋入学に「賛成」と回答した理由で最も多かったものは「高校を卒業してから大学入学までの期間を有効に使える」が49%でトップ。逆に「反対」と回答した理由で最も多かったのは「高校を卒業してから大学入学までの期間がムダ」の69%がトップとなり、高校卒業後の半年間をどう捉えるかが評価の分かれ目となっている。

- 賛成理由について大短進学率別にみると、進学率[70%以上]では「海外からの留学生が増える」、[40～70%未満]では「海外企業への就職がしやすくなる」が、他層に比べ高くなっている。
  - ・設置者別にみると、私立では「大学の国際化が進む」が1位と全体傾向と逆転。

- 反対理由について大短進学率別にみると、進学率[40～70%未満]では「家計の負担が増える」が、他層に比べ高くなっている。

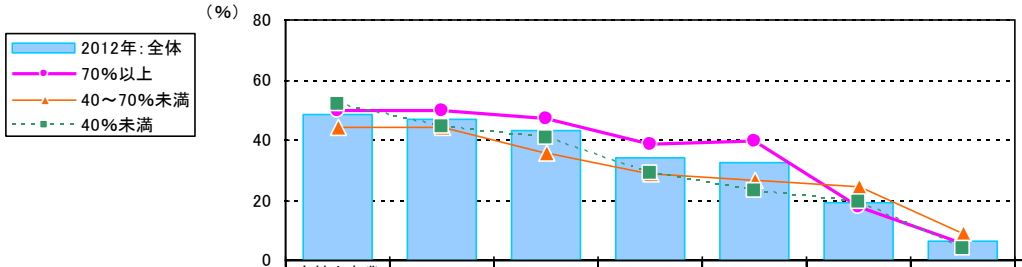
■ 大学の「秋入学」実施賛否(全体／単一回答)



			導入に賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	導入に反対	無回答	賛成・計	反対・計
2012年:全体		(n=1179)	5.7%	12.0	44.5	20.7	15.6	1.4	17.7	36.3
大短進学率別	70%以上	(n= 539)	5.2	14.7	41.0	21.7	16.1	1.3	19.9	37.8
	40～70%未満	(n= 234)	6.0	13.2	43.6	20.9	15.4	0.9	19.2	36.3
	40%未満	(n= 388)	6.2	7.2	49.7	19.6	15.2	2.1	13.4	34.8
設置者別	国公立	(n= 879)	5.6	11.0	44.7	20.4	16.8	1.5	16.6	37.2
	私立	(n= 294)	6.1	15.3	43.2	22.1	11.9	1.4	21.4	34.0
高校タイプ別	普通科	(n= 865)	6.0	13.4	42.5	20.8	16.2	1.0	19.4	37.0
	総合学科	(n= 83)	3.6	3.6	49.4	24.1	18.1	1.2	7.2	42.2
	専門高校	(n= 137)	5.1	9.5	50.4	19.7	12.4	2.9	14.6	32.1
地域別	北海道	(n= 88)	3.4	6.8	56.8	21.6	11.4	—	10.2	33.0
	東北	(n= 122)	4.1	9.8	50.8	17.2	14.8	3.3	13.9	32.0
	北関東・甲信越	(n= 136)	8.1	11.0	36.8	27.2	15.4	1.5	19.1	42.6
	南関東	(n= 204)	6.9	11.8	45.6	21.6	12.7	1.5	18.6	34.3
	東海	(n= 150)	2.7	13.3	42.0	20.0	21.3	0.7	16.0	41.3
	北陸	(n= 28)	7.1	3.6	53.6	21.4	14.3	—	10.7	35.7
	関西	(n= 156)	6.4	14.7	44.9	16.7	14.7	2.6	21.2	31.4
	中国・四国	(n= 137)	6.6	11.7	38.7	23.4	19.0	0.7	18.2	42.3
	九州・沖縄	(n= 152)	5.9	16.4	42.1	19.1	15.1	1.3	22.4	34.2

Q21-01

■ 大学の「秋入学」実施賛否理由（「賛成・計」ベース／複数回答）

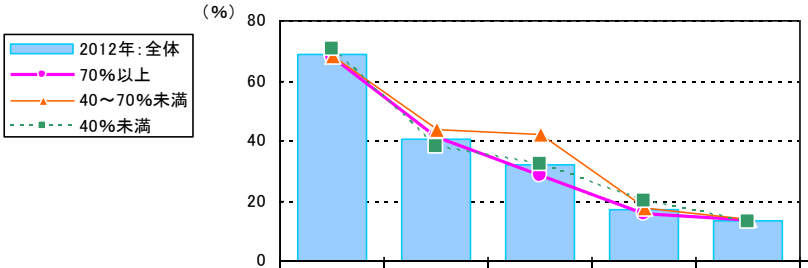


		調査数	高校を卒業してから大学入学までの期間を有効に使える	大学の国際化が進む	留学やボランティアの機会が増える	日本の競争力が向上する	海外からの留学生が増える	海外企業への就職がしやすくなる	その他	無回答
2012年：全体		209	48.8	46.9	43.1	34.0	32.5	19.1	6.2	0.5
大短進学率別	70%以上	107	49.5	49.5	46.7	38.3	39.3	17.8	5.6	0.9
	40～70%未満	45	44.4	44.4	35.6	28.9	26.7	24.4	8.9	—
	40%未満	52	51.9	44.2	40.4	28.8	23.1	19.2	3.8	—
設置者別	国公立	146	49.3	43.2	42.5	32.9	30.1	19.9	6.8	0.7
	私立	63	47.6	55.6	44.4	36.5	38.1	17.5	4.8	—
高校タイプ別	普通科	168	50.6	47.6	45.2	33.9	32.7	17.9	6.0	0.6
	総合学科	6	66.7	16.7	66.7	33.3	33.3	—	—	—
	専門高校	20	35.0	50.0	45.0	45.0	40.0	40.0	—	—
地域別	北海道	9	66.7	55.6	55.6	11.1	22.2	22.2	—	—
	東北	17	52.9	35.3	35.3	29.4	29.4	23.5	5.9	—
	北関東・甲信越	26	34.6	42.3	26.9	34.6	30.8	30.8	7.7	—
	南関東	38	36.8	44.7	44.7	34.2	36.8	15.8	10.5	2.6
	東海	24	58.3	25.0	45.8	20.8	25.0	12.5	20.8	—
	北陸	3	66.7	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	—	—
	関西	33	54.5	45.5	42.4	30.3	33.3	12.1	3.0	—
	中国・四国	25	44.0	56.0	36.0	40.0	36.0	24.0	—	—
	九州・沖縄	34	55.9	67.6	58.8	47.1	35.3	17.6	—	—

※「2012年：全体」の降順ソート
※「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q21SQ-02

■ 大学の「秋入学」実施賛否理由（「反対・計」ベース／複数回答）



		調査数	高校を卒業してから大学入学までの期間がムダ	高校在籍中の進路指導が難しくなる	家計の負担が増える	社会に出るのが遅れる	その他	無回答
2012年：全体		428	68.7	40.4	32.0	17.3	13.1	3.7
大短進学率別	70%以上	204	67.6	41.2	28.4	15.7	13.2	3.9
	40～70%未満	85	68.2	43.5	42.4	17.6	14.1	2.4
	40%未満	135	70.4	37.8	31.9	20.0	12.6	3.7
設置者別	国公立	327	69.1	38.5	33.0	16.8	12.8	4.3
	私立	100	67.0	47.0	29.0	19.0	14.0	2.0
高校タイプ別	普通科	320	67.2	40.3	31.9	17.2	13.1	4.4
	総合学科	35	80.0	37.1	31.4	20.0	8.6	—
	専門高校	44	72.7	40.9	40.9	15.9	18.2	2.3
地域別	北海道	29	51.7	44.8	24.1	6.9	10.3	13.8
	東北	39	74.4	38.5	35.9	12.8	15.4	2.6
	北関東・甲信越	58	74.1	29.3	37.9	20.7	6.9	1.7
	南関東	70	67.1	41.4	24.3	21.4	14.3	4.3
	東海	62	75.8	45.2	30.6	19.4	12.9	3.2
	北陸	10	60.0	40.0	50.0	10.0	20.0	10.0
	関西	49	61.2	55.1	42.9	12.2	14.3	2.0
	中国・四国	58	70.7	37.9	31.0	20.7	12.1	5.2
	九州・沖縄	52	67.3	34.6	26.9	17.3	17.3	—

※「2012年：全体」の降順ソート
※「2012年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q21SQ-03

2)「秋入学」と大学の国際化に対する考え

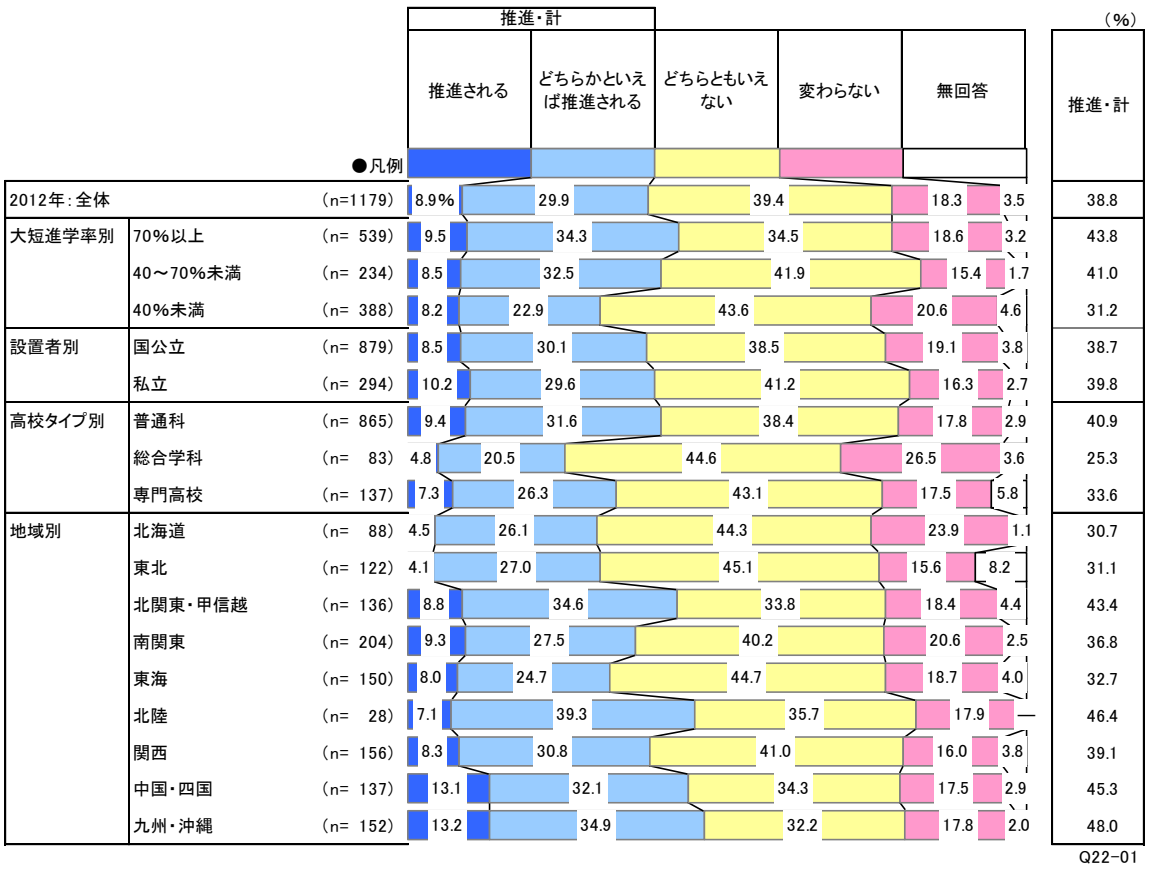
▶秋入学が導入された場合、「大学の国際化は推進される」と思う割合は4割弱
▶「変わらない」が18%

- 「秋入学」は、大学の国際化を推進させるかをたずねた。「推進される」9%と「どちらかといえば推進される」30%を足した「推進・計」は39%となり、「変わらない」18%を20ポイント以上上回った。

- 大短進学率別にみると、進学率の高い学校の方が「推進・計」の割合が高くなる傾向。

- 高校タイプ別にみると、「推進・計」の割合が最も高かったのは普通科（41%）。
  - ・専門高校は34%、総合学科では25%と、タイプによる違いが大きい。

■「秋入学」が推進された場合、大学の国際化は推進されるか（全体／単一回答）



【フリーコメント⑪】秋入学の導入と大学の国際化についての見通し

【推進される／どちらかといえば推進される】

▶留学が双方向で活発化

- 海外の学生にとって日本の大学が選択肢の一つになり、日本の大学側も海外からの学生の取り込みを図って様々な方策を練るであろうから(四国/普通)
- 留学生の受け入れが可能となる。高校在学中に留学し、留学先での単位確定を受けた生徒の受験が可能となり、学力のある生徒が大学に入学しやすくなる(南関東/普通)
- 国内外の留学生が増加すると考えられる。海外の大学との連携行事も行いやすくなる(東海/普通)

▶国際基準に足並みが揃う

- 大学のカリキュラム等が国際基準になり、大学＝日本の学生のための大学ではなくなっていくと思うから(九州・沖縄/普通)
- 始業の時期が国際標準になれば国際的な連携も推進されると思うので(北関東/その他)
- 世界的な規模で考えれば9月入学は多数派だから(東海/普通)

▶今の高校生にとってよい刺激

- 日本の若者は内的指向だと言われ外との交流を避ける傾向にある。「秋入学」により、海外より多くの若者が日本で学び、日本に刺激を与えてくれることを大いに期待する(関西/普通)
- 海外からの入学生と同じステージで進むことが出来、人的ネットワークや視野の拡大に有効だから(南関東/普通)

【どちらともいえない】

▶海外からの留学生は増えるかもしれないが・・・

- 留学生は増えると思うが、日本人学生で留学する者が増えるかどうかは分からない(中国/普通)
- 大学への海外からの留学生は増加するとは思うが、日本の高校生にとってのメリットをあまり感じない(四国/普通)

▶全ての大学にいえることではない

- 一部の有名大学では期待できるが、全ての大学ではない(北関東/普通)
- 一部の大学だけではなく、全大学、もっと言うと幼、保、小、中、高の日本の教育全体が足並みをそろえないと、推進されないのではないかと思います(南関東/普通)

▶国際化の定義や考え方に疑問

- 大学のみが国際化してもその前段階の高校・中学や出た後の社会（企業など）が今までどおり春をスタートする「年度」で動いていくのであれば、混乱が増えるデメリットの方が多いと思う。日本の社会全体のサイクルを変えないと真の国際化はきびしい。多分大学がその牽引役をやろうとしているのだろうが現状は強引すぎる(南関東/普通)
- 「国際化」とは、学生が交流すれば良いのか？そうとも考えられない(北関東/普通)
- 入学時期が変わっただけで「国際化」が進むものではない。留学生にとっては便利であろうが、他組織が春から始まる方針をつづけているのに大学のみ秋から始めてみても不便が多くなるだけ(南関東/その他)

【変わらない】

▶入学時期を変えるだけではダメ

- 問題は、学生や大学の質であって、意欲や内容の変化がなければ、制度を変えてもあまり利益はない(中国/普通)
- 入学までに相当な課題がなければ学生は勉強から離れ、更なるレベル低下が見込まれる。海外からの留学は増えても、日本からの留学は増えない(南関東/普通)
- 日本の学生の留学については入学時期は関係ない（家計、意欲の問題）。むしろ、春入学の方が半年間語学力向上等の準備に使えるのではないか(九州・沖縄/普通)
- 日本の大学そのものの魅力がなければ世界から集まることは期待できない(北関東/普通)

▼本調査に関するお問い合わせ▼

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ　リクルート進学総研
http://souken.shingakunet.com/souken/2010/07/enquiry.html

※　出版・印刷物等へデータ記載する際には、“㈱リクルートマーケティングパートナーズ調べ”と明記していただきますようお願い申し上げます。

※　この調査結果については、キャリア教育専門誌『キャリアガイダンスNo45』（リクルート）にも掲載しています。